

目 次

I.	教育課程について カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	2
II.	単 位	6
III.	成績評価基準	6
IV.	履修科目単位内訳表	7
V.	コースの概要	8
VI.	服飾学部服飾学科カリキュラム表	15
VII.	履修の方法	21
VIII.	教職課程について	25
IX.	学芸員課程について	31
X.	授業計画	39

本学の教育課程は、学則第2条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 15 頁の服飾学部服飾学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー（教育方針）

本学の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1年次では共通の初年次教育課程と2、3、4年次で6つのコースに分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって芸術性・技術力、ビジネス基礎力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力をもった専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は8単位以上、それ以外の科目で26単位以上の履修を要求しています。また1年次生には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で4年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については3、4年次での受講も可能にし、服飾業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。共通必修科目の中核科目としてファッション・フィールドリサーチ、服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通・商業入門、ファッションビジネス概論があり、これらを全員に履修を義務付け、服飾造形に関する基礎的な技術とファッションビジネスに関する基礎的な知識を全学生が共通に修得することとしています。これが本学の初年次教育課程の特徴です。

専門教育課程では、モードテクノロジー系の4つのコースとファッションビジネス系の2つのコースに分かれて、各コースごとに独自の必修科目（35単位～38単位）を設定しています。ファッションビジネス系の2年次では、2つのコースの専門基礎必修科目は共通していますが、各コースの教育目的と目標が異なり、基礎以外はそれぞれの専門に特化した授業が展開されます。

各コースの教育目的と目標を達成するために必要な必修科目をコースごとに17科目ないし20科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程でコースの必修科目を履修することによって、各コースの目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程のコース別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

入学時にモードテクノロジー系のコースを志望するクラスとファッションビジネス系のコースを志望するクラスに分かれて1年間初年次教育課程の教育を受けますが、その間に服飾造形系とビジネス系の基礎科目で17単位を両系共通の必修科目として履修します。これによって、ビジネスの基礎を知るモードテクノロジーの専門家と服飾造形の基礎を知るファッションビジネスの専門家の素地を培うこととしています。さらに初年次で系ごとに共通の専門基礎必修科目2単位と2年次で専門教育課程のコースに進学した後、モードテクノロジー系の各コースでは10単位、ファッションビジネス系の各コースでは7単位の共通の専門基礎必修科目を履修します。

2年次から4年次までの専門教育課程では、コースごとに専門必修科目35単位ないし38単位の履修を求めています。この専門必修科目は、ファッションビジネス系の2年次では、2つのコースの科目は共通していますが、これ以外は各コース間で同一の必修科目はありません。

さらにコースごとに23単位から29単位の専門選択科目の履修を求めています。以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて90単位を履修することでコース別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目34単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目34単位と専門科目90単位の合計**124単位**を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 コース別教育目的と目標

コース名	目的	目標
①モードクリエイションコース	服飾造形表現に必要とされる知識・技術・感性を修得し、イメージを的確に造形として表現・判断できる能力の育成を目的とする。	ファッション産業の現場で活躍できるデザイナー、パタンナー、縫製技術士などの人材育成を目標とする。
②インダストリアルパターンコース	ファッションの色や素材、人体におけるサイズ等を最も良い状態へ改良しながら個々の人体に対応して、パターン開発できる能力の育成を目的とする。	3D 計測器を使用した人体計測およびアパレル CAD による個々の人体に対応したパターン開発が提案できるパタンナーの人材の育成を目標とする。
③テキスタイルデザインコース	服飾の原材料や素材を理解し、表現技法の修得によってテキスタイルデザイン、設計をもとに自由にテキスタイル作品の制作ができる能力、またニットにおいてはニット CAD システムによるニット作品の制作ができる能力を育成することを目的とする。	創造的なテキスタイルデザイン・設計を通してイメージ通りに表現したテキスタイル作品を制作できる能力によって、ファッション業界において織物デザイナー、ニットデザイナー、プリントデザイナーとして活躍できる人材の育成を目標とする。
④ファッションプロダクトデザインコース	ファッションプロダクトの分野でアイデアを創出する豊かな発想力並びにそのアイデアを具体的な形にする造形力と実際に制作する技術力の育成を目的とする。	バッグ、帽子、アクセサリ、シューズ等ファッション関連製品のデザインなど、プロダクトデザイナーとして広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする。
⑤ファッションビジネス・マネジメントコース	ファッションビジネスにかかわる企画創作能力・企画作成技術力・プレゼンテーション能力の育成を目的とする。	ファッションビジネスを企画・提案でき、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けたマーチャンダイザー等の CCO（チーフクリエイティブオフィサー）となる人材の育成を目標とする。
⑥ファッションビジネス・流通イノベーションコース	SPA（製造小売業）、オムニチャネル（統合販売）など変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と課題解決力などの能力の育成を目的とする。	店舗販売とネット販売の併合した事業運営などファッション流通イノベーションを推進する CMO（チーフマーケティングオフィサー）となる人材の育成を目標とする。

アセスメントポリシー（学修[教育]成果測定の指標）

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は5つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- *専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

IV.履修科目単位内訳表

(大学2023年度生)

		修得単位数					
		モードテクノロジー系				ファッションビジネス系	
共通専門基礎必修科目	1年次	17					
	2年次	7					
系別専門基礎必修科目	1年次	4				4	
	2年次	3				0	
コース別専門必修科目		モード 37	インダストリアル 37	テキスタイル 38	プロダクト 35	マネジメント 39	イノベーション 37
	2年次	14	16	12	12	13	
	3年次	14	14	17	14	16	16
	4年次	9	7	9	9	10	8
専門選択科目		22	22	21	24	23	25
専門科目合計		90単位					
教養科目	初年次 キャリア	必修	10				
	一般 体育 国際関係	選択	16				
	外国語	選択必修	8				
教養科目合計		34単位					
総合計		124単位					

■【進級条件】

各学年開講必修科目は、原則全て修得すること。

1年次の共通必修(服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通商業入門、ファッションビジネス概論、ファッション・フィールド・リサーチ、衣服材料学、ファッション画Ⅰ・Ⅱ、ドローイングⅠ)17単位とその他の科目で36単位以上修得しない場合には、2年次のコースに原則進めない。

■【卒業制作・論文履修条件】

1・2年次の必修科目を修得していない場合には、原則コースの専門応用・【卒業制作・論文】を履修できない。

V. コースの概要

モードクリエーションコース

世界に通用するクリエイターを目指し、服飾造形表現に必要とされる知識・技術そして豊かな感性をはぐくみ、イメージしたデザインを服飾造形作品として表現する力と、作品を正しく評価・判断する力、自分の作品をプレゼンする能力を育てていきます。

このコースでは、各自の様々なイメージを的確にとらえ、服飾造形作品として具現化できる能力を修得するために、デザイン考案とデザイン表現テクニック、ドレーピングやパターンメイキング、服飾造形テクニック等を学び、それらを総合して作品を制作する授業を中心としています。特にモードデザインやアパレルCADなど、アパレル業界で活かせる授業によって編成されています。各自の学習の成果はポートフォリオや産学コラボレーション、各種コンテストへの参加で確認することができます。

卒業後は、クリエイター、デザイナー、パターンメーカー、モデリスト、縫製技術者などを目指します。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 ファッション史 服飾デザイン概論	〈実験・実習〉 ドレーピング&パターンメイキング I ドレーピング&パターンメイキング II
〈実験・実習〉 モードクリエーション I モードクリエーション II	モードデザイン I 装飾技法
3 年次	
〈演習〉 アパレル CAD I アパレル CAD II	〈実験・実習〉 ドレーピング&パターンメイキング III ドレーピング&パターンメイキング IV
〈実験・実習〉 モードクリエーション III モードクリエーション IV	モードデザイン II モードデザイン III
4 年次	
〈演習〉 モードデザイン IV	〈実験・実習〉 卒業制作 I (モード) 卒業制作 II (モード)

V. コースの概要

インダストリアルパターンコース

インダストリアルパターンコースは、衣服を理解するために人体を学び、パターンを素材に連動させる役目であるパタンナー（モデリスト）を育成するコースです。3次元計測システムおよび着装シミュレーションを使って、人体における動きを論理的に分析し、快適な衣服設計を行います。工業パターンの制作をCADで行い、1/2大で作品を制作し、様々な素材に適合するパターンを修得します。人体設計、体型分類、サイズ設定など一連の技術を身につけた上で、現代ファッションに即した色彩やコンセプトを考案し、イメージしたデザインを的確に表現できるように学習するコースです。卒業制作はファッションショー形式で行い、各自のコレクションを発表します。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 人体工学設計技術 I 人体工学設計技術 II	〈実験・実習〉 インダストリアルパターン I インダストリアルパターン II
〈演習〉 感性産業デザイン I 感性産業デザイン II	CG デザイン I CG デザイン II
3年次	
〈演習〉 CAD&3D 演習 I CAD&3D 演習 II 感性産業 CAD I 感性産業 CAD II	〈実験・実習〉 インダストリアルパターン III インダストリアルパターン IV CG デザイン III CG デザイン IV
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作 I (インダストリアルパターン) 卒業制作 II (インダストリアルパターン)	

V. コースの概要

テキスタイルデザインコース

本コースでは繊維を知ることから始まり、糸や布を使ってオリジナルテキスタイル作品を制作します。その過程でデザイン考案、設計理論、制作プロセス、技術を身につけ制作を軸とした科目設定によって、テキスタイルエキスパートの育成を目指しています。具体的には織物、ニット、染色、フェルティングなどの表現技法を学び、制作を通して学修する教育システムを実施しています。

ファッションデザインが同じでも素材が異なれば多様なファッションを提案することも可能です。素材の基礎をしっかりと学び、アパレルテキスタイルの提案、アート作品の提案など、自由な発想で「テキスタイルデザイン・作品」が提案できる人材の育成をしていきます。

目標・・・テキスタイルデザイナー、プリントデザイナー、ニットデザイナー、テキスタイルプランナーの育成

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 素材設計論 I 素材設計論 II	〈実験・実習〉 テキスタイルデザイン I テキスタイルデザイン II ダイイングテクニック I ダイイングテクニック II
3 年次	
〈演習〉 ニッティング I ニッティング II プリントデザイン演習 I プリントデザイン演習 II 画像表現演習 I 画像表現演習 II	〈実験・実習〉 テキスタイルデザイン III テキスタイルデザイン IV ダイイングテクニック III ダイイングテクニック IV 素材分析実験
4 年次	
〈演習〉 テキスタイルデザイン V	〈実験・実習〉 卒業制作 I (テキスタイル) 卒業制作 II (テキスタイル)

V. コースの概要

ファッションプロダクトデザインコース

ファッションプロダクトデザインコースでは、現代の社会的なニーズに対応し、ファッションプロダクト製品のデザイン、商品企画、トレンド情報発信、制作に関わる人材の育成を目指すカリキュラム編成となっています。2年次ではファッションプロダクトデザインの基礎課程と位置づけています。デザインの発想法、描画による表現訓練、製図、デザインモデルの制作技法、素材の特性と制作技術、アイデアを具体的な形にする造形能力を訓練する科目の設定になっています。その他リサーチの目的と分析結果の検証など、本コース3年間の教育課程を通じ核となる学修を行います。

卒業制作では、2・3年次に学んだ事を更に発展させ、作品制作を行います。デザインの対象をより幅広く設定しアイデアを産み出す発想力を鍛え、機能性、装飾性、トレンド性など様々な要素を基に製品化を目指し実物の制作を行う科目の設定となっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 ファッションプロダクトデザイン論	〈演習〉 アクセサリーデザイン
〈演習〉 ファッションプロダクトデザイン I ファッションプロダクトデザイン II デザインプロセス	〈実験・実習〉 プロダクトデザイン演習 I デジタルデザインワーク I デジタルデザインワーク II
3年次	
〈演習〉 ファッションプロダクトデザイン III ファッションプロダクトデザイン IV プロダクトデザイン演習 II	〈実験・実習〉 ファッションプロダクトデザインゼミ マテリアル実習 I (金属) マテリアル実習 II (金属) デジタルデザインワーク III
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作 I (プロダクト) 卒業制作 II (プロダクト)	

V. コースの概要

ファッションビジネス・マネジメントコース

このコースの目標は、ファッションビジネスにおける国際的なファッションリーダーの養成です。そこで必要なのは、1) ファッションデザインのセンス、創造力、感性、企画・思考技術、2) 高度知識、コンピューターによる情報収集・発信・分析・判断能力、3) ファッションビジネス・マネジメント能力です。これら3つの観点から、高い「志」を持ち、「夢と希望」に向かってファッション界に貢献できる人材の養成を目指しています。以上3つのコンセプトを融合してファッション業界において新しい価値観を持った考え方がこのコースのスタンスです。

ファッションビジネス・マネジメントコースでは、ファッションビジネスの企画・提案を行い、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けた人材を育成することを目的としたカリキュラム編成となっています。まず2年次では講義を中心に、専門的な基礎知識を学びます。次に3年次では、ファッション・アパレルメーカーでのファッションブランド戦略の現況、商品開発、生産、小売業、店頭販売、それらを展開したグローバル・ビジネスなどを講義形式で学び、さらに特徴的な授業形態として、産学コラボレーションをあげることができます。学生達がグループでバーチャルカンパニーを設立し、自社ブランドを立ち上げ、マーケティング活動、企画立案、新製品（商品）提案、デザイン開発、生産、販売までの一気通貫を企画・提案することを学習します。4年次においては、3年次に学んだことをアカデミックに探究し、企業研究を課題①として調査、分析、考察し、さらに学士論文を課題②として、卒業課題としています。それらの過程において、理論（講義）と実践（ファッションの現場で実学を重視した）、企業間との連携（産学連携によるプロジェクトやバイヤーでの体感実習）による、両面で実務型（実践力）の育成ができるカリキュラム編成になっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 消費者行動論Ⅰ 企業会計入門 グローバルマネジメント特論Ⅰ ファッションマーケティング論	〈演習〉 ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアルⅠ プレゼミ(マネジメント)
3年次	
〈講義〉 ブランド・マネジメント論 P.R, マネジメント論 新製品(商品)開発論 生産管理論 バイヤーの実践学	〈講義〉 リテールマーチャンダイジング 〈演習〉 「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ 「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ
4年次	
〈講義〉 グローバルマネジメント特論Ⅱ 店舗開発マネジメント論 ファッションMD評価システム	〈演習〉 卒業論文Ⅰ(マネジメント) 卒業論文Ⅱ(マネジメント)

V. コースの概要

ファッションビジネス・流通イノベーションコース

このコースは商学・マーケティングの理論を中心に、新しいファッションビジネスのあり方を学びます。イノベーションとは革新の意味です。ファッション産業はとりわけ変化の激しい業界で、SPA（製造小売業）業態への転換の時代を経て、スマートフォンなどで買い物をするネットビジネスが伸びてきました。今後はリアル店舗とネット販売の融合を考えた「オムニチャネル」が重要になってきます。そうした変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と、デジタルマーケティングの知識を使った能力の育成を目標とします。

ユビキタス社会（ネットでいつでも、どこにも、誰とでもつながる）の到来、グローバル化、企業のIoT化、AI（人工知能）の導入などで「働き方」「職種」も大きく変わってきました。コース専門科目では写真の編集やネットビジネスで対応できる文章表現などの実際を学んだ後、メディアやSNS、ファッションアプリなどに特化したファッション流通関連企業への就職、あるいは仲間同士や個人でネットショップを開くことを目指します。

ファッションビジネスでこれから発展するであろう「ファッション・テック」（ファッション×テクノロジー）の実践を体験する授業も行います。新しいテクノロジーを活用した販売方法を考えながら、どのようにしたらファッション製品やサービスが消費者の期待に沿えるのか、売れるのか、心理的作用や行動原則を考え、さらに顧客満足の考え方、顧客とのエンゲージメントを築くことを中心に学ぶゼミ方式が特徴です。最終目標は卒業論文の執筆ですが、コースで学ぶ新しいファッション・マーケティングを理解することは、社会においてもコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の基本となります。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	〈演習〉 ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(イノベーション)
3 年次	
〈講義〉 消費者行動論 II 現代流通論 流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド) グローバルマーケティング特講 フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	〈演習〉 ファッションエディトリアル II 流通イノベーションゼミ I 流通イノベーションゼミ II
4 年次	
〈講義〉 顧客関係論 ファッションテック論	〈演習〉 卒業論文 I (イノベーション) 卒業論文 II (イノベーション)

VI.服飾学部服飾学科カリキュラム表

(2023年度生)大-1

授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考		
	講 義	演 習	実 習	卒業を目的とするもの											前 期	後 期			
				コース別必修															
				モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス					フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	選 自
服飾造形基礎Ⅰ	3			○													1	6	
服飾造形基礎Ⅱ	3			○													1	6	
流通・商業入門	2			○													1	2	
ファッションビジネス概論	2			○													1	2	
ファッション・フィールド・リサーチ	1			○													1	2又	は2
衣服材料学	2			○													1	2又	は2
西洋服飾文化史	2			○													1	2又	は2
ファッション画Ⅰ	1			○													1	2	
ファッション画Ⅱ	1			○													1	2	
色彩演習	2				○	○	○	○					○				1	2又	は2
ドローイングⅠa	2				○	○	○	○									1	4又	は4
ドローイングⅠb	2								○	○							1	4又	は4
経営学入門	2								○	○	○						1	2又	は2
日本服飾文化史	2			○													2	2又	は2
アパレル素材論	2			○													2	2又	は2
色材演習	1			○													2	2又	は2
マーケティング・データサイエンス論	2			○													2	2又	は2
現代ファッション論	2				○	○	○	○									2	2又	は2
CADパターンメイキング	1				○	○	○	○									2	2又	は2
計	20	15	0																
専門科目(服飾関係)必修科目については、テクノロジー系については31単位、ファッションビジネス系については28単位を修得すること 1年次で必修科目を含む36単位以上取得しないと2年次のコース科目は履修出来ません																			
モードクリエイションⅠ			3	○													2	9	
モードクリエイションⅡ			3	○													2	9	
ドレーピング&パターンメイキングⅠ			1	○													2	3	
ドレーピング&パターンメイキングⅡ			1	○													2	3	
モードデザインⅠ			1	○													2	3	
服飾デザイン概論	2			○													2	2	
装飾技法			1	○													2	3	
ファッション史	2			○									○				2	2又	は2
モードクリエイションⅢ			4	○													3	12	
モードクリエイションⅣ			4	○													3	12	
ドレーピング&パターンメイキングⅢ			1	○													3	3	
ドレーピング&パターンメイキングⅣ			1	○													3	3	
モードデザインⅡ			1	○													3	3	
モードデザインⅢ			1	○													3	3	
アパレルCADⅠ	1			○													3	2	
アパレルCADⅡ	1			○													3	2	
モードデザインⅣ	1			○													4	2	
卒業制作Ⅰ(モード)			4	○													4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業制作Ⅱ(モード)			4	○													4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
インダストリアルパターンⅠ			2		○												2	6	
インダストリアルパターンⅡ			2		○												2	6	
感性産業デザインⅠ			3		○												2	6	
感性産業デザインⅡ			3		○												2	6	
CGデザインⅠ			1		○												2	3	
CGデザインⅡ			1		○												2	3	
人体工学設計技術Ⅰ	2				○												2	2	
人体工学設計技術Ⅱ	2				○												2	2	
インダストリアルパターンⅢ			2		○												3	6	
インダストリアルパターンⅣ			2		○												3	6	
CGデザインⅢ			1		○												3	3	
CGデザインⅣ			1		○												3	3	
CAD&3D演習Ⅰ	1				○												3	2	
CAD&3D演習Ⅱ	1				○												3	2	
感性産業CADⅠ	3				○												3	6	
感性産業CADⅡ	3				○												3	6	
卒業制作Ⅰ(インダストリアル)			3		○												4	9	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業制作Ⅱ(インダストリアル)			4		○												4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可

授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考
	講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの											前 期	後 期	
				コース別必修					選 自	職 業 課 程	学 芸 員 課 程						
				モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト				フ ・ ア 流 ツ シ ョ ン ノ ベ ー ジ シ ョ ン					
服	テキスタイルデザインⅠ		2			○											2
	テキスタイルデザインⅡ		2			○									2		6
	ダイニングテクニクⅠ		2			○									2	6	
	ダイニングテクニクⅡ		2			○									2		6
	素材設計論Ⅰ	2				○									2	2	
	素材設計論Ⅱ	2				○									2		2
	テキスタイルデザインⅢ		2			○									3	6	
	テキスタイルデザインⅣ		2			○									3		6
	ダイニングテクニクⅢ		2			○									3	6	
	ダイニングテクニクⅣ		2			○									3		6
	ニットデザインⅠ	2				○									3	4	
	ニットデザインⅡ	2				○									3		4
	プリントデザイン演習Ⅰ	1				○									3	2	
	プリントデザイン演習Ⅱ	1				○									3		2
	素材分析実験		1			○									3		3
	画像表現演習Ⅰ	1				○									3	2	
	画像表現演習Ⅱ	1				○									3		2
	テキスタイルデザインⅤ	1				○									4	2	
	卒業制作Ⅰ(テキスタイル)		4			○									4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業制作Ⅱ(テキスタイル)		4			○									4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
門	ファッションプロダクトデザイン論	2				○									2	2	
	ファッションプロダクトデザインⅠ	2				○									2	4	
	ファッションプロダクトデザインⅡ	2				○									2		4
	デザインプロセス	1				○									2	2	
	アクセサリーデザイン	1				○									2		2
	デジタルデザインワークⅠ		1			○									2	3	
	デジタルデザインワークⅡ		1			○									2		3
	プロダクトデザイン演習Ⅰ	2				○									2		4
	ファッションプロダクトデザインⅢ	4				○									3	8	
	ファッションプロダクトデザインⅣ	4				○									3		8
	ファッションプロダクトデザインゼミ		1			○									3	3	
	マテリアル実習Ⅰ(金属)		1			○									3		3
	マテリアル実習Ⅱ(金属)		1			○									3		3
	プロダクトデザイン演習Ⅱ	2				○									3	4	
	デジタルデザインワークⅢ		1			○									3	3	
	卒業制作Ⅰ(プロダクト)		4			○									4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業制作Ⅱ(プロダクト)		5			○									4	15	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
科	消費者行動論Ⅰ	2						○	○						2		2
	ビジネスプレゼンテーション技法	1						○	○						2	2	
	企業会計入門	2						○	○	○					2	2	
	グローバルマネジメント特論Ⅰ	2						○	○						2		2
	ファッションエディトリアルⅠ	2						○	○						2		4
	ファッションマーケティング論	2						○	○						2	2	
	プレゼミ(マネジメント)	2						○							2	2	2
	プレゼミ(イノベーション)	2							○						2	2	2
	ブランド・マネジメント論	2						(○)							3	2	
	トレンド分析とディレクション制作	2						(○)	(○)	○					3	2	
	P.R.マネジメント論	2						○							3	2	
	新製品(商品)開発論	2						○							3	2	
	生産管理論	2						(○)							3		2
	バイヤーの実践学	2						○	(○)	○					3		2
	リテールマーチャンダイジング	2						○		○					3		2
	「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ	2						○							3	4	
	「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ	2						○							3		4
目	グローバル・マネジメント特論Ⅱ	2						○							4	2	
係	店舗開発マネジメント論	2						○							4	2	
	ファッションMD評価システム	2						○							4	2	
	卒業論文Ⅰ(マネジメント)	2						○							4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業論文Ⅱ(マネジメント)	2						○							4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可

専 門 科 目	授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考		
		講	演	実 験	卒業を目的とするもの											前	後			
					共 通	コース別必修						選 自	職 業 課 程	学 員 課 程						
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン								フ ・ ア マ ツ シ ョ ン	
専 門 科 目	消費者行動論Ⅱ	2															3	2		
	現代流通論	2															3	2		
	ファッションエディトリアルⅡ		2														3	4		
	流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド)	2															3	2		
	流通イノベーションゼミⅠ		2														3	4		
	グローバルマーケティング特講	2															3		2	
	フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	2															3		2	
	流通イノベーションゼミⅡ		2														3		4	
	顧客関係論	2															4	2		
	ファッションテック論	2															4	2		
	卒業論文Ⅰ(イノベーション)		2														4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	卒業論文Ⅱ(イノベーション)		2														4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	専門コース必修合計	56	69	89																
1, 2年次の必修科目とコース必修科目を取得していない場合は、各コースの卒業制作は履修できません																				
専門科目(服飾関係)のコース必修科目についてはコースのいずれかを選んで上記の○印の単位を修得すること。コース別必修科目を当該コース以外の学生が選択科目として履修した場合、修得単位は卒業の要件に算入する。																				
専 門 科 目	服飾造形応用		2			○											1		4	
	人体工学論	2															○		1	2
	現代デザイン論	2															○		1	2又
	ファッション販売論	2															○		1	2又
	流行論	2															○		1	2又
	画像設計演習		1														○		2	2又
	ドローイングⅡ			1													○		2	3又
	写真表現演習		1														○		2	2又
	立体造形演習		1														○		2	2又
	和服構成論・実習Ⅰ			1													○	○	2	3
	和服構成論・実習Ⅱ			1													○	○	2	3
	衣服管理	2															○	○	2	2又
	染色化学	2															○		2	2
	繊維ファッション産業構造論	2															○		2	2
	映像制作			1													○		2	集中
	基礎デザイン(平面)		1														○		2	2
	基礎デザイン(立体)		1														○		2	2
	ファッション販売論上級	2															○		2	2
	色彩実践学	2															○		2	2
	ブライダルファッションプランニングゼミ		2														○		2	2
	インターンシップ			2													○		2	集中90h
																	○		3	又は集中
	長期インターンシップ			4													○		2	180h
																	○		3	又は180h
	服飾手芸(ニットを含む)			1													○	○	3	3又
	ショップディスプレイ	2															○		3	2又
	服飾クラフト			1													○		3	3又
	メディアコミュニケーション論	2															○		3	2
	ファッション画(CG)			1													○		3	3又
	アパレル産業論特講	2															○		3	2又
	民族衣裳論	2															○		3	2又
	染 織 史	2															○		3	2
	ファッションプレゼンテーション演習		2														○		3	4
	ドレーピング&パターンメイキング(選)			1													○		3	3
	近代日本モード史	2															○		3	2又
	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2															○		3	2
	コミュニケーション論	2															○		3	2
																				2024年度廃止
	ファッション3DモデリングⅠ		1														○		3・4	4
																				2024年新規開講
	ファッション3DモデリングⅡ		1														○		3・4	4
																				モード・インダストリアルコースのみ履修可
																				2024年新規開講
																				モード・インダストリアルコースのみ履修可

授業科目名	単位数			履修方法										配当年	週時間数		備考				
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの											教職課程	芸術課程		前	後		
				コース別必修																選択	自由
				モ	イ	テ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ								
ード	ン	キ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア					
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2													○	○		2	2			
家庭電気・機械	1													○	○		2	1			
食物学(実践栄養学)	2													○	○		2		2		
家庭情報処理	1													○	○		2		1		
食物学(食品学)	2													○	○		3	2			
住居学(製図を含む)	2													○	○		3		2		
保育学(実習及び家庭看護を含む)	2													○	○		3		2		
食文化論	2													○			3	2			
食物学(調理実習・実験) I			1											○	○		3	3			
食物学(調理実習・実験) II			1											○	○		3		3		
専門選択小計	48	13	16																		
専門科目小計	124	97	105																		
専門科目合計		326																			
専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として21~25単位以上を修得すること。																					
初年次	学習基礎	2			○												1	2			
キャリア	文章表現	2			○												1	2又	は2		
	情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○												1	2			
	情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○												1		2		
	キャリアプランニング	2			○												2	2又	は2		
	社会人基礎A	2												○			1	2			
一般	社会人基礎B	2												○			1		2		
	心理学A	2												○			1・2	2			
	心理学B	2												○			1・2		2		
	文学	2												○			1	2又	は2		
	日本美術史	2												○		○	1	2又	は2		
	西洋美術史	2												○		○	1	2又	は2		
	憲法	2												○	○		1・2	2又	は2		
	社会福祉学A	2												○			1・2	2			
	社会福祉学B	2												○			1・2		2		
	化学A	2												○			1・2	2			
	化学B	2												○			1・2		2		
体育	体育A		1											○	○		1	2又	は2		
	体育B		1											○	○		1・2		2		

授業科目名	単位数			履修方法										配当年次	週時間数		備考		
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの											教職課程	学芸員課程		前	後
				共通	コース別必修						選	自							
					モ	イ	テ	フ	フ	フ			選						
言語と服飾文化	2														3・4	2又	は2		
日本文化・日本事情 I	2														1・3	2		外国人留学生は履修のこと	
日本文化・日本事情 II	2														1・3		2	外国人留学生は履修のこと	
英語(総合)A	2														2	2			
英語(総合)B	2														2		2		
ワールド・カルチャーA	2														2	2			
ワールド・カルチャーB	2														2		2		
国際関係 実用英語 A	2														2	2			
国際関係 実用英語 B	2														2		2		
国際関係 ファッション英語 A	2														2	2			
国際関係 ファッション英語 B	2														2		2		
国際関係 フランス語(総合) A	2														2	2			
国際関係 フランス語(総合) B	2														2		2		
国際関係 ファッションフランス語 A	2														2	2			
国際関係 ファッションフランス語 B	2														2		2		
国際関係 中国語(総合) A	2														2	2			
国際関係 中国語(総合) B	2														2		2		
国際関係 中国語(会話) A	2														2	2			
国際関係 中国語(会話) B	2														2		2		
外国語 英語(総合) I	2														1	2			
外国語 英語(総合) II	2														1		2		
外国語 基礎英会話 I	2														1	2			
外国語 基礎英会話 II	2														1		2		
外国語 フランス語(総合) I	2														1	2			
外国語 フランス語(総合) II	2														1		2		
外国語 フランス語(会話) I	2														1	2			
外国語 フランス語(会話) II	2														1		2		
外国語 中国語(総合) I	2														1	2			
外国語 中国語(総合) II	2														1		2		
外国語 中国語(会話) I	2														1	2			
外国語 中国語(会話) II	2														1		2		
外国語 日本語 I	4														1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照	
外国語 日本語 II	4														1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照	
教養科目合計	102	4																	

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか I～IIまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
 具体的には実力テストの結果に応じて①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する
 ②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。
 但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

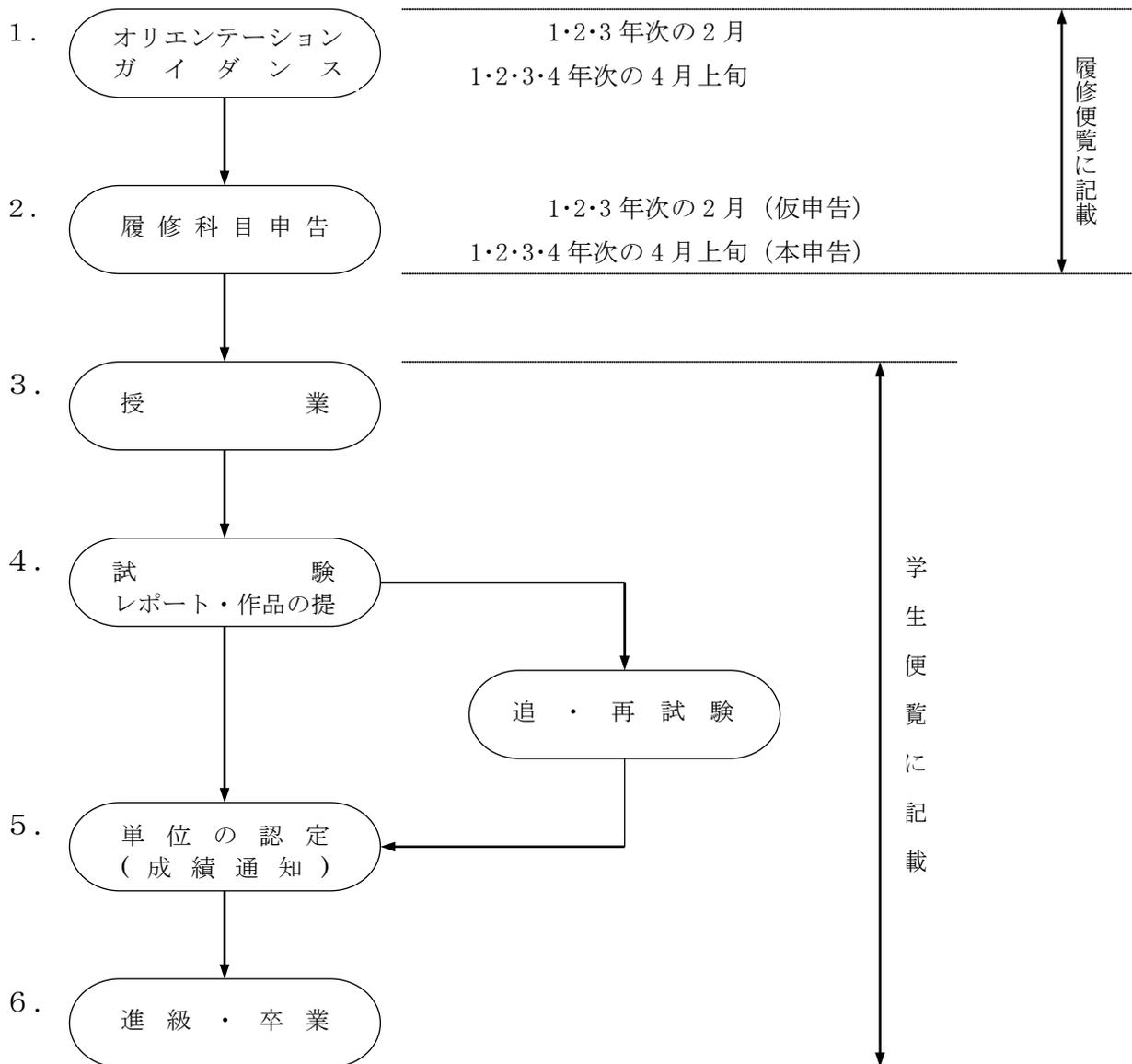
授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考		
	講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの											教 職 課 程	学 員 課 程		前 期	後 期
				共 通 必 修	コース別必修						選 択	自 由							
					モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト	フ ァ ッ シ ョ ン メ ジ ア ス ト			フ ァ ッ シ ョ ン シ ス テ ム デ ザ イ ン						
教師論	2														○	1	2		
教育心理学	2														○	1	2		
教育制度論	2														○	1	2		
教育原理	2														○	2	2		
教育課程論	2														○	2	2		
特別支援教育概論	2														○	2	2		
道徳の指導法	2														○	2	2		
生徒指導論(進路指導を含む)	2														○	2	2		
教科教育法基礎(家庭)	1														○	2	1		
教育現場でのICT活用	1														○	2	1		
特別活動の指導法	2														○	3	2		
教育方法論	2														○	3	2		
家庭科教育法(基礎)	2														○	3	2		
総合的な学習の時間の指導法	2														○	3	2		
家庭科教育法	2														○	3	2		
教科教育法(家庭)	2	1													○	3	2	模擬授業を含む(集中)	
教育法規	2														(○)	3	2		
教育相談(カウンセリングを含む)	2														○	3	2		
教育実習(事前事後指導を含む)		1	4												○	4	2	他に中・高校で3週間実習	
教職実践演習(中等)		2													○	4	2		
計	34	4	4																
教職課程履修者は、教職に関する科目必修40単位を修得すること。他に7日以上期間、介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。																			
博物館	生涯学習概論	2													○	1	2		
博物館 に関する 科目	博物館概論	2													○	1	2		
	博物館経営論	2													○	2	2		
	博物館資料論	2													○	2	2		
	博物館資料保存論	2													○	2	2		
	博物館展示論	2													○	3	2		
	博物館教育論	2													○	3	2		
	博物館情報・メディア論	2													○	3	2		
	博物館実習			3											○	4	3	3及集中 博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学	
計	16		3																
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																			
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。																			
1)原則として開講学年順とします。																			
2)個々の履修状況に応じて審議決定します。																			
コース選択要件については、別紙に記載してあります。																			

(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。

VII. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度学期の開始時に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一か年の学習計画を立て、履修することにより名簿・成績原簿等を作成されます。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 50 単位 です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「[学生ポータル](#)」に登録することにより行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力します。

定められた入力期間内に入力します。入力期間内であれば削除・追加が可能です。

ただし、入力期間内であっても、必修科目、外国語科目及びコース別必修科目のキャンセルは、原則として認めません。

① 1年次の年度始め

1年次前期に受講する科目をすべて申告してください。

② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の申告のための準備)

これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の計画をたててください。

③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目を入力)

※ 一部の科目については、人数調整をする場合があります。

④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)

後期開講科目について、申告入力期間に入力してください。

4) 《履修科目申告上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

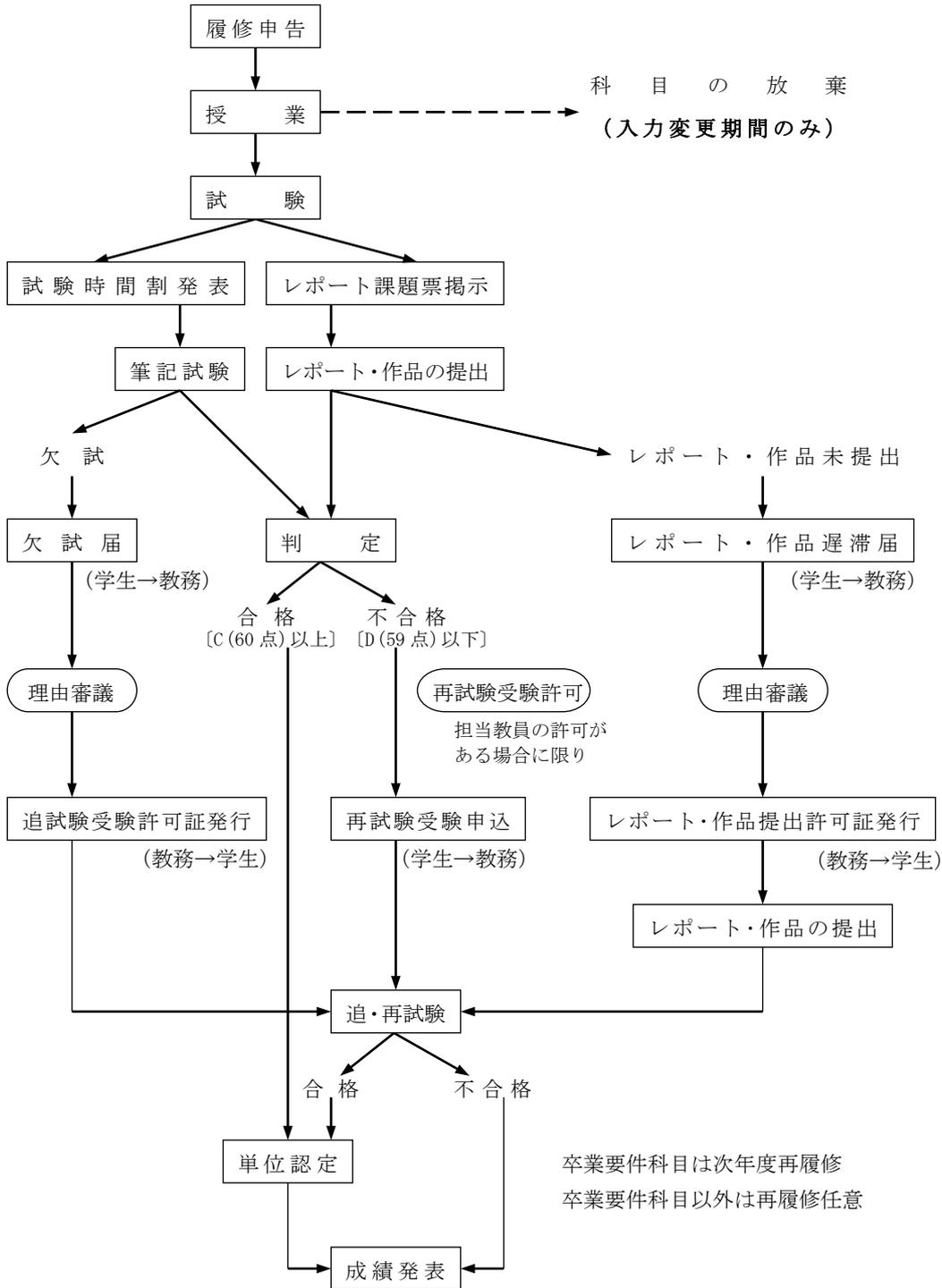
◆入力について

1. 履修科目を確認して入力してください。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程科目も入力してください。
3. 自主ゼミの受講希望者は教務課に申し出てください。
4. 履修単位の表の数字を確認してください。
5. 他学年開講科目(再履修科目等)は各自検索をして入力してください。

《履修科目の放棄について》

- ① 学期初めに本申告をした科目は、一定の入力申告変更期間を設けているため、学期途中で放棄することはできません。キャンセルをしないまま欠席すると当該科目の成績は不合格となります。また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

履修科目申告から単位認定まで



VIII. 教職課程について

I 教育職員免許法に基づき、本学で取得できる免許状の種類

免許状の種類	免許教科
中学校教諭一種免許状	家庭
高等学校教諭一種免許状	家庭

II 免許状取得のための基礎条件

- (1) 中学校および高等学校教諭の免許状を取得するために必要な基礎資格と条件は、教育職員免許法第 5 条（別表第一）にその免許状の種類によって第 I 表の通り定められています。
- (2) 「教科に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 3 条・第 4 条により、大学が授業科目と単位数を第 II 表の通り定めています。
- (3) 「教職に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 6 条により、大学が授業科目と単位数を第 III 表の通り定めています。
- (4) 中学校および高等学校教諭の免許状の授与を受けようとする者について、特に必要なものとして文部科学省令で定める科目と単位数については、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 により、大学が授業科目と単位数を第 IV 表の通り定めています。
- (5) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律（平成 9 年法律第 90 号）により、18 歳に達した後、7 日以上期間、特別支援学校（旧の盲学校、聾学校若しくは養護学校）又は社会福祉施設などで文部科大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものにおいて、障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験（介護等体験）が義務づけられています。

第 I 表 基礎資格と最低修得単位数

所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭	二種免許状	短期大学士の学位を有すること	12	19	4
	一種免許状	学士の学位を有すること	28	27	4
	専修免許状	修士の学位を有すること	27	27	28
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	24	23	12
	専修免許状	修士の学位を有すること	24	23	36

第Ⅱ表 教科に関する科目表

(2023年度生)

教科に関する科目	教育職員免許法 施行規則に定める 最低修得単位数		本学の該当科目										備考						
	(第4条) 中学校 1種	(第5条) 高等学校 1種	授業科目名	必修	履修単位数									教職					
					モード	コース別必修								選択	必修	選択			
					インダストリアル	テキスタイル	プロダクト	マネジメント	イノベーション										
家庭経営学 (家族関係学 及び家庭 経済学を含む)	1	1	家庭経営学 (家族関係学及び 家庭経済学を含む)											2	2				
			小計												2	2			
被服学 (被服製作 実習を含む)	1	1	服飾造形基礎Ⅰ	3															
			服飾造形基礎Ⅱ	3															
			衣服材料学	2															
			アパレル素材論	2															
			和服構成論・実習Ⅰ												1	1			
			和服構成論・実習Ⅱ												1	1			
			衣服管理												2	2			
			服飾手芸(ニットを含む)												1	1			
			モードクリエイションⅠ				3												
			モードクリエイションⅡ				3												
			ドレーピング&パターンメイキングⅠ				1												
			ドレーピング&パターンメイキングⅡ				1												
			感性産業デザインⅠ					3											
			感性産業デザインⅡ					3											
			CGデザインⅠ					1											
			CGデザインⅡ					1											
			ダイニングテクニクⅠ							2									
			ダイニングテクニクⅡ							2									
			テキスタイルデザインⅠ							2									
			テキスタイルデザインⅡ							2									
			ファッションプロダクトデザインⅠ								2								
			ファッションプロダクトデザインⅡ								2								
			プロダクトデザイン演習Ⅰ								2								
			プロダクトデザイン演習Ⅱ								2								
			消費者行動論Ⅰ									2	2						
			グローバルマネジメント特論Ⅰ									2	2						
			ファッションエディトリアルⅠ									2	2						
ファッションマーケティング論									2	2									
ドレーピング&パターンメイキングⅣ(選)													1						
小計				10	8	8	8	8	8	8	8	6	5						
食物学 (栄養学・食品学 及び 調理実習を含む)	1	1	食物学(実践栄養学)											2	2				
			食物学(食品学)												2	2			
			食物学(調理実習・実験)Ⅰ												1	1			
			食物学(調理実習・実験)Ⅱ												1	1			
小計													6	6					
住居学	1	1 (製図を含む)	住居学(製図を含む)											2	2				
			小計												2	2			
保育学	1 (実習を含む)	1 (実習及び家庭看護を含む)	保育学											2	2				
			保育学(実習及び家庭看護を含む)												2	2			
小計														2	2				
家庭電気・機械 及び情報処理	0	1	家庭電気・機械											1	1				
			家庭情報処理												1	1			
小計														2	2				
教科及び教科の指導法 に関する科目における複 数の事項を合わせた内 容に係る科目																			
各教科の指導法(情 報機器及び教材の活 用を含む)	8	4	教科教育法基礎(家庭)													1			
			家庭科教育法(基礎)														2		
			家庭科教育法														2		
			教科教育法(家庭)														3		
小計															8				
合計	28	24	合計	10	8	8	8	8	8	8	8	20	27						

第Ⅲ表 教職に関する科目表

教職に関する 科 目	教育職員免許法施行規則 第6条に定める教職に関する科目			本学の該当科目		
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		授業科目名	単位数	
		一種			必修	選択
		中学	高校			
教科及び教科の指導法に関する科目	イ 教科に関する専門的事項 ロ ■各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	28	24	別表 第Ⅱ表	28	24
教職の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ 教育の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解(1単位以上) ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	教育原理 教師論 教育制度論 教育法規 教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論	2 2 2 2 2 2 2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ■道徳の理論及び指導法(一種:2単位、二種:1単位) ロ 総合的な学習の時間の指導法 ハ 特別活動の指導法 ニ 教育方法及び技術 ホ 情報通信技術を活用した教育の理念及び方法(1単位以上修得) ヘ 生徒指導の理論及び方法 ト 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 チ 進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論及び方法	10	8	道徳の指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育方法論 教育現場でのICT活用 生徒指導論 (進路指導を含む) 教育相談 (カウンセリングを含む)	2 2 2 2 2 2 2 2	
教育実践に関する科目	イ ■教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことができる。)(5単位) ロ ■教育実践演習(2単位)	7	5	教育実習 (事前事後指導を含む) 教職実践演習(中等)	5 2	
大学が独自に設定する科目						
合 計		55	47	合 計	61	2

第Ⅳ表 その他に関する科目表

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める最低修得単位	中学校 1 種・高等学校 1 種免許状取得のための最低修得単位数	本学の該当科目			備考
		授業科目名	単位数	履修方法	
日本国憲法	2	憲法	2		
体 育	2	体育 A 体育 B	1 1		
外国語 コミュニケーション	2	基礎英会話 I 基礎英会話 II フランス語（会話） I フランス語（会話） II 中国語（会話） I 中国語（会話） II	2 2 2 2 2 2	いずれか 4 単位を 選択履修	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報演習 I（学修ポートフォリオを含む） 情報演習 II（学修ポートフォリオを含む）	2 2		

【履修申告にあたり】

大学における教員養成には、教員養成を目的とした国立大学を中心とした「目的大学」と、教員養成を主たる目的としないで、文部科学省から課程認定をうけた教職課程を別に設け、教員の免許状が取得できる「一般大学」とがあります。

本学は勿論後者ですが、一般大学には目的大学にはないその大学独自の教員養成が求められています。

本学は服飾学部・服飾学科の単科大学で、教員養成の課程認定は高等学校教諭一種免許状「家庭」と中学校教諭一種免許状「家庭」の養成機関として認可を受けています。同じ「家庭」教員養成機関でも大学によって専門のバックグラウンドには違いがあります。本学は「服飾学」を専門の中心においております。その専門に加え、中学校・高等学校で指導する「家庭経営学」「食物学」「住居学」「保育学」「家庭電気機械及び情報処理」といった科目を履修していきます。これが前ページの第Ⅱ表の「教科に関する科目表」の科目です。

第Ⅲ表の「教職に関する科目表」は、中・高等学校の各教科免許状取得を目指す学生が共通に学ぶ科目です。大学によって授業科目名は違いますが、表の「各科目に含めることが必要な事項」が各学習内容です。教科指導同様、教科外の指導や教員としての姿勢、態度の育成が目的となります。

第Ⅳ表の「その他に関する科目表」も、現在教員に求められる 4 領域の科目です。履修申告の際には、申告忘れないように注意してください。

【本学が養成したい教員像】

上記のように、本学は教員養成の「目的大学」ではなく教職課程を認可された「一般大学」ですが、本学の教員養成の姿勢は「目的大学」に期待される養成と同じく、責任・監督官庁である文部科学省や社会の要請・期待に応えるべく、優れた教員の育成を目指しています。

よって、平易な言い方ですが、1年生の教職課程履修希望者の履修動機は、資格だけほしいとか他者の勧めで履修したとか様々でしょうが、本学の教職課程は、教員職に就くか就かないかは本人の問題ですが、「教員」になることを前提とした教育を行っています。すなわち「教科に関わる科目」を通して、中等教育における「家庭科教育」の重要性と知識を伝え、「教職に関わる科目」を通して、「教員として、家庭科教員として求められる資質の養成と向上」を4年間を通して行っています。履修者の立場でその教員像を示すなら、家庭科教員としては「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項」について専門的な知識と技能を身につけます。また「教員として求められる知識」を習得し、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」他などの汎用的技能を身につけている教員を目指します。さらに教員の態度として求められる、自ら律して行動できる「自己管理能力」、他者と協調して行動できる「チームワーク力」、「リーダーシップ性」、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる「倫理観」、社会の一員としての「社会的責任感」、生涯を通しての「学習力」などを全学的な学習環境、教職課程の教科、特に教職課程での諸活動を通して身につけます。

免許取得後については、必ずしも学校教育に携わることがすべてではありません。自己評価、他者評価を通して、学校教育の教員としての適正があるかを確かめ、社会人、民間企業でも教職課程の学習を活かせればよいとも考えています。また善き学校理解者として学校教育外から「教育」を支援できることも教職課程での成果と考えています。

教職課程の履修にあたり、上記を理解し、前向きな姿勢で履修し専門教育と両立させてください。

【本学の教員養成の理念を実現するための教職課程指導体制】

本学では、「杉野服飾大学教職委員会規程」のもと全学的な指導体制を構築する為に、委員会構成メンバーは、「学部長」「教育職員免許法が規定する「教職に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教育職員免許法が規定する「教科に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教務部長」「その他学長が必要と認めた者」から構成されています。本年度は11名で運営しています。年度内に委員会を4回開催し、教職課程の運営上の問題に関する事項、教職課程で実施する諸活動に関する事項、教育実習・介護等体験の許可等に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議・報告・情報交換を行い、教授会に報告しています。特に教育実習校訪問指導は、全実習校を対象に実施しているので全学的な協力を要請しています。今後皆さんが履修を進めて行く上で、委員会で半期ごとに履修状況を確認して指導をしていきます。詳しくは後述（「教職課程履修に関わる注意事項」）しますので、あらかじめ内容を理解しておいてください。

【履修モデル】

1年生4月、7月に開催する教職課程説明会で「杉野服飾大学 教職関連科目及び教職諸活動一覧」を用いて説明します。出席も履修条件ですので、必ず出席してください。

教職課程履修に関わる注意事項

1 年生①後期の履修開始前に実施する前期末の「教職課程説明会」と後期始めの「教職課程履修説明会」に必ず出席すること。

②後期開講科目の「教師論」「教育心理学」「教育制度論」のいずれか1科目が不合格になると、原則として2年次以降の教職課程は履修できない。1年次の3科目の合格をもって2年次の科目を履修できる。よって1年次科目の再履修の場合は卒業時に免許状取得が不可能となる。

2 年生 下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の中学校・高等学校での「教育実習」の依頼活動を許可する。この時点で不許可の者は、4年生開講の「教育実習」は履修できない。

3 年生①「教壇模擬演習」を実施する。

②下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の教育実習を許可する。この時点で不許可の者は4年生開講の「教育実習」は履修できない。

4 年生 教員免許状取得に必要な全ての修得単位、「介護等体験」「教育実習」の実施を確認の上、本学から東京都教育委員会に免許状申請する。免許状は本学卒業式に授与する。

★ 教育職員免許状を取得するためには、必修・専門科目などの履修に加えて、卒業時までに教職に関する（教科・教職）科目を62単位以上修得することが必要です。心身共に余裕を持ち、全学年を通じて明確な意志を継続し、全ての授業に臨むこと。

教育実習許可要件

1. 教職委員会が許可する者

- ① 1・2年次における必修科目、3年次におけるコース別必修科目、教養科目の単位の修得状況を参考にする。
- ② 教育実習実施までの教職に関する（教科・教職）科目の履修状況、及び教職課程諸活動へのかわり方を参考にする。
- ③ 編入生及び科目等履修生については上記①②に準じて個別に検討する。

2. 教職課程履修費を納入済みの者

博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第 1 条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第 4 条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修 系列 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

X. 授業計画

【整理番号】

■専門科目■

- 【1】 日本服飾文化史
- 【2】 アパレル素材論
- 【3】 色材演習
- 【4】 マーケティング・データサイエンス論
- 【5】 現代ファッション論
- 【6】 CADパターンメイキング
- 【7】 モードクリエーション I
- 【8】 モードクリエーション II
- 【9】 ドレーピング& パターンメイキング I
- 【10】 ドレーピング& パターンメイキング II
- 【11】 モードデザイン I
- 【12】 服飾デザイン概論
- 【13】 装飾技法
- 【14】 ファッション史
- 【15】 テキスタイルデザイン I
- 【16】 テキスタイルデザイン II
- 【17】 ダイニングテクニク I
- 【18】 ダイニングテクニク II
- 【19】 素材設計論 I
- 【20】 素材設計論 II
- 【21】 ファッションプロダクトデザイン論
- 【22】 ファッションプロダクトデザイン I
- 【23】 ファッションプロダクトデザイン II
- 【24】 デザインプロセス
- 【25】 アクセサリーデザイン
- 【26】 デジタルデザインワーク I
- 【27】 デジタルデザインワーク II
- 【28】 プロダクトデザイン演習 I
- 【29】 消費者行動論 I
- 【30】 ビジネスプレゼンテーション技法
- 【31】 企業会計入門
- 【32】 グローバルマネジメント特論 I
- 【33】 ファッションエディトリアル I
- 【34】 ファッションマーケティング論
- 【35】 プレゼミ(マネジメント)
- 【36】 プレゼミ(イノベーション)
- 【37】 画像設計演習
- 【38】 ドローイング II
- 【39】 写真表現演習
- 【40】 立体造形演習
- 【41】 和服構成論・実習 I
- 【42】 和服構成論・実習 II
- 【43】 衣服管理
- 【44】 染色化学
- 【45】 繊維ファッション産業構造論
- 【46】 映像制作
- 【47】 基礎デザイン(平面)
- 【48】 基礎デザイン(立体)
- 【49】 ファッション販売論上級
- 【50】 色彩実践学
- 【51】 ブライダルファッションプランニングゼミ
- 【52】 インターンシップ
- 【53】 長期インターンシップ

- 【54】 家庭経営学
- 【55】 家庭電気・機械
- 【56】 食物学(実践栄養学)
- 【57】 家庭情報処理

■キャリア■

- 【58】 キャリアプランニング

■教養科目■

- 【59】 心理学A
- 【60】 心理学B
- 【61】 憲法
- 【62】 化学A
- 【63】 化学B
- 【64】 体育B
- 【65】 英語(総合)A
- 【66】 英語(総合)B
- 【67】 ワールド・カルチャーA
- 【68】 ワールド・カルチャーB
- 【69】 実用英語 A
- 【70】 実用英語 B
- 【71】 ファッション英語 A
- 【72】 ファッション英語 B
- 【73】 フランス語(総合) A
- 【74】 フランス語(総合) B
- 【75】 ファッションフランス語 A
- 【76】 ファッションフランス語 B
- 【77】 中国語(総合) A
- 【78】 中国語(総合) B
- 【79】 中国語(会話) A
- 【80】 中国語(会話) B

■教職■

- 【81】 教育原理
- 【82】 教育課程論
- 【83】 特別支援教育概論
- 【84】 道徳の指導法
- 【85】 生徒指導論(進路指導を含む)
- 【86】 教科教育法基礎(家庭)
- 【87】 教育現場でのICT活用

■学芸員■

- 【88】 博物館経営論
- 【89】 博物館資料論
- 【90】 博物館資料保存論

< 2024年度未開講 >

- インダストリアルパターン I
- インダストリアルパターン II
- 感性産業デザイン I
- 感性産業デザイン II
- CGデザイン I
- CGデザイン II
- 人体工学設計技術 I
- 人体工学設計技術 II
- 社会福祉学A
- 社会福祉学B

日本服飾文化史

梅谷 知世

2年 前期又は後期 必修 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

アジアの東端に位置する日本は、古くから中国をはじめとする諸外国の影響をうけながら、独自の美意識に基づく豊かな服飾文化を作りだし成熟させてきました。この授業では、服飾・染織品の実物資料、文献資料、図像資料などを用いて原始・古代から近代にいたる日本服飾の移り変わりを概説します。さらに、各時代の服飾の特質を政治や社会との関係、造形性、美意識、同時代の演劇・美術・文芸との関連性、外国文化の影響などさまざまな視点から捉え、服飾の多様なあり方について考えます。講義形式で進めますが、適宜、教員からの質問についてグループ内でのディスカッションを行います。

■到達目標（学修成果）

- 1、原始・古代から近代までの日本服飾の移り変わりを理解し、説明することができる。
- 2、各時代の服飾の特質について、同時代の資料に基づいて理解し説明することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門必修科目の卒業要件科目です。学芸員課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日本服飾文化史の視点	予習：シラバスを読み授業概要を理解する。	30分
2回	縄文・弥生時代の服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
3回	古墳時代の服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
4回	飛鳥時代の服飾：服制のはじまりと唐風摂取	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
5回	奈良時代の服飾：衣服令と唐風服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
6回	正倉院の服飾・染織	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
7回	平安時代の服飾（1）：和様の開花	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
8回	平安時代の服飾（2）：重ね色目	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
9回	鎌倉・室町時代の服飾：武家服飾の成立と発展	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
10回	小袖服飾の成立	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
11回	安土桃山時代の服飾：武家服飾の変容と南蛮服飾	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
12回	江戸時代の服飾（1）：武家服制の確立と町人服飾の充実	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
13回	江戸時代の服飾（2）：小袖の開花	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
14回	近代の服飾：西洋服飾の導入と和装の近代化	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容の振り返りを行い、十分理解する。	150分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の課題（授業内容の復習）について、次回授業時にフィードバックを行います。質問は随時受け付けます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献

増田美子編『図説日本服飾史事典』（東京堂出版） 増田美子監修『ビジュアル日本の服装の歴史①②③』（ゆまに書房）
その他の参考文献は授業中に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。 研究室：研究棟4階6042A

■備考

博物館や美術館に積極的に足を運び、服飾・染織の実物遺品や絵画作品など図像資料を見学する機会を持つよう心がけて下さい。

アパレル素材論

徳田 貴美江 田口 雅子

2年 前期又は後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

アパレルに使用される布に焦点を当て、基本的な知識、専門用語を理解するために説明する。応用力を育成するために、実物サンプルを提示しながら解説し、理解を深める。素材に関する知識と素材そのものが持つ手触りや布の表情など、服飾造形を作り出す素材に関心を寄せ、布の種類や構造を理解し、アパレル素材の基本的な知識を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な素材の名称や性質、専門用語、織物やニット生地に関する知識を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は専門必修科目で、卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス ビデオ視聴	（予習）衣服材料学で学んだ内容を復習する	30分
2回	何を着ているのか 素材について 繊維→糸→布の製造プロセス	（予習）衣服材料学で学んだ内容を復習する （復習）自分の着ている衣服の素材を調べる	30分
3回	布の分類 織物とは 織物の三原組織	（復習）身の回りにある布製品から、織物でできているものを見つけ、三原組織でできているものがあるか確認する。	60分
4回	織物の種類と織物組織 規格、物性について	（復習）身の周りにある布製品から、織物でできているものを見つけ、三原組織以外の組織で作られているものがあるか確認する。	60分
5回	綿について 綿織物	（復習）綿織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。手触りや風合いを観察する。	30分
6回	綿織物	（復習）綿織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。着用する季節や場面を考え、繊維や生地の特徴がどう活かされているのか考える。	30分
7回	ウールについて ビデオ視聴 毛織物	（復習）毛織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。毛織物と毛織物調の生地があるので、手触りや風合いを観察する。	30分
8回	毛織物	（復習）毛織物でできている衣服の市場調査や、自分の持っている衣服を確認する。着用する季節や場面を考え、繊維や生地の特徴がどう活かされているのか考える。	30分
9回	絹と化繊について 化繊織物 中間まとめ	（復習）絹織物や化繊織物を市場調査し、手触りや風合いを確認する。どのような場面で使用されるのかを考える。	30分
10回	ニット 緯編	（復習）ニットの構造を立体的に捉える。また、ニット製品を調査し、特徴を理解する。	30分
11回	ニット 経編・レース	（復習）緯編との違いを理解するための市場調査をする。身近にある経編の製品を観察し、特徴を理解する。	30分
12回	不織布・皮革	（復習）革製品（含む人工皮革等）を市場調査し、風合いを確認する。自分の持っている革製品（含む人工皮革等）を観察し、特徴を捉える。	30分
13回	染色・加工	（復習）市場調査や自宅で、授業内で聞いた技法に該当する衣服がないか確認し、観察する。	30分
14回	産地・復習	（復習）全国にある産地を復習する。	90分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等） のフィードバックを行う	（復習）授業内容を振り返り、まとめをする。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了時に manaba を用いた小テストを行い、翌週答え合わせをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「アパレル素材の基本」織研新聞社

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

後期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

初回授業で提示

■備考

なし

色材演習

土屋 純一

2年 前期又は後期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

素材の色彩と材質感についての観察、発見、収集、分類、検証、構成を行う。具体的には布素材のみならず、ひろく身の回りの「モノ・コト」に眼を向けたフィールドワークから「オリジナルな色と質の資料」を制作し、平面、立体デザインへと応用する。そして将来「素材からのデザインの提案～展開」が出来る視点や可能性を準備する。

■到達目標（学修成果）

造形を行う際の素材の選択や、その特徴を生かした表現方法など色彩と質の構造について理解し、今後の服飾造形表現に応用する素材活用ができるようになる力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定に必要な科目である。造形表現における素材の色彩と材質に対する知識と発想力を高める為の授業である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入/授業概要。「フィールドワーク」の目的、方法。イメージと素材との関係。	復習：ファイル準備。 予習：フィールドワークによる素材調査。	60分
2回	講義/「視覚と触覚/色材と表現方法」、フィールドワークの状況確認。	復習：色材、作品、作家研究。 予習：フィールドワークによる素材収集。	90分
3回	演習①「サンプリング～資料制作」/収集、分類。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
4回	〃 /色と材質感。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
5回	〃 /素材の分類。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
6回	〃 /色とイメージの分類。色や質を表す言葉。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
7回	講義/「集積した色と質」演習②「サンプリング&リミックス～イメージからの展開」/導入～構造と構成。 ※演習①講評。	復習：作家研究。色彩と質感のリサーチ。予習：素材収集と分類。	90分
8回	〃 /イメージからの素材の選択、色の分析。色彩表現と質感表現の技法。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と材質の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
9回	〃 /織りによる平面構成。アクティブ・ラーニング	復習：構造と構成の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
10回	演習③「サンプリング&リミックス～立体への展開」/色の立体構成・質の変化。 ※演習②講評。アクティブ・ラーニング	復習：準備課題「質の変化」完成。 予習：素材と画像の収集。	60分
11回	〃 /重層構造による立体表現。アクティブ・ラーニング	復習：立体表現としての材料の選択。 予習：素材と画像の収集。	60分
12回	〃 /立体的な視点からのデザイン構成。アクティブ・ラーニング	復習：立体的な視点からの自己作品の分析。 予習：素材と画像の収集。	60分
13回	演習④「サンプリング&リミックス～質のデザイン」/色と材質感のプレゼンテーション。オノマトペ。 ※演習③講評。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
14回	〃 /デザインのトリミング。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
15回	まとめ「イメージファイル」/色と質感イメージ。総合講評。	予習：色彩と質感に関するイメージファイルの完成。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題終了後に講評を行う。最終作品ファイルは個別講評、採点后に返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	理解度、通常作品、ファイル等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

進行に合わせて授業内で紹介し、プリントを配布する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日、火曜日（12時10分～12時50分） 連絡研究室 大学表現演習研究室（第三校舎1階）

■備考

毎回、授業で説明する「フィールドワーク」を通して、日頃から素材に対する幅広い考察を行うこと。 授業準備を怠ると課題演習ができない。すべての配布プリント及び作品はファイルにまとめて毎回授業に持参すること。

マーケティング・データサイエンス論

田中 康寛

2年 前期又は後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

今や企業においては必須であるデータサイエンスとは何かを理解し、ビジネスにおける重要性を理解していきます。企業へのアドバイス経験から、DXと関連づけながら事例も、また企業データを使い説明、研究します。特にマーケティング活動を中心に学んでいけるようにします。

- ・データサイエンスとは、そして必要性の背景そして生み出されるビジネス価値と活用事例
- ・統計学とAI、生成AI/深層学習（ディープラーニング）
- ・データサイエンスの倫理的留意
- ・発展的課題と今後の方向性

■到達目標（学修成果）

データサイエンスとは何かを理解し、企業が、どのように活用していくかを検討できるようにします

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、必修科目であり、また卒業要件科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容(前期)	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	データサイエンスとは何か。DXとは何か。それらがなぜ必要か(含:事例)を、コンサルティングを企業に実施した経験からも話します	復習:データサイエンスとは何か、DXとは何かを自分の言葉で説明できるようにします	60分
2回	データサイエンスによるビジネス価値と活用事例 DXとデータサイエンスの関連を含みます	復習:データサイエンスをどのように生かせるか。説明できるように復習を行います	60分
3回	データサイエンティストとはどのような役割や業務を遂行しているかを理解 そして第15回で出てくる組織論も、より理解できることを目指します	復習:データサイエンティストの役割業務を理解することで、データサイエンスにおける実行内容を理解します	90分
4回	統計基礎 統計の必要性、データとは?さらに見える化などを理解します。併せて多様なデータが発生していることも理解します	復習:統計の基本を理解します。また、自分の周りでも様々なデータが発生していることを確認します	90分
5回	AIとは何か 生成AIとは何か(以降両方を総称してAIと表記します)	復習:AIとは何かを説明できるようにします。AIが身近であることも整理します	45分
6回	AI事例 小売業、アパレル業界などでいかにAIが使われているか。なぜ今AIを活用されているのかを説明します まとめ1	復習:対象業種でのAIの利用状況を復習するとともに、なぜ必要かも自分の言葉で説明できるようにします。	90分
7回	統計概論1 Excelを使用して学びます マナバで、メーカーのデータをやり取りし使用します。平均、確率、分散 標準偏差 回帰分析 生成AIを使用して、分析する場合の方法もイメージするようになります	復習:それぞれの分析の意味と必要性を整理します。また生成AIを使用する場合のイメージも整理します	40分
8回	統計概論2 Excelを使用して学びます。 正規分布 相関分析 定性データの定量化分析	復習:それぞれの意味を再度整理します。そしてなぜその分析が必要かを考えます	60分
9回	BIツールとは何か Tableauを中心に説明します	復習:Excel BIツールの位置付けを理解、整理し、さらにビジネス界での使い方の基本を説明できるようにします	45分
10回	Tableauを使った実習	復習:体感したことから、Excel,Tableauの違いを整理します	45分
11回	BIツールと生成AIの融合(実技予定) AIを使用するどのようなことができるかなどをお話します	復習 AIへの理解を深め AIを使ったとするとどのようなことが可能かを考えます	60分
12回	データ収集の現状 IOT、顔認証など 現状と将来像を説明します	復習:企業内にどのようなデータがあるのか、どのようなデータがあるといいのか整理します	60分
13回	アパレルメーカーのデータをもとに討論と発表 どのようなデータが経営に役立つかなどを中心に討論します	復習:グループの発表から、さらにデータに対する視点を整理します	45分
14回	まとめ2 データサイエンスの倫理	復習:個人情報保護法などデータに関するセキュリティを整理します	60分
15回	データサイエンスとDX、実現していくための組織論を理解していきます。 その中で、自分ごと化をしていきます	復習:データサイエンス、DX、AIなどを総括して復習します	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

まとめを2回実施提します。提出用紙に、評価と課題を記述し返却、同時に返却した回の初めにフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題	70%
期末試験・課題	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書 データ思考が未来を変える（織研新聞社） 加えて①補足資料配布

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

講師控え室または教室に在籍

■備考

企業の上層部の方から、その業界、企業ならではの視点で話をいただく予定（V I D E O）です

現代ファッション論

鈴木 桜子

2年 前期又は後期 モードテクノロジー系必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

「ファッションとは何か？」この問いに答えるのは容易ではありません。ファッションは私たちにとって最も身近な存在でありながら、個人と社会、歴史、文化、思想等のあらゆる領域と複雑に絡み合いながら現在に至っています。

本授業では、衣服と直接的な身体との関係、社会現象としての流行とメディアとの関係、様々な視点からファッションの現在の意味を問う展覧会に焦点をあて、「ファッション」について深く考えて行くことを方針とします。本授業はディスカッション、学生同士の相互評価、プレゼンテーションによるアクティブラーニングを重視しています。

■到達目標（学修成果）

「ファッション」について、ディスカッションを通して自らのファッション論を導き出すことを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目はモードテクノロジー系の必修科目であり、卒業要件科目です。ファッションに関する多角的な視点を持ちながら専門性を高めていくための科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「ファッション」を考える なぜ衣服を着るのか	予習：シラバスの確認	10分
2回	I. ファッションと身体 ①コルセット	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
3回	②化粧	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
4回	③女性の服・男性の服	復習：前回授業ノートの確認 + 関連事項の調査	40分
5回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
6回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振り返り	20分
7回	II. ファッションとメディア ①ファッション写真	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
8回	②ファッション雑誌	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
9回	③かわいい世界	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
10回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
11回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振り返り	20分
12回	III. ファッションと展覧会①「ファッションと色彩」展	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
13回	②「ラグジュアリー」展	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
14回	③「○○○○○」展	復習：前回授業ノート確認 + 関連事項の調査	40分
15回	プレゼンテーションと評価(フィードバック)	予習：プレゼンテーションの準備	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッション時のレポート、プレゼンテーションについては、受講者同士で評価をしあい、フィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ディスカッション&授業内レポート2回+プレゼンテーション1回

※上記についての受講生同士の相互評価

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

沢山の服飾関連の授業を受講している皆さんにとって大事なことは、時に立ち止まり、物事を深く考える時間を持つことです。現在、ファッションについて社会学や哲学の立場から論じられている書物が数多く出版されています。それらをヒントに日頃からファッションについて深く考えてみましょう。

CAD パターンメイキング

井口 多恵子

2年 前期又は後期 モードテクノロジー系必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

CAD (Computer Aided Design) の基本操作を学び、平面パターン設計を学修することを方針とします。CAD の簡単な操作方法から学び、パターン設計→アパレルでの流れも学修します。

■到達目標 (学修成果)

CAD の基本操作とアパレルに必要な総合的な CAD システムの使用方法を修得する事を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については、モードテクノロジー系必修科目であり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、CAD の基本説明	予習：シラバスを読んでおくこと パソコンによる手慣らし	30分
2回	CAD の基本操作	予習：パソコンによる手慣らし	30分
3回	ダーツ展開 1 (基本) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
4回	ダーツ展開 2 (応用) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
5回	袖 ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
6回	ギャザー (身頃) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
7回	ギャザー (スカート) 1 ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
8回	ギャザー (スカート) 2 ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
9回	前半の復習	予習：前半の整理、再確認しておく	30分
10回	キュロットスカート ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
11回	工業用パターン 1 (パーツ化) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
12回	工業用パターン 2 (縫い代付け)・小テスト マーキング (グループワーク)	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
13回	グレーディング (スカート) ・小テスト	終わらなかったところは終わらせておく (小テスト等)	30分
14回	まとめ 1	予習：全体を整理、再確認しておく	30分
15回	まとめ 2	予習：全体を整理、再確認しておく	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

授業の後半に、その回学んだことを復習の意味で小テストします。小テストは教員が添削し、次週返却し学生はそのデータの確認を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	25%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

配布プリント

■参考文献

パターンメイキングの原理 (大野順之助著)

■オフィスアワー・研究室

・オフィスアワーの日は初回の授業時にお知らせします。研究室 (第3校舎2階 3211)

■備考

CAD は自宅では使用出来ないコンピューターソフトのため、授業時間内に行うことをしっかり覚えていくこと、また欠席しないことをお奨めします。また進度により日程及び内容を変更することがあります。

モードクリエーションⅠ

中村 枝里子・設水 彩加

2年 前期 モード必修 (3単位 実習)

■授業の方針・概要

服飾造形基礎Ⅰ、Ⅱで修得した基礎的な知識と技術を基に、ワンピースドレスとパンツを制作しさらに必要な基礎を身に付ける。またワンピースドレスでは、マーケティングリサーチを行い、その時代の流行や市場の動向を感知し、各自がイメージすることを服の造形で表現できるようにデザインのコ案、工業用パターン作成を行いオリジナルデザインの作品を制作する事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

ワンピースドレスとパンツのパターンメイキング、縫製方法を学び、作品制作を通して制作過程の理解と表現方法を身に付けることが出来る。さらに作品発表を通して、プレゼンテーション能力を高めることが出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目である。専門科目、服飾関係科目のモードクリエーションコース必修の実習科目である。卒業制作にあたり修得しておかなければならない知識や技術を含んでいる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 基礎課題Ⅰ（ワンピースドレス各種）製図① マーケティングリサーチについて、著作権について	予習：シラバスを読む 復習：PATTERN MAKING I テキストの製図を見直す ワンピースのリサーチを行い、まとめる	30～60分
2回	基礎課題Ⅰ（ワンピースドレス各種）製図②	復習：学んだことを確認、遅滞作業を行う	30～60分
3回	基礎課題Ⅱ（ワンピースドレスの縫製方法について）部分縫い	予習：デザインのコ案 復習：学んだことを確認、遅滞作業を行う	30～60分
4回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作①）製図	予習：PATTERN MAKING I テキストの製図を確認する	30～60分
5回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作②）トワル作成、点検 マーケティングリサーチ報告	予習：縫製手順を考える 復習：遅滞作業を行う	30～60分
6回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作③）製図訂正、型紙作成	予習：製図・SEWING I テキストのパターン、縫い代について確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
7回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作④）裁断、印付け、身頃縫製	予習：SEWING I テキストの裁断図、身頃の縫製を確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
8回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作⑤）衿、袖縫製	予習：SEWING I テキストの衿、袖を確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
9回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作⑥）仕上げ・提出 縫製指示書について	復習：遅滞作業を行う、縫製指示書を確認する	30～60分
10回	基礎課題Ⅲ（パンツ各種）製図	復習：遅滞作業を行う、PATTERN MAKING I テキストの製図を見直す	30～60分
11回	基礎課題Ⅲ（パンツ実物大製図、型紙作成）	予習：SEWING II テキストのパンツについて確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
12回	基礎課題Ⅲ（パンツ縫製①）	予習：SEWING II テキストのパンツについて確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
13回	基礎課題Ⅲ（パンツ縫製②）	予習：SEWING II テキストのパンツについて確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
14回	ワンピースドレス プレゼンテーション 基礎課題Ⅲ（パンツ縫製③）	予習：プレゼンテーション準備 復習：遅滞作業を行う	30～60分
15回	応用課題Ⅱ 大学祭グループワーク まとめ	復習：前期の課題を振り返り確認する	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題により授業内で解説、返却を行う。試験、レポート返却については別途日程を伝達する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席が原則として授業時間の2/3未満の場合、提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING I、SEWING II

電子教材

■参考文献 図解服飾用語事典 その他

■オフィスアワー・研究室 第1回目の授業に指示。研究室 大学服飾造形研究室

■備考 特別授業「工場見学(期日未定)」を含む。

進度により、日程および内容を変更する場合もある。

準備学修の時間はあくまで目安であり、各自の状況に合わせて増減すること。

モードクリエーションⅡ

中村 枝里子・設水 彩加

2年 後期 モード必修 (3単位 実習)

■授業の方針・概要

服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、モードクリエーションⅠで修得したパターンメイキングを基に、工業用パターンを学び、総裏付きジャケットの構成を理解する。素材に合わせたパターン修正、展開方法などを学ぶ事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

ジャケットのパターンメイキング、縫製方法を学び、作品制作を通して制作過程を理解し表現方法を身に付けることが出来る。さらに作品発表を通して、プレゼンテーション能力を高めることが出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目である。専門科目、服飾関係科目のモードクリエーションコース必修の実習科目である。前期モードクリエーションⅠに続き、卒業制作にあたり修得しておかなければならない知識や技術を含んでいる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、著作権について 基礎課題Ⅰ（ジャケット各種）製図 基礎課題Ⅱ（ジャケットの縫製方法について）部分縫い① マーケティングリサーチについて	予習：シラバスを読む 復習：PATTERN MAKINGⅡテキストの製図を見直す、ジャケットのリサーチを行い、まとめる	30～60分
2回	基礎課題Ⅱ（ジャケットの縫製方法について）部分縫い② 応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作①）製図①	予習：PATTERN MAKINGⅡテキストのテーラードジャケットの製図を確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
3回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作②）製図②	復習：遅滞作業を行う	30～60分
4回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作③） トワル作成・点検・製図訂正① 応用課題Ⅱ 大学祭グループワーク	復習：遅滞作業を行う	30～60分
5回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作④） トワル作成・点検・製図訂正②	復習：遅滞作業を行う	30～60分
6回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑤） 型紙作成（表地、芯）	復習：遅滞作業を行う、SEWINGⅢテキストの展開図について見直す	30～60分
7回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑥） 裁断、印付け、縫製準備 マーケティングリサーチ報告	予習：SEWINGⅢテキストの裁断、接着芯等について確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
8回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑦） 身頃縫製、ポケット縫製	予習：SEWINGⅢテキストのポケットについて確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
9回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑧） 型紙制作（裏地）、裁断、印付け	予習：SEWINGⅢテキストの裏地について確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
10回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑨） 裏地縫製、衿作り	復習：遅滞作業を行う	30～60分
11回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑩） 身頃の合わせ、衿付け	復習：遅滞作業を行う	30～60分
12回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑪） 袖作り、袖付け	復習：遅滞作業を行う	30～60分
13回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑫） 中とじ、裾始末	復習：遅滞作業を行う	30～60分
14回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑬） ボタン付け、ボタンホール、仕上げ 縫製仕様書について、 基礎課題Ⅲ 部分縫い	予習：SEWINGⅢテキストのボタン付け、ボタンホールについて確認する 復習：遅滞作業を行う、縫製仕様書を確認する	30～60分
15回	ジャケットプレゼンテーション まとめ	予習：プレゼンテーション準備 復習：後期の課題を振り返り確認する	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題により授業内で解説、返却を行う。試験、レポート返却については別途日程を伝達する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席が原則として授業時間の2/3未満の場合、提出物が未了の場合は、再履修とする。 色彩検定3級を取得する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKINGⅡ、SEWINGⅢ（購買部で各自購入しておくこと）

電子教材

■参考文献 図解服飾用語事典 その他

■オフィスアワー・研究室 第1回目の授業に指示。研究室 大学服飾造形研究室

■備考 進捗により日程および内容を変更する場合もある。準備学修の時間は目安であり、各自の状況に合わせて増減すること。

ドレーピング& パターンメイキングⅠ

高橋 彩香

2年 前期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

将来ファッション業界でデザイナー、パターンメーカー、マーチャンダイザー、バイヤー等の仕事をする上で、最も大切な基本理論を学ぶ。パターンメーカーとしての実務経験を活かして、服作りの現場で応用できる基礎の考え方、服の見方に軸を置いた授業を展開する。

服作りの基礎となる原型作りを通して、着る人の体型を考慮した服の見方や考え方の基本を学ぶ。ファッション業界において仕事をするためのファーストステップを確立する事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

婦人服におけるパターンの基本理論と基本技術を習得できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエイションコースの必修で卒業認定に必要な科目であり、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	立体裁断とは 人台・天竺の扱い	予習(準備)：上身頃用天竺の用意 (90cm幅×50cm丈)	15分
2回	【実習】 原型のドレーピング 前身頃	復習：1回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
3回	【実習】 " 後身頃	復習：2回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
4回	【実習】 " 前後スカート	復習：3回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：スカート用天竺用意 (45cm幅×70cm丈×2枚)	30分
5回	【実習】 " 上下の合わせ	復習：4回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
6回	【実習】 " パターン作成	復習：5回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
7回	【課題】 " 組み立て 修正	復習：6回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
8回	【実習】 原型のユルミ入れ 前身頃	復習：7回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：天竺の用意 (45cm幅×50cm丈×2枚)	20分
9回	【実習】 " 後身頃・前後スカート	復習：8回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：天竺の用意 (45cm幅×70cm丈×2枚)	20分
10回	【課題】 " 組み立て修正	復習：9回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
11回	【実習】 袖の考え方 袖のパターンメイキング	復習：10回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：袖の天竺用意 (45cm幅×70cm×1枚)	15分
12回	【実習】 " 袖付け	復習：11回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
13回	【実習】 " 修正	復習：12回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
14回	【実習】 袖の応用 ティバードスリーブ	復習：13回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：袖の天竺用意 (45cm幅×70cm丈×1枚)	15分
15回	【実習】 原型完成 ケント紙原型作成	復習：14回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：半切ケント紙×1枚用意	15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（フ レゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（フ レゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断 「基本理論」 小山千曉他著 (有) c f k 1 9 9 1

■参考文献

「工業用パターンガイドブック」 小山千曉他著 (株)アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

第2校舎 2402 教室 金曜日 13：00～14：30

【連絡研究室】ドレーピング&パターンメイキング研究室（第3校舎1階3106教室）

■備考

授業に必要なテキスト、道具・組立などの準備は必ず時間前に用意すること。

ドレーピング& パターンメイキングⅡ

高橋 彩香

2年 後期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

前期に学んだドレーピング（立体裁断）方法を活かして、立体を意識しながら平面上でのパターン操作を学ぶ。服作りの基礎となる原型からの展開方法を学び、実際にトワルを組むことで立体と平面との兼ね合いを掴む訓練をする事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

服作りの基本理論を立体と平面の両面から学ぶことでファッション業界において仕事をするためのファーストステップを確立する事が出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエイションコースの必修で卒業認定に必要な科目であり、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ダーツの考え方	予習（準備）：ケント紙原型・天竺用意	40分
2回	【実習・課題】身頃のパターン展開 ダーツの展開・移動・回転	復習：1回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
3回	【実習・課題】身頃のパターン展開 ウエストギャザー	復習：2回目の授業内容、課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
4回	【実習・課題】身頃のパターン展開 水平ヨーク・ギャザー	復習：3回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
5回	【実習・課題】身頃のパターン展開 ラウンドヨーク・ギャザー	復習：4回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
6回	【実習・課題】身頃のパターン展開 水平ヨーク・ウエストギャザー	復習：5回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
7回	【実習・課題】スカートの展開 ギャザースカート	復習：6回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（スカート）トレース・天竺用意	40分
8回	【実習・課題】半袖のパターン展開 ギャザースリーブ	復習：7回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（袖の目）・天竺用意	40分
9回	【実習・課題】長袖のパターン展開 ティバードスリーブ	復習：8回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（袖の目）トレース・天竺用意	10～40分
10回	【実習・課題】長袖のパターン展開 マトンスリーブ	復習：9回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（袖の目）トレース・天竺用意	10～40分
11回	【実習・課題】衿のパターンメイキング フラットカラー シャツカラー	復習：10回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃上部）のトレース・天竺用意	10～40分
12回	【実習・課題】衿のドレーピング フラットカラー	復習：11回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：衿の天竺用意	15分
13回	【実習・課題】衿のドレーピング シャツカラー	復習：12回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：衿の天竺用意	10～30分
14回	【実習・課題】Aラインスカートのドレーピング	復習：13回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：スカートの天竺用意	30分
15回	【実習・課題】Aラインスカートのパターンメイキング	復習：14回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（スカート）トレース	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断 「基本理論」 小山千暁他著 (有)cfk1991

■参考文献

「工業用パターンガイドブック」 小山千暁他著 (株)アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

第2校舎 2402教室 金曜日 13:00～14:30

【連絡研究室】ドレーピング&パターンメイキング研究室（第3校舎1階3106教室）

■備考

授業に必要なテキスト、道具・組立などの準備は必ず時間前に用意すること。

モードデザインⅠ

白木 ゆみ香

2年 後期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

モードデザインⅠは、モードクリエイションコースにとって必要不可欠な、「デザイン力」や「表現力」を養う授業です。1年時に学んだ基礎的なファッションデザイン画の技術や2年前期のデザイン概論の知識を元に、更に向上させるべく自分のイメージするデザイン画が自由に描けるようになるための技術や手法を学びます。

大学図書館やネットなども活用し、デザインの情報や資料収集がすぐに出来る環境の中、オリジナルのデザインを発想できる力を養えるよう指導、訓練をしていく事を方針とします。

■到達目標（学修成果）

自分のイメージするデザインを、自由に描ける力を養うこと。また、デザインを発想するための基礎を身に付けることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、モードクリエイションコースの必修科目で、卒業要件の単位となります。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション ブランドコレクション（レディース）①	予習：シラバスを読む。	30分
2回	ブランドコレクション②（ブランド分析、デザインポイント、ターゲット層、ハンガーイラスト、オリジナル）	復習：作品課題を完成させる。	60分
3回	ブランドコレクション（メンズ）①	復習：作品課題を完成させる。	60分
4回	ブランドコレクション（メンズ）②（ブランド分析、デザインポイント、ターゲット層、ハンガーイラスト、オリジナル）	復習：作品課題を完成させる。	60分
5回	ポーズのバリエーション4～5体	復習：作品課題を完成させる。	60分
6回	素材研究、マテリアル各種7～10、各種画材での表現	復習：作品課題を完成させる。	60分
7回	マテリアルのファッション画① デザイン画1体+ハンガーイラスト、またはデザイン画2体 下絵 色彩検定用課題①配布	予習：色彩検定過去問題集 作品課題を完成させる。	60分
8回	マテリアルのファッション画② デザイン画1体+ハンガーイラスト、またはデザイン画2体 仕上げ	復習：作品課題を完成させる。	60分
9回	デザイン発想Ⅰ テーマ：人体 （アイデアスケッチ、）① 色彩検定用課題②配布	予習：図書館・インターネットにて資料収集	60分
10回	デザイン発想Ⅰ テーマ：人体 （デザイン画）②	復習：作品課題を完成させる。	60分
11回	素材研究 グループワーク 10センチ角程度で、素材サンプルを作成。 色彩検定用課題③配布	予習：色彩検定過去問題集 作品課題を完成させる。	60分
12回	デザイン発想Ⅱ テーマ：素材からの発想 （コンセプトシート、素材サンプル）①	予習：図書館・インターネットにて資料収集 復習：色彩検定過去問題集	60分
13回	デザイン発想Ⅱ テーマ：素材からの発想 （デザイン画）②	復習：作品課題を完成させる。	60分
14回	デザイン発想Ⅲ テーマ：バリエーション ベースのデザイン画を元に、バリエーションとしてオリジナルデザインを作成。それぞれにハンガーイラスト、デザインポイント説明。	復習：作品課題を完成させる	60分
15回	デザイン発想Ⅲ テーマ：バリエーション ベースのデザイン画1体+オリジナル2体 それぞれにハンガーイラスト、デザインポイント説明。仕上げ、提出	復習：作品課題を完成させる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・ 作品課題の提出は、教室またはデザインCG研究室（研究棟1F）まで、指定された日時までに提出のこと。
- ・ 作品課題の返却は、採点または手直し後、教室にて返却。期末試験はなし。
- ・ 色彩検定試験（2級・3級）用、課題提出あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書 必要に応じてプリント配布。

教材「Fashion Illustration Sheet」レディース、「Fashion Ruler」レディース・メンズ
ファッション色彩能力検定試験3級準拠、3級・2級問題集。

■参考文献 MODE Et MODE

■オフィスアワー・研究室 【前期】木 14:30～16:00【後期】水 15:30～16:30

【研究室】デザインCG研究室（研究棟1F）

■備考 進度により、日程および内容の変更あり。必要と思われる展示会や美術展などの見学あり。

コロナの感染状況に応じて、zoomでの遠隔授業対応になる可能性あり。

服飾デザイン概論

鈴木 桜子

2年 前期 モード必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

「デザイン」は、単に「もの」(服飾)のイメージに合わせて色や形にしていこうとするのではなく、最も重要な目的の一つとして、「もの」を通して人と社会をコーディネートしていきることがあげられます。そのためには時代を知り、人と社会に関心を持つ姿勢が求められ、どのようなプロセスを通して最終的な素材や色や形にしていこうかが問われます。

本授業の方針として、服飾デザインを多角的な視点から捉え、自らの服飾デザイン観が社会とどのように結びついていくのか、理論的・実践的思考を高めてプレゼンテーション、ディスカッションを行っていくアクティブラーニングを重視します。

■到達目標 (学修成果)

服飾デザインについて、自らの見識を持ち、デザインコンセプトを構築していく姿勢を持つことを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエーションコース専門科目として卒業認定の卒業要件科目です。服のデザイン・考え方・プレゼンに必要な技術等が修得でき、モードクリエーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業制作Ⅰ・Ⅱの授業での製作する際のデザイン考案に関連しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション デザインとは何か?なぜ、服をデザインするのか?	予習: シラバスの確認	10分
2回	身近なものをデザインする	復習: 身近なものをデザインする	30分～
3回	衣服をデザインする	復習: 衣服デザインについて考える	30分～
4回	I. 時代と社会に向き合うデザイン①	復習: 時代・社会に向けた衣服の在り方を考える	30分～
5回	〃 ②	復習: 時代・社会に向けた衣服の在り方を考える	30分～
6回	II. 歴史と文化に向き合うデザイン①	復習: 歴史の衣服に目を向けてみる	30分～
7回	〃 ②	復習: 歴史の衣服に目を向けてみる	30分～
8回	III. デザイナーの仕事	復習: デザイナーの仕事を考える	30分～
9回	ディスカッション	予習: これまでの授業を振り返り、ディスカッションに備える	30分～
10回	プレゼン+ポートフォリオ課題に向けて	復習: プレゼン、ポートフォリオの準備を始める	60分～
11回	IV. 装飾の功罪	復習: 装飾の在り方について考える	30分～
12回	V. 構造とフォルム	復習: 構造とフォルムの関係を調べる	30分～
13回	VI. 色彩・素材・技術	復習: デザイン要素を総合的に捉える	30分～
14回	プレゼンテーションとディスカッション (ポートフォリオ提出)	予習: プレゼンの準備 ポートフォリオ作成	60分～
15回	まとめと評価	復習: 講評を受けて自分の作品を振り返る。	30分～

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

ディスカッション、プレゼンテーションについては受講生双方で評価を行い、フィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ディスカッション、プレゼンテーション+ポートフォリオ
※上記に関する受講生同士の相互評価

■教科書

必要に応じてプリントを配布

■参考文献

必要に応じて授業の中で紹介していきます。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

進度により、日程及び内容は変更することがあります。

装飾技法

中村 枝里子・設水 彩加

2年 後期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

装飾技法の歴史は古く、服飾の世界では様々な技法を用いた服作りが行われている。この授業においては、服作りの幅を広げるヒントとなる装飾技法の基礎的手法を学ぶ事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

この科目を履修することにより、装飾技法の基礎的技法を習得することが出来るようになる。また服飾造形に活かすことを目標とし、更に基礎的技法を発展させ作品に付加価値をつけたり、新たにデザインを発想したりするなど、応用力を身につけることも目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目である。モードクリエーションコース学生の必修で、モードクリエーションⅢ、Ⅳや卒業制作での服飾造形表現に必要とする技法技術の向上に資する科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、ギャザー	予習：シラバスを読む。 復習：ギャザーについて学んだ内容を確認する。	30分
2回	シャーリング	復習：シャーリングについて学んだ内容を確認する。	30分
3回	フリル	復習：フリルについて学んだ内容を確認する。	30分
4回	プリーツ、タック	復習：プリーツ、タックについて学んだ内容を確認する。	30分
5回	ニードルパンチ	復習：ニードルパンチについて学んだ内容を確認する。	30分
6回	フリーレース	復習：フリーレースについて学んだ内容を確認する。	30分
7回	スラッシュキルト	復習：スラッシュキルトについて学んだ内容を確認する。	30分
8回	キルティング	復習：キルティングについて学んだ内容を確認する。	30分
9回	フランス刺繍	復習：フランス刺繍について学んだ内容を確認する。	30分
10回	ビーズ刺繍	復習：ビーズ刺繍について学んだ内容を確認する。	30分
11回	スモッキング	復習：スモッキングについて学んだ内容を確認する。	30分
12回	リボン刺繍	復習：リボン刺繍について学んだ内容を確認する。	30分
13回	パイピング	復習：パイピングについて学んだ内容を確認する。	30分
14回	結びと編み	復習：結びと編みについて学んだ内容を確認する。	30分
15回	その他技法について グループディスカッション：コレクションブランドに使用されている技法について、著作権について	予習：授業で学んだ技法以外の装飾技法について調べてくる。 復習：配布した技法資料と自身の作品を振り返り、技法を確認する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題により授業内で解説、返却を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	原則として出席日数が2/3に満たない場合、提出物が未了の場合は再履修とする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリントを配布。

■参考文献

必要に応じて授業内に紹介。

■オフィスアワー・研究室

各担当から授業内で指示。
連絡研究室：服飾造形研究室（研究棟内）、造形教室

■備考

日程及び内容は、進捗状況により変更する場合もある。
必要材料を授業内で配布する為、材料費として1,500円程集金する。

ファッション史

鈴木 桜子

2年 前期又は後期 モード必修 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

私たちがいま着ている現代衣服の源流は、およそ100年前に遡ります。その間、多くの革新的なデザイナーが誕生し、流行のファッションが繰り広げられてきました。しかし、一見、一過性の流行と思われるがちなその現象の背後には、政治的・社会問題や同時代の芸術・デザイン運動との関連性が見受けられます。

上記より本授業の方針として、近現代を中心に、芸術・デザイン諸領域の動向を理解しながら、服飾デザインの理論とその歴史性を探っていく視点を重視していきます。

■到達目標（学修成果）

時代のデザイン思考を学ぶことによって、学生一人ひとりがファッションに対する考え方を確立していくきっかけの一つになることが本授業の目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエーションコースの必修であり卒業要件科目です。1年次の必修科目「西洋服飾文化史」と合わせて服飾史として通史が完成される内容になっています。モードクリエーションコースをはじめ、本学学生には必須の授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 現代ファッションの100年	シラバスの確認	20分
2回	I. デザイン運動とファッション① ジャポニスム	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
3回	② 改良服運動	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
4回	③ アール・ヌーヴォー	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
5回	④ ウィーン工房	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
6回	⑤ ロシア構成主義とデ・スタイル	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
7回	⑥ バウハウス	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
8回	II. モードの革新者たち① マドレーヌ・ヴィオネ	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
9回	② ガブリエル・シャネル	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
10回	③ エルザ・スキヤパレリ	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
11回	戦後のモード ディオールからサンローランまで	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
12回	モードの多様化 アンチ・モード	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
13回	日本人デザイナーたち	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
14回	北欧デザインとファッション	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
15回	まとめと復習	予習：これまでのノート+manaba復習 の確認	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回提出するノートプリントを次回授業時に返却します。また進度に合わせて評価を付けてフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ノートプリントの提出

※manaba復習の取組

※授業内小テスト

■教科書

Web教材：塚田耕一・鈴木桜子「ファッション史年表：現代ファッションの100年」

(杉野学園衣裳博物館 HP：www.costumemuseum.jp) *プリントとして配布もします。

■参考文献

授業内容に応じて紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

なし

テキスタイルデザインⅠ

山川 智子

2年 前期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

この授業は主に「織物」に関するデザイン、表現技法などの基礎的なことから学び、専門用語、用具、制作工程を理解し、作品制作することによって修得する入門的な内容で授業構成している。自由な発想で「織物」を考察することができる基本的な基礎知識、技術を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な制作技術を使って小作品が自立して制作できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	織物組織Ⅰ 経糸の準備	(予習)身の回りの「布」を意識的に見る。 分解鏡で身の回りの「布」を観察する	45分
2回	織物組織Ⅰ 織布準備	(予習)織機・組織の仕組みを理解する	45分
3回	織物組織Ⅰ 織布	(復習)糸配列と組織の関係を理解し、先染めによる豊富なバリエーションを観察する	30分
4回	織物組織Ⅰ 織布 測定・まとめ	(復習)身の回りの「三原組織」各種の製品を見つけ、違いについて考える	30分
5回	織物組織Ⅱ 経糸の準備	(予習)組織と経緯糸の関係性を観察する	45分
6回	織物組織Ⅱ 織布準備	(復習)組織と織機との関係性を考察する	30分
7回	織物組織Ⅱ 織布 測定・まとめ	(復習)デザインについて市場調査する	30分
8回	マフラーの制作（市販の糸からの設計、織布） 織布準備	(復習)市販糸のバリエーションと織について考える	45分
9回	マフラーの制作（市販の糸からの設計、織布） 織布	(予習)織機の使い方とその意味を再考する	30分
10回	マフラーの制作（市販の糸からの設計、織布） 織布 始末	(復習)設計に対し、再度検討し糸の形状や太さと織の関係について考える	30分
11回	刺繍ミシンを使用した生地 of 作成① 図案作成	(予習)刺繍のデザインのためのリサーチを行う	60分
12回	刺繍ミシンを使用した生地 of 作成② 刺繍データ作成	(復習)Photoshop・Illustrator の使用方法を確認する	30分
13回	刺繍ミシンを使用した生地 of 作成③ 制作①	(復習)刺繍データの作り方の確認をする	30分
14回	刺繍ミシンを使用した生地 of 作成④ 制作②	(予習)刺繍ミシンの使用方法について確認をする	30分
15回	まとめ・プレゼンテーション	(復習)前期の学修についてまとめる	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションを行う。課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 ・オリジナルテキスト配布

■参考文献 ・適宜資料配布

■オフィスアワー・研究室 水曜日（16：00～17：00）第2校舎 2104教室

■備考 ・ダイニングテクニックⅠに関連した授業展開である。

テキスタイルデザインⅡ

田口 雅子

2年 後期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

テキスタイルデザインⅠの延長上に位置する科目である。基礎的な要素を持ちつつ、応用力を身につける内容で進める。高機手織機を使用し、「織物」の用途を意識した設計・制作できる能力の育成を方針とする。

■到達目標（学修成果）

自立してイメージを織物として具現化し、色彩との関連を意識して制作できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「ビッグストール」の設計 ボーダー柄の提案 PCシミュレーション	(予習) マフラー、ストールについてリサーチする	30分
2回	ビッグストールの制作 グループワーク 織布準備	(復習) 前期課題の設計書の確認をする	60分
3回	ビッグストールの制作 織布1	(復習) 素材と風合いの確認をする	30分
4回	ビッグストールの制作 織布2 始末・測定	(復習) 縮充による風合いの確認をする	30分
5回	「綿バック」の設計 綿素材による立体物のデザイン PCシミュレーション	(予習) 具体的な使用をイメージしたデザインをし、技法と特徴や制作工程の確認をする	60分
6回	綿バックの制作 織布	(復習) 最終的な仕上りを明確にイメージし、縫製を行いバックを完成させる	30分
7回	織の表現 綴織の制作 デザイン 経糸準備	(予習) 綴れ織の特徴について調査する	100分
8回	織の表現 綴織の制作 織布	(予習) 綴れ織の歴史について調査する	45分
9回	作品制作応用課題 コンクール形式 デザイン・面談（ディスカッション）・設計	(復習) コンクールに向け、リサーチ、準備を行う	45分
10回	作品制作応用課題 コンクール形式 サンプル	(復習) 企画、設計について自ら考えて実行できるかの確認を行う	180分
11回	作品制作応用課題 制作	(予習) 課題について理解し、技法について調べ考案する	60分
12回	作品制作応用課題 制作	(予習) 素材などのリサーチをする	60分
13回	作品制作応用課題 制作	(復習) デザインと結果を照合する	60分
14回	作品制作応用課題 プレゼン準備	(復習) プレゼンの準備をする	60分
15回	コンクール形式：プレゼンテーション、審査会、外部評価員による講評、まとめ	(復習) 結果について理解する	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションもしくは課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書

・オリジナルテキスト配布

■参考文献

・適宜資料の配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・博物館、美術館および関連した展示会などの見学を積極的に行うこと
- ・ダイニングテクニクⅡに関連した授業展開である
- ・ダイニングテクニクⅠ・テキスタイルデザインⅠの単位を取得していること

ダイニングテクニックⅠ

山川 智子・鎌田 美恵

2年 前期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

作を通して「糸・布染め」を基本とする、糸・布準備、精練、染料と染め方、染料による色彩の特徴などを学修する。実践的な染色方法の基本を、ウール・綿素材を使って学修し、染色の基礎力を身につけることを方針とする。

■到達目標（学修成果）

染色工程の基礎として、染料と助剤、染法を学修し、目指す色彩に染色できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	染色基礎ガイダンス 染色と染法基礎	（復習）繊維に応じた様々な染色方法を理解する	30分
2回	ウール糸染め染色見本の作成準備	（復習）染色方法を顧みる	30分
3回	ウール糸染め・まとめ	（復習）色の表現を理解する	30分
4回	カラー織見本の作成 織布準備	（復習）経緯糸の交錯による色彩変化について観察する	30分
5回	カラー織見本の作成 織布	（復習）色、濃度、糸の交錯による変化を整理する	30分
6回	フェルト制作 デザイン 準備	（予習）フェルトを基布として様々な表情になる方法を調査する	45分
7回	フェルト制作 フェルティング	（予習）柄と手の力との関係、様々な表現を整理する	45分
8回	フェルト制作 始末	（予習）細かいデテールについてどのように仕上げるか考え、必要な材料を用意する	30分
9回	布染め基礎 シーチング精練・染色(グループワーク)	（復習）各精練剤の効果を考察しレポート作成	60分
10回	布染め基礎 ろうけつ染 カラーサンプル作成	（復習）ろうけつ染について調べレポート作成	60分
11回	絞り染(基礎) 糸入れ・絞り	（復習）学修した以外の絞り技法を調べレポート作成	60分
12回	絞り染(基礎) 染色(グループワーク) 糸解き	（予習）絞り	60分
13回	絞り染(応用作品制作) デザイン・糸入れ・絞り	（予習）修得した技法を活かしたタペストリーのデザイン考案	60分
14回	絞り染(応用作品制作) 染色 後処理	（予習）絞りの実践	60分
15回	絞り染 ディスカッション 講評	（予習）作品提出の準備	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

オリジナルテキスト配布

■参考文献

適宜資料配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）2104 教室

■備考

・テキスタイルデザインに関連した授業展開である

ダイニングテクニックⅡ

田口 雅子・鎌田 美恵

2年 後期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

ダイニングテクニックⅠの延長上に位置する科目である。植物性繊維に目を向けセルロース系の糸染めを修得する。原材料の異なる素材の染色実習を通して、素材と染料・助剤の使い方を学び、染色技法の視野を広げることを方針とする。

■到達目標（学修成果）

綿・ウールなどの原材料違いによる染色方法の違いを修得して、イメージした色を自立して染められる知識、技術の基礎的な内容を修得することと布染めにおける伝統的な染色方法を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ビックストールの作成 紡糸の染色準備・精練	（予習）糸取りおよび、毛糸の精練の方法について確認する	30分
2回	ビックストールの作成 紡糸の染色	（予習）毛糸の染法について確認する	30分
3回	綿素材バックの制作 綿糸の精練・染色	（復習）綿糸の精練について理解する	30分
4回	綿素材バックの制作 綿糸の染色	（復習）綿の染法について理解する	30分
5回	織の表現 ノットイング（点描の色彩） 経糸の準備	（予習）毛足の長さや密度について考える	40分
6回	織の表現 ノットイング（点描の色彩） 織布	（復習）用途について考える	45分
7回	織の表現 ノットイング（点描の色彩） 織布 始末	（復習）点で表現される色糸のミックス効果について考える	30分
8回	型紙捺染（一型） デザイン 型彫り 紗張り 地染	（予習）デザイン考案 （復習）型染について調べレポート作成	60分
9回	型紙捺染（一型） 捺染 蒸し 水洗	（復習）浸染・捺染方法のまとめ	15分
10回	型紙捺染（一型） 藍染	（予習）藍染について調べレポート作成	60分
11回	型紙捺染（一型） 藍染 抜染 ソーピング	（復習）抜染方法のまとめ	60分
12回	型紙捺染（複数型） 生地精練（グループワーク） 型彫り 試染	（予習）デザイン考案 色彩計画	60分
13回	型紙捺染（複数型） 捺染 蒸し 水洗 後処理	（予習）型彫りの実践 （復習）型紙捺染のまとめ	60分
14回	型紙捺染 デザインディスカッション	（予習）作品提出の準備	45分
15回	まとめ 講評	（復習）後期作品を振り返り、技法における表現の特徴を理解する	50分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションもしくは課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

オリジナルテキスト配布

■参考文献

適宜配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・テキスタイルデザインⅡに関連した授業展開である
- ・テキスタイルデザインⅠ・ダイニングテクニックⅠの単位を修得していること
- ・「色彩能力検定3級」検定試験を受検する

素材設計論 I

田口 雅子

2年 前期 テキスタイル必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

織物設計の基礎である繊維、糸、その構造を示す組織について詳しく解説する。組織図が理解でき、糸の太さや形状が布の風合いに影響し、さらに「服の着心地」に影響するという基本的な概念を身につけることと知識を活かし設計できる基礎能力を身につけることを授業の方針とする。

■到達目標（学修成果）

テキスタイルデザイン・ダイニングテクニック I・II の課題に対して具体的な設計を理解し、自立して設計し、糸量・染料の算出ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入 テキスタイルとは	（予習）身近に使われる布のリサーチ・考察する	45分
2回	設計1「組織Ⅰ」組織図36種類の作成 順通しによる基本的な組織図の表現と設計、糸量の算出	（予習）配布したオリジナルテキスト「組織」とは何か考える	30分
3回	設計2「組織Ⅱ」組織図5種類の作成 乱通しによる基本的な組織図の表現と設計、糸量の算出	（予習）身の回りにおける糸配列や組織による織表現についてリサーチする	30分
4回	組織図の仕組み・書き方について 設計3「マフラー」の設計 市販糸の長さからの設計	（復習）身の回りの繊維製品について糸と織物組織の関係でリサーチする	30分
5回	染色理論Ⅰ	（予習）染色計算・道具について確認する	30分
6回	染色理論Ⅱ	（予習）繊維による染料の違いと助剤、濃度の確認をする	45分
7回	染色・織物道具の名称と使用方法 小テスト	（復習）制作に必要な道具類の名称と操作方法について確認する	60分
8回	PCによる織物作成「組織Ⅰ」「組織Ⅱ」	（予習）PC上でのテキスタイル表現について理解する	30分
9回	4DboxでのCG織物表現	（予習）ボーダー柄の効果と商品デザインについてリサーチする	90分
10回	素材とテキスタイル1 フィールドワーク	（復習）身近にある布を再度リサーチし、何に気づきがあるか確認する	30分
11回	素材とテキスタイル1 プレゼンテーション1	（予習）繊維の特徴と糸形状、生地との風合いを確認し、レポートを作成する	30分
12回	素材とテキスタイル1 プレゼンテーション2	（予習）繊維の特徴と糸形状、生地との風合いを確認しレポートを作成する	30分
13回	素材とテキスタイル2 調査	（復習）調査内容のまとめ・考察	45分
14回	素材とテキスタイル2 プレゼンテーション	（復習）プレゼンテーションの確認	30分
15回	講評、解説、まとめ 小テスト	（復習）学修した内容をまとめる	45分

■フィードバック方法（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストを行い理解の確認を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業内小テスト、プレゼンテーション、課題等から評価します

■教科書 ・オリジナルテキスト（テキスタイルデザイン・ダイニングテクニック共有）

■参考文献 適宜配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（15：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考 なし

素材設計論Ⅱ

土岐 千春

2年 後期 テキスタイル必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

素材設計論Ⅰで学んだことにデザイン展開の要素を加え、デザインをおこすための基礎となる描画力と発想力、商品企画の基礎を学修する。講師の企業実務に基づきファッション業界におけるテキスタイルプランナーの役割と業務の現状と今後の展望から具体的にこの学びが社会のどのような商品開発に反映していくか解説する。

■到達目標（学修成果）

ファッションテキスタイルの基礎を修得し、アイデアからデザインへの展開と情報収集に裏付けされた商品企画、プレゼンテーションが行えるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の内容と計画の説明 ・テキスタイルプランナーの役割と業界の現状を解説	予習:テキスタイルプランナーの業務についてリサーチする	30分
2回	先染め、後染め、ジャカード、プリント、レースなどの素材とデザインの位置づけ	予習:各素材について調査しサンプルを集める	60分
3回	描画の基礎: デッサンを通して写実的描画を学ぶ	予習:デッサンの方法、作品をリサーチする	60分
4回	描画の基礎: 水彩画を通して写実的描画を学ぶ	予習:水彩描画の方法、作品をリサーチする	60分
5回	プリント柄デザインへの展開 写実的な表現からデザインに展開する	復習:対象物の特徴をいかしてデザイン化が出来たか確認する	30分
6回	カラーバリエーションや柄レンジの作成 バリエーション作成のポイント解説	予習:プリント柄のカラーバリエーションについてリサーチする	30分
7回	トレンド分析と市場調査 トレンド情報を分析し企画に反映させる方法	予習:コレクション雑誌(GAP)やトレンド資料を見て概要を理解する	60分
8回	企画におけるコンセプト、テーマのたて方 デザインと言葉による表現の関係性	予習:コンセプトやプレゼンテーションに使われる言葉をリサーチする	30分
9回	素材の特徴と適した用途について ・服に使われる素材を確認し特徴を解説	予習:服の素材・取扱い表示を確認して使われる素材をリサーチする	30分
10回	デザインにおける構図とリピート ・リピートの必要性和作り方を学ぶ	復習:プリント柄のリピートを読みとり送りを確認する	60分
11回	リピートのついた図案の作成 ・絵とプリント図案の違い	予習:プリント柄の資料を集める	30分
12回	商品企画におけるコンセプトマップの作成 ・プレゼンテーションにおけるビジュアルの重要性	予習:トレンドを意識した商品企画になるようトレンド分析を行う	30分
13回	コンセプトに合わせたデザインの作成 ・カラーバリエーションやカラーイメージの作成ポイント	予習:ビジュアル作成のための資料集め	60分
14回	プレゼンテーションを通してデザインの表現方法を学び 相互評価を行う ※アクティブラーニング	予習:プレゼンテーションのシナリオ作成等の準備	60分
15回	まとめ ・課題内容の振り返りと修得内容のまとめ	学習内容の振り返りと改善点の確認	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題作品は採点后、返却します。授業内、または返却時に講評します。

■成績評価の方法・基準

授業態度、姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	課題作品 表現力、完成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリント資料配布

■参考文献

図書館内資料等

■オフィスアワー

連絡先 テキスタイルデザイン研究室 (3011)

木曜日 (9:00~12:10)

■備考

素材設計論Ⅰを修得していること

ファッションプロダクトデザイン論

肉丸 美香子

2年 前期 プロダクト必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインの世界を、企業(製造業・販売、流通業)の現状と消費者の視点にたち、外部企業の現役の担当者により講義を行う。学生にとり自身の将来にどのような職域や職種が存在するのか、又現在の学びがそれらとどのような繋がりがあるのか数多くの疑問点や関心事があると思われる。更に企業サイドではどのような人材を必要としているのかを企画、制作、製造、販売などの部門ごとに実際の仕事の内容を具体的に学修する事を方針とする。

■到達目標(学修成果)

自身の特性や能力を生かし今後の学修をより効果的な学びに繋げることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス、ファッションプロダクトデザイン論の概要(肉丸)	予習: シラバスを読む	30分
2回	ファッションプロダクトデザインの職域について(肉丸)	復習: 実際に店頭へ行って確認する	30~60分
3回	パリコレ・東コレの商品開発の現場での経歴と学んだこと。私が洋服だけでなく、帽子作りに惹かれた理由。	予習: 好きなファッションプロダクトとその理由を調べてくる	30~60分
4回	アイデアから商品レベルまでのプロセスについて。表面のデザインを支えるための仕立て方や、裏側の構造を探究する楽しさを知る。(レポートの課題)	復習: 実際に帽子店に行きリサーチする	30~60分
5回	資本主義経済の流れと消費(伊藤) ・供給と市場マインド ・日本の優位性(1)	復習: 授業の内容を理解できるようにする	30~60分
6回	二極化市場での戦い方(伊藤) ・求められる企画と顧客創造について ・日本の優位性(2)	復習: 自分の強み、独自性を考える	30~60分
7回	マーチャンダイジングについて(伊藤) ・狭義のMDから広義のMDへ ・日本の優位性(3)(レポートの課題)	復習: マーチャンダイザーになったつもりで、改良点を見出す習慣をつける	30~60分
8回	ファッションビジネスの仕組み(津曲) ・産業界を取り巻く環境 ・産業界の構造	予習: 「ファッション」とは何だろう? 自分なりにまとめてくる	30~60分
9回	ファッション業界を数字で見よう(津曲) ・数字で見る環境 ・業界という「川」の流れ	予習: 川上・川中・川下について調べてくる	60~90分
10回	ファッションビジネスのサプライチェーンとは?(津曲) ・流通の構造 ・流通新時代とは?	予習: SPAとは?事前研究してくる	60~90分
11回	ファッションビジネスに未来はあるか?(津曲) ・業界の利益構造とは? ・ファッション業界の未来とは(レポートの課題)	予習: ビジネスの基本は何か?自分なりにまとめてくる	60~90分
12回	情報収集の目的と方法(池田) ・イタリア展示会取材・ストリートスナップ ・ファッション誌キーワードチェック	復習: 情報収集の方法の確認をする	30~60分
13回	商品企画とデザイン→製造→販売の流れについて(池田) ・商品企画から商品開発までのフロー・店頭イメージの立案	復習: 商品企画のフローチャートの確認をする	30~60分
14回	トレンド情報とファッションプロダクト③(池田) ・シーズントレンド情報・マーケットトレンド情報(レポートの課題)	復習: シーズントレンド・マーケットトレンドとは何かを理解する	30~60分
15回	ファッションプロダクトデザイン論 まとめと解説(肉丸) 課題のフィードバックを行う 各先生方よりフィードバックが行われる。	復習: フィードバックされたものをもう一度確認する	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

4回、7回、11回、14回目にレポートを提出する。15回目に課題のフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	レポート提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献 ブランディングの基本(安原智樹著)、マーケティングの基本(安原智樹著)、ジャルフィックトレンド情報誌

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワー: 金曜日 11:00~12:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考 東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

ファッションプロダクトデザインⅠ

高橋 大夢

2年 前期 プロダクト必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながる基礎科目である。そもそも「ファッション」や「プロダクトデザイン」とは何なのか。デザインするとはどのようなことを指しているのか。これらの言葉の意味、内容を正しく理解しなければならない。その上で、実際にデザイン考案を行いモノ作りの楽しさ、厳しさを体験することに重点を置く。その後、段階的にデザイン条件をより複雑に設定し、課題制作を行っていく。

ファッションアイテムの中でも、特にバッグや靴は構造、機能、素材、色彩などの諸要素が直接デザインと強く結びついている。このことを強く意識し、デザイン能力を鍛え、物作りを行う内容である事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

初期のデザインイメージを、プロセスを通し発展させ、最終案に至るまでの流れを確認し、デザインの役割とモノ作りの意味を認識できる能力を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。

ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス ファッションプロダクトデザインⅠについての概要	予習：シラバスを確認	30分
2回	バッグの仕様、サンプル制作 紙モックアップ制作	予習：使用道具の確認 復習：サンプルを完成させる	30分
3回	バッグの仕様、サンプル制作 不織布モックアップ制作	予習：ミシン使用方法の確認 復習：サンプルを完成させる	60分
4回	革用特殊ミシンのトレーニング 平ミシン・腕ミシン・革漉き機の使い方	復習：使用方法の復習	60分
5回	革用特殊ミシンのトレーニング 加工、部分縫い① ヘリ返し	復習：加工法の復習、加工箇所見直し	60分
6回	【学外見学-(1)】 東京レザーフェア(TLF) 世界のカバン博物館	復習：世界のカバン博物館・東京レザーフェアの見学レポートを提出	60分
7回	革用特殊ミシンのトレーニング 加工、部分縫い② 金具類の取り付け	復習：各自ミシンの使い方の復習、 加工箇所見直し	60分
8回	【学外見学-(2)】 浅草、蔵前 革屋、金具屋のフィールドリサーチ	復習：各店舗の情報をまとめておく	60分
9回	革の縫製方法 職業用ミシンで道具入れを制作する	復習：作品の仕上がり確認	60分
10回	【学外見学-(3)】 YKKものづくり館見学 YKKのプロダクト製品について	復習：YKKものづくり館見学レポートを提出	60分
11回	革の縫製方法 ① 手縫いで革小物を制作する	復習：手縫い加工の復習	60分
12回	革の縫製方法 ② がま口の取り付け、小物制作	復習：がま口加工の復習	60分
13回	バッグの製図(1) 通しマチ (2)横マチ	復習：通しマチ、横マチ製図の確認	60分
14回	バッグの製図(3)底マチ (4)捨てマチ	復習：底マチ、捨てマチ製図の確認	60分
15回	バッグの製図(5) 型紙の取り方	復習：型紙の取り方の確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品の完成度・プレゼンテーション能力
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

『靴・ハンドバッグ・小物』（社団法人日本皮革産業連合会）

『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』（日本革類卸売事業協同組合）

■参考文献

新かばん・バッグの商品知識(エフ・ワークス)

工業用ミシンと漉き機の基本操作とメンテナンス(STUDIO TAC CREATIVE)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考 東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

ファッションプロダクトデザインⅡ

高橋 大夢・大場 有希子

2年 後期 プロダクト必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながる基礎科目である。対象となるアイテムは多岐に渡る。特にバッグ・帽子・シューズ等のファッショングッズの果たす役割はとて重要である。それぞれの持つ基本的な機能・構造をよく理解し、バッグに加えて靴・帽子のデザインと制作を行う。バッグ・靴・帽子には多くの作業工程があり、デザイン画から制作までの基本的な流れを把握し、実物の完成までを学ぶ。徹底的なリサーチを行い、自らが所有し使ってみたく感じると同時に一般ユーザーを更に満足させることを心がけデザインを考案する事を方針とする。

■到達目標 (学修成果)

初期のデザインイメージを、プロセスを通し発展させ、最終案に至るまでの流れを確認し、デザインの役割と物作りの意味を認識できる能力を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	芯材を使用するバッグ制作①型紙、裁断	予習：シラバスを読む	60分
2回	芯材を使用するバッグ制作②縫製	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成	60分
3回	芯材を使用するバッグ制作③縫製、完成	予習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成	60分
4回	I レザーバッグ制作 ① 型紙、紙モックアップ制作	予習：バッグについてのリサーチを行っておく	30分
5回	② 不織布モックアップ制作	復習：型紙、裁断した生地の確認	60分
6回	③ モックアップ縫製、完成	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成	60分
7回	ファッション色彩検定試験対策講座	予習：試験対策としてテキストを熟読する	60分
8回	ファッション色彩検定試験対策講座	復習：試験対策としてテキストを熟読する	60分
9回	④ 実物制作(レザー)デザイン画、型紙制作、モックアップ制作	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに進めておく	60分
10回	⑤ 実物制作(レザー)本制作	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成させる	60分
11回	III ガイダンス (帽子) ①種類・素材・歴史について	復習：種類や素材・歴史について確認する	60分
12回	②パターン作成→1枚の紙から帽子らしい立体の形を作成	復習：時間内に終了できなかった物を次回までに完成	60分
13回	③パターン作成→立体になった紙からパターン作成 縫製 生地を裁断	復習：帽子のパターンを完成	60分
14回	④ 縫製 仕上げ	復習：遅れている作業をすすめ帽子を完成 予習：プレゼンテーションの準備	60分
15回	⑤ プレゼンテーション 帽子、レザートートバッグの作品 講評	復習：修正の確認	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%	作品の完成度・プレゼンテーション能力
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	20%	ファッション色彩検定試験を含む

■教科書

『靴・ハンドバッグ・小物』(社団法人日本皮革産業連合会)
『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』(日本革類卸売事業協同組合)

■参考文献

BAG DESIGN -A HANDBOOK FOR ACCESSORIES DESIGNERS (FASHIONARY)
工業用マシンと漉き機の基本操作とメンテナンス (STUDIO TAC CREATIVE)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考

ファッション色彩検定3級を受験する。

東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

デザインプロセス

肉丸 美香子

2年 前期 プロダクト必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

デザインするということはアイデアやその概念を視覚可能な具体的な用途を持った形にするプロセスである。デザインは色や形により視覚的な美しさや魅力を追求すると共に、ユーザーのニーズや欲求を満たす機能的な要素を考慮することは極めて重要である。その為には、創造性、派生するさまざまな問題を解決する能力なども必要となる。

ここではファッションプロダクト製品の中からアイテムを決めムードボードの作成など、より高いレベルのデザインを生み出す方法を学ぶ。まずはアイデアスケッチやワイヤーフレームなどを作成しながらデザインの方向性を確認する。その後、各段階を踏まえ効率的にデザインプロセスを進めていく。

■到達目標（学修成果）

プロセスを踏まえてデザインしていくことにより、計画的なデザインを考えていく力が可能になる。そして自らの考えを他者に伝えるコミュニケーション能力、プレゼンテーション力が大きく飛躍する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。

ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション デザインプロセスの概要と重要性について	(予習)シラバスを読んで内容を確認	30分
2回	デザインコンセプトの具体例 アイデアの発想・リサーチ・デザインスケッチの方法	(復習)授業内容を理解する	30分
3回	Iプロジェクト（バッグについてディスカッション） ① デザインコンセプト（面談）	(予習)バッグについてのイメージや思いを考えてくる。	60分
4回	② デザインスケッチ（デザイン画の描き方） ③ ムードボード作成（PC使用）	(復習)デザインスケッチを完成	60分
5回	④ ムードボード作成（PC使用）	(予習)ムードボード作成のための資料収集	60分
6回	⑤ ムードボード作成（PC使用）	(復習)ムードボードを完成させる	60分
7回	IIプロジェクト（帽子についてディスカッション） ① デザインコンセプト（面談）	(予習)帽子についてのイメージや思いについて考えてくる。	60分
8回	② アイデアの発想（リサーチ） ③ デザインスケッチ（デザイン画の描き方）	(復習)デザインスケッチを完成させる	60分
9回	④ ムードボード（PC使用）	(予習)ムードボード作成のための資料を収集	60分
10回	⑤ ムードボード（PC使用）	(復習)ムードボードを完成	60分
11回	IIIプロジェクト)ペンダントヘッドについてディスカッション ① デザインコンセプト（面談）	(予習)ペンダントヘッドについてのイメージや思いについて考えてくる	60分
12回	② アイデアの発想（リサーチ）（PC使用） ③ デザインスケッチ（デザイン画の描き方）（PC使用）	(復習)デザインスケッチを完成	60分
13回	④ ムードボード作成（PC使用）	(予習)ムードボード作成のための資料収集	60分
14回	⑤ ムードボード作成（PC使用）	(復習)ムードボードを完成	60分
15回	プレゼンテーション（フィードバック）	(予習)プレゼンテーション準備	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で必ずフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度（出欠席）・姿勢（意欲）	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品の完成度とプレゼンテーション能力
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリントを配布

■参考文献 授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考

東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

アクセサリーデザイン

土方 祥典

2年 後期 プロダクト必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

ロストワックス製法を用いて、オリジナルデザインのアクセサリー制作、発表までを行う。授業はアクセサリーメーカーで行われる製品開発に近い形で行い、デザインの力、製品開発の視点を学修する。同時に金属という素材への理解を深め、ロストワックス製法の利点と可能性、実践的な工具を用いたモノづくりの魅力を探求しながら、直接身体に着けるアクセサリーについての技術と知識を修得する。担当者はジュエリーメーカーのクラフトマンとして商品企画開発と実制作に携わる実務経験豊富な教員による。

■到達目標（学修成果）

「ふわっとした」「すっきりした」など造形物を表現する上でよく使われる抽象的表現を、実際に手を動かしながら考え、学ぶことで、動画などでは得られない、ロストワックス製法によるアクセサリー制作の“知識”“技術”“感覚”を身に付けることが出来る。また、製品開発の中で実際の製品がどう出来上がってくるのか、製品の意図を読み取る力を学ぶ。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 1. WAXの特徴、説明 2. 工具の使い方	復習、予習：講義内容の反復し、動画等の情報も取り入れイメージを膨らませます。	30分
2回	デザイン考案、スケッチ a. ペンダントヘッド b. リング	予習：アクセサリーのリサーチ	30～60分
3回	デザイン、コンセプト決定(面談)	予習：コンセプト、デザイン等自分の考えを説明できるよう考える。	30～60分
4回	実物制作 a① WAXで原型制作(ペンダントヘッド)	復習：時間をおいて形を見直し、次の工程を想像する。	30～60分
5回	実物制作 a② WAXで原型制作(ペンダントヘッド)	予習：粗削りしたWAXから完成形をイメージする。	30～60分
6回	実物制作 a③ WAXで原型制作(ペンダントヘッド)	復習：仕上げまでの工程を思い返し、次回リング作成時のシュミレーションをする。	30～60分
7回	実物制作 a④ 磨き工程(ペンダントヘッド)	復習：磨きにおける各工程毎の進捗を振り返る。	30～60分
8回	実物制作 a⑤ 磨き工程(ペンダントヘッド) デザイン修正、企画見直し	復習：仕上げの鏡面度確認、各工程の振り返りを行う。	30～60分
9回	実物制作 b① WAXで原型制作(リング)	復習：時間をおいて形を見直し、前回(ペンダントヘッド)との比較、振り返りを行う。	30～60分
10回	実物制作 b② WAXで原型制作(リング)	予習：前回ペンダントヘッド制作時の振り返りと対策	30～60分
11回	実物制作 b③ WAXで原型制作(リング)	予習：前回ペンダントヘッド制作時の振り返りと対策	30～60分
12回	実物制作 b④ WAXで原型制作(リング)	復習：スパチュラの練習	30～60分
13回	実物制作 b④ WAXで原型制作(リング)	復習：研磨工程の振り返り	30～60分
14回	実物制作 b⑤ 磨き工程(リング)	復習：仕上げの鏡面度確認、各工程の振り返りを行う。	30～60分
15回	プレゼンテーション（フィードバック） 課題作品における講評を行う	予習：プレゼンテーション準備	30～60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

授業に関係した参考文献を随時紹介する。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に連絡する。

■備考

なし

デジタルデザインワーク I

金井 学

2年 前期 プロダクト必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

最も頻繁に利用される画像編集ソフトウェアである Adobe Illustrator 及び Photoshop の使い方を学ぶことを通して、デザインの基礎的な考え方を身につけていく授業である。

表現のためには、道具と技術、そして素材が欠かすことのできない要素としてある。これらの要素は相互に様々な働きをするため、一概に順序立てることができない。一方、視覚表現には論理的な構造（ルール）がある。それは決してただ恣意的に作られているのではない。道具（アプリケーション）は、その論理構造を技術のパッケージとして保存している。だから私たちがアプリケーションについて学ぶことは、それらが成立した技術について学び、さらにその先にある視覚表現の論理構造を学ぶことに繋がる。そしてその論理構造（が適用された生産物）＝表現は、再び素材に制約を受けることになる。こうした連続的な関係性を理解し、アプリケーションを自らの表現のための道具として扱うことができるようになることを目指す。

■到達目標（学修成果）

Illustrator, Photoshop/Lightroom の基本的な操作方法を修得することにより、デザイン/レイアウトされたものの意味を読み取れるようになる力を身につけることができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションプロダクトデザインコース必修科目で卒業要件科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期ガイダンス（前期授業内容の確認、自己紹介など）	復習:授業内容の確認	30分
2回	メディア・リテラシー1（PCの使い方について）	復習:PCの基本的な考え方・操作方法について確認する	120分
3回	メディア・リテラシー2（Webツールの使い方について）	復習:各種サービスの使い方、自分に合ったツールを見つける	120分
4回	素材を加工する1:ベクターとビットマップ	復習:画像の形式の違いを理解する	60分
5回	素材を加工する2:写真の基礎1	復習:露出の考え方、カメラの基本操作	60分
6回	素材を加工する2:写真の基礎2	復習:RAW現像、レタッチの作業工程、	60分
7回	素材を加工する3:レイアウトの基礎	復習:Illustratorの基本操作	60分
8回	素材を加工する3:文字と文字組み	復習:Illustratorの基本操作	60分
9回	レイアウト演習1	復習:Illustratorの基本操作	60分
10回	レイアウト演習2	復習:Illustratorの基本操作	60分
11回	前期末制作1 [課題発表/制作]	復習:課題に対して各自テーマを考える/エスキス（下図）をつくる	120分
12回	前期末制作2 [制作]	復習:課題に対して各自テーマを考える/エスキス（下図）をつくる	120分
13回	前期末制作3 [制作]	復習:エスキスをつくる/各自制作を進める	120分
14回	前期末制作4 [制作]	復習:素材の収集/各自制作を進める	120分
15回	前期末制作5 [提出/講評]	予習:作品提出の準備	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常に質問を受け付ける。また各提出物に対しては都度講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

水曜日 13:00-15:15 研究室：第3校舎4階3409

■備考

履修人数によって授業計画を若干変更する可能性がある。

デジタルデザインワークⅡ

金井 学

2年 後期 プロダクト必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

前期で学習した内容を踏まえ、Adobe Illustrator の操作方法の応用学習として図形表現、InDesign を使ったエディトリアル・デザインについての理解を深める授業である。

表現のためには、道具と技術、そして素材が欠かすことのできない要素としてある。これらの要素は相互に様々な働きをするため、一概に順序立てることができない。一方、視覚表現には論理的な構造（ルール）がある。それは決してただ恣意的に作られているのではない。道具（アプリケーション）は、その論理構造を技術のパッケージとして保存している。だから私たちがアプリケーションについて学ぶことは、それらが成立した技術について学び、さらにその先にある視覚表現の論理構造を学ぶことに繋がる。そしてその論理構造（が適用された生産物）＝表現は、再び素材に制約を受けることになる。こうした連続的な関係性を理解し、アプリケーションを自らの表現のための道具として扱うことができるようになることを目指す。

■到達目標（学修成果）

Illustrator, Photoshop の基本的な操作方法を修得することにより、デザイン／レイアウトされたものの意味を読み取るようになる力を身につけることができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションプロダクトデザインコース必修科目で卒業要件科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	後期ガイダンス	復習：前期の復習／後期授業内容の確認	30分
2回	ロゴをつくる1	復習：ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
3回	ロゴをつくる2	復習：ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
4回	ロゴをつくる3	復習：ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
5回	ロゴをつくる4	復習：ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
6回	連続模様パターンをつくる	復習：反復するパターンの制作／ILの応用	120分
7回	情報を整理する／ページネーションと編集1	復習：ポートフォリオの考え方／Adobe InDesign の使い方について	120分
8回	情報を整理する／ページネーションと編集2	復習：ポートフォリオの考え方／Adobe InDesign の使い方について	120分
9回	後期末課題1 [課題発表／制作]	復習：課題に対して各自テーマを考える／エスキス（下図）をつくる	120分
10回	後期末課題2 [制作]	復習：課題に対して各自テーマを考える／エスキス（下図）をつくる	120分
11回	後期末課題3 [中間発表／制作]	予習：制作プランのプレゼンテーションの準備	120分
12回	後期末課題4 [制作]	復習：各自制作を進める	120分
13回	後期末課題5 [制作]	復習：各自制作を進める	120分
14回	後期末課題6 [制作]	復習：各自制作を進める	120分
15回	後期末課題7 [提出／講評]	予習：作品提出の準備	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常に質問を受け付ける。また各提出物に対しては都度講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

火曜日 09:45-12:10 研究室：第3校舎4階3409

■備考

履修人数によって授業計画を若干変更する可能性がある。

プロダクトデザイン演習Ⅰ

大塚 武司

2年 後期 プロダクト必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながるデザイン基礎科目として、平面/立体デザイン作品の制作演習を行います。この授業では国内外での作品の発表、環境造形、メディアや店舗/空間/グラフィック、企業デザイン顧問の業務実績がある担当教員の経験を生かし、デザインの方法（発想・展開・定着・表現・伝達）を実施します。

■到達目標（学修成果）

学生はこの科目を履修し目的を達成すれば、発想力の柔軟性、オリジナル性高いデザイン力を身に付けることができプレゼンテーション力、コミュニケーション力も鍛えられます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目です。プロダクトデザインコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業ガイダンス / デザインの基礎的考察と著作権の解説。小課題の実施。	復習：著作に関する注意事項の復習 予習：次回課題の準備	180分
2回	デザイン基礎プログラム① オリジナルフォントデザイン演習/提出	復習：オリジナルアイデアについて再考 予習：次回課題の予習	180分
3回	デザイン基礎プログラム② ジャケットのデザイン演習/提出	復習：オリジナルデザインについて再考 予習：次回課題の予習	180分
4回	デザイン基礎プログラム③ 缶飲料のラベルデザイン制作/提出	復習：構造上のデザイン特性の再考 予習：次回課題の予習	180分
5回	デザイン基礎プログラム④ 立体カードの制作/提出	復習：立体構造について再考 予習：プレゼンテーションの準備	180分
6回	提出作品のプレゼンテーション。ディスカッションと教員の講評を行う。	復習：講評内容について再考 予習：次回課題の予習	180分
7回	発想強化プログラム。モチーフの観察とインスピレーションをデザインに展開する演習。	復習：展開する発送力について復習 予習：コラージュのための素材画像の準備	180分
8回	デザイン演習プログラム。包装紙をイメージしたコラージュ作品の制作。	復習：提出作品についての再考 予習：プレゼンテーションの準備	180分
9回	コラージュ作品を包装紙に見立て梱包の検証。プレゼンテーション/ディスカッション/教員による講評。	復習：講評内容の考察 予習：ブラッシュアップのための準備	180分
10回	デザイン演習プログラム。ケント紙による立体造形作品の制作。	復習：多面体の再考 予習：プレゼンテーションのための準備	180分
11回	立体造形作品プレゼンテーションとディスカッションおよび教員の講評。	復習：立体造形に関する復習 予習：次課題のデザインイメージ予習	180分
12回	デザイン実践プログラム。ランプシェードの制作。	復習：途中経過の考察 予習：ブラッシュアップのための準備	180分
13回	ランプシェードの制作（ブラッシュアップ）および完成提出。	復習：制作作品の構造とデザインの確認 予習：プレゼンテーションのための準備	180分
14回	ランプシェード作品発表とディスカッションおよび講評。	復習：提出作品について再考 予習：後期作品総評のための準備	180分
15回	プロダクトデザイン演習Ⅰ総評まとめ/小課題と解説	復習：講評内容の復習と、今期提出作品を振り返り、今後の生かし方の考察を行う	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品提出後に解説やディスカッションを設け採点と返却をする。質問は授業時間外でもEメールにて受け付ける。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	理解度、積極性、授業態度、出席状況を加味する
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品完成度、アイデア、デザイン性、表現力を評価
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

必要に応じて資料を配布

■参考文献

適宜紹介

■オフィスアワー・研究室

授業前後は講師控室または教務課まで連絡してください。

■備考

制作に必要な画材、筆記用具などは準備してください。

進度により課題内容を変更する場合があります。

消費者行動論 I

中山 英士

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

消費者行動に関わる基本的な概念を紹介するとともに、消費者行動の諸理論をマーケティング活動へと展開させる実践方法について企業にコンサルティングを行っている経営コンサルタントの実務家教員から示し、その手法を得ることを方針とします。

■到達目標（学修成果）

- ① 消費者行動の基本的な概念を把握できる（消費者ニーズ・買い物行動・購買意思決定等）
- ② 消費者行動に基づくマーケティング活動への展開方法を把握できる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。ファッションビジネスを理解し、応用する理論の基礎力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【イントロダクション】消費者行動とは何か	予習：シラバスを読み講義の全体構成を把握	30分
2回	消費者ニーズ	予習：アパレル業界における消費者ニーズの変化についての考察	30分
3回	買い物行動	予習：直近の買い物では、自分自身の何の欲求を満たしたかを整理	30分
4回	購買の意思決定メカニズム	予習：直近の買い物について、購買に至った経緯を振り返りプロセスを整理	30分
5回	消費者行動を取り巻く環境の分析	【1回～4回の復習】 消費者行動プロセスの理解	30分
6回	消費者行動の分析①	復習：消費者行動を定量的に調査・分析する具体的な手法について	30分
7回	消費者行動の分析②	復習：消費者行動を定性的に調査・分析する具体的な手法について	30分
8回	パーパス・ブランディング	復習：パーパスの創り方について	30分
9回	STP（顧客戦略）	復習：有効なセグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングについて	30分
10回	ブランドとコミュニケーション①	【5回～9回の復習】 各種フレームワークの理解	30分
11回	ブランドとコミュニケーション②	予習：自分自身の興味関心がある広告とその興味関心理由を自己分析し整理	30分
12回	デジタルマーケティング	復習：消費者行動に関わるデジタルデータの種類について	30分
13回	店頭マーケティング	復習：マス広告と店頭販促の繋がりについて	30分
14回	アクティブ・ラーニング： ペルソナ設定・カスタマージャーニー作成	復習：授業内のワークで作成したカスタマージャーニーの精緻化	30分
15回	全体まとめ	【10回～14回の復習】 消費者行動全般の理解	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で個人ワークとして試験を実施し、次の授業時に講評する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：初回授業時に呈示

連絡研究室：ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 3207

■備考 なし

ビジネスプレゼンテーション技法

水越 綾

2年 前期 ビジネス系必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

企画、MD（製品・商品計画）デザイン等に取り組んでいく上で、ビジュアル・コミュニケーション・デザイン（Visual communication design） or ビジュアル・デザイン（Visual design）は重要で。

本授業では企画立案からプレゼンテーションまでの取り組みを通し、アプリケーションスキルの向上を主軸としながらも、創造力・計画性・伝える力・批判的思考力を育成する科目になります。

■到達目標（学修成果）

- 1年次に学んだ Adobe Photoshop/Illustrator/Firefly, Microsoft PowerPoint の基礎力を定着させ、さらに表現手法のバリエーションを身に付ける事ができるようになる。そして、イメージを適切に可視化するための手段としてこれらのアプリケーションを活用することができる。
- これまでに得た知見を活かすだけでなく、更に知識や経験・技術力を深めながら課題に取り組むことができる。
- 批判的思考力を働かせながら課題制作に取り組むことができる。
- 客観的な視点を維持し、適切に伝えることができる資料作成に努めることができる。
- 他者著作物の権利侵害にならぬよう情報を適切に扱えるよう努めることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ビジネスコースの必修科目であり、また卒業要件科目の科目である。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、Photoshop 基本操作の確認	予習：情報演習Ⅱで使用したテキストを確認しておく。／生成AIをとりまく問題、課題、権利問題、Fireflyのユーザーガイドラインについて確認しておく。 課題：企画書案の作成（ターゲット、コンセプト等詳細にまとめる）ブランドリサーチ	90分
2回	Photoshop 基本操作の確認と応用／Fireflyの操作確認・練習（生成AIをとりまく問題、課題、権利問題、Fireflyのユーザーガイドラインについて確認） 企画書提出：企画内容に関するディスカッション。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：企画書案のブラッシュアップ、ブランドリサーチ／提出企画の学生間チェック	90分
3回	Photoshopを使用した課題①（企画書の為の素材作成：ブランドイメージカラー） 企画書提出：企画内容に関するディスカッション。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：素材収集、ターゲットインタビュー、インタビューレポートの作成、インタビューを受けて企画案の見直し・再構築、課題を進めておく	90分
4回	Photoshopを使用した課題①（企画書の為の素材作成、ブランドイメージカラー） 企画書提出：企画内容に関するディスカッション。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：素材収集、ターゲットインタビュー、インタビューレポートの作成、インタビューを受けて企画案の見直し・再構築	90分
5回	Photoshopを使用した課題②（企画書の為の素材作成、ファッション画作成） データスキニング。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ファッション画（線画）を描き、manabaに提出→内容確認の後、修正があれば修正・再提出	90分
6回	Photoshopを使用した課題②（企画書の為の素材作成、ファッション画作成）。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ターゲットインタビュー、インタビューレポートの作成、インタビューを受けて企画案の見直し・再構築	90分
7回	Illustrator 基本操作の確認と応用 データスキニング。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ハンガーイラストを手描きで描き、manabaに提出→内容確認の後、修正があれば修正・再提出	90分
8回	Illustrator 基本操作の確認と応用 Illustratorを使用した課題①ハンガーイラスト作成。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ハンガーイラストを手描きで描き、manabaに提出→内容確認の後、修正があれば修正・再提出	90分
9回	Illustratorを使用した課題①ハンガーイラスト作成。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ブランドコンセプトに基づいたロゴ案を考えておく。ラフ案を描き、manabaに提出→内容確認の後、修正があれば修正・再提出	90分
10回	Illustratorを使用した課題①ハンガーイラスト作成。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ブランドコンセプトに基づいたロゴ案を考えておく。ラフ案を描き、manabaに提出→内容確認の後、修正があれば修正・再提出	90分
11回	Illustratorを使用した課題②ロゴ作成 提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：ロゴ案作成	90分
12回	Illustratorを使用した課題②ロゴ作成 提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	課題：課題制作	90分
13回	『伝わる』プレゼンテーションについて プレゼンテーション用資料作成（PowerPoint）提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	予習：指定資料を事前に目とおしておく 課題：課題制作	90分
14回	プレゼンテーション用資料作成（PowerPoint）提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいはmanabaでおこなう。	発表に向けた資料作成	90分
15回	課題発表と振り返り（発表時にmanabaを通じて学生間相互評価をしてもらう。客観的に自分の作品を振り返り、ブラッシュアップしてもらう。発表内容に関してのフィードバックは全体、あるいはmanabaで実施する。）	リフレクションシート作成	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業内口頭（個別・全体）・学内システム（manaba）等を使用して行なう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manabaでの振り返り等総合して成績評価致します。 ルーブリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。評価は教員による評価に加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。 それ以外の評価基準については、授業内に指示します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 なし

■参考文献：伝わるデザインの基本（技術評論社） なるほどデザイン（Mdn）、1年次の情報演習Ⅱで使用したテキスト（Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書）を持参する事を勧めます。

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーについては、第1回目の授業で指示する。研究室：研究棟1階6012B

■備考：データ保存用のUSBを用意しておくこと。授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスする。連絡事項はmanabaを通じておこなうので、manabaを良く確認しておくように。

企業会計入門

田中 恵美子

2年 前期

ビジネス系必修・モードテクノロジー系選択

(2単位 講義)

■授業の方針・概要

就職活動を開始すると、それぞれの会社の目標、理念、経営方針などが、さまざまな言葉で語られていることに気づきます。自分の才能を十分に発揮できる会社はどこなのか迷ってしまうことも少なくありません。そこで本講義では、財務諸表を通じて企業の本来の姿を数字で読み解く手法を学び、言葉では語られることのない企業の強みや弱みを分析します。まず使用されている数字が私たちにどのようなイメージや意味を与えるのかを確認し、次に企業会計のしくみ、財務諸表の構造を学習します。さらに演習を通じていっそうの理解を深め、最後にこれらの数字を比較・検討、分析できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

本講義の到達目標は、財務分析の基本的手法を体系的にとらえ、企業実態を読み取る力を習得することにあります。したがって、次の3段階がその目標の目安となります。

- (1) 企業の成績表といえる財務諸表の基本構造が理解できるようになる。
- (2) 基本的な財務分析の手法が使用できるようになる。
- (3) 数値結果をもとに企業の収益性が理論的に分析できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

「企業会計入門」はビジネス系の必修科目であり、モードテクノロジー系は専門選択科目です。いずれも卒業要件に必要な科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、授業計画、授業の概要説明 身近な会計数字を知る	復習：身近に溢れる会計数字がどのような意図で使用されているかを確認	15分
2回	損益計算書の構造	復習：基本的な損益計算書で構造を確認	30分
3回	損益計算書の作成①	復習：損益計算書のひな型を実際に作成	30分
4回	損益計算書の作成②	復習：損益計算書の全体構造と5段階の利益の意味を理解	60分
5回	貸借対照表の構造	復習：基本的な貸借対照表の構造を確認	30分
6回	貸借対照表の作成①	復習：貸借対照表の各項目の細分類を理解し、実際に作成	30分
7回	貸借対照表の作成②	復習：貸借対照表と損益計算書のつながりを総合的に理解し、両計算書類を実際に作成	60分
8回	収益性の分析（分析指標と分解）①	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
9回	収益性の分析（分析指標と分解）②	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
10回	収益性の分析（分析指標と分解）③	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
11回	収益性の分析（補助指標を含む分析）①	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解と総合分析	30分
12回	収益性の分析（補助指標を含む分析）②	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解と総合分析	30分
13回	総合比較分析（演習Ⅰ）	復習：財務諸表の全体構造を理解し、収益性の総合分析を整理・確認	60分
14回	総合比較分析（演習Ⅱ）	復習：財務諸表の全体構造を理解し、収益性の総合分析を整理・確認	60分
15回	総まとめと演習問題	復習：演習問題を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に演習問題についての解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 特にありません。

■参考文献

田中恵美子著 『精説 簿記論』 大学教育出版

■オフィスアワー・研究室

出講日：前期 水曜日

連絡先：教務課（本校舎1階）

■備考 受講者の理解度を確認しながらゆっくり進行していきますので、会計知識や数字に強い必要はありません。配布するレジュメはファイルに整理し、電卓とともに毎時間持参してください。

グローバルマネジメント特論 I

山田 晶子

2年 後期 ビジネス系必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業では社会潮流をベースとした、グローバル時代におけるファッションビジネスの課題を様々な観点から捉え、今後のファッション産業に求められる企業経営の方向性を、ファッションビジネス・マネジメント視点で探究していきます。グローバル市場と文化、ファッションの関係性を学び、商品のみならず、その経営理念、組織形態、リーダーシップ等、ブランドエクイティとしての成立を、事例により研究。担当講師の現場における実務経験や、業界リサーチャーの視点等から、時代性に根差した学習を実施、21世紀における、グローバル市場への考え方や、その戦略に関して、入門的理解を深めます。実感値の醸成を主眼とした、アクティブラーニングによる授業運営も実施してまいります。

■到達目標 (学修成果)

本授業を履修し、学修の目標を達成できた結果、社会潮流とファッションの関係性をベースに、入門編としての21世紀型グローバル市場の理解、今後のファッションビジネス・産業界の方向性の捉え方、起業家としての考え方や着眼点が修得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションビジネス・マネジメントコース、流通イノベーションコースの卒業要件科目、必修専門科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション ファッションビジネスにおけるグローバルマネジメントとは	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	グローバル市場のブランディング① 「日本」×「文化」⇒「ファッション」～グループディスカッション	予習：日本発グローバルファッション① 復習：「文化」とファッションの関係性	30分
3回	グローバル市場のブランディング② グローバル視点と日本発ブランド～グループディスカッション	予習：日本発グローバルファッション② 復習：当回のディスカッション振り返り	30分
4回	グローバル市場のブランディング③ ＜事例研究＞社会潮流とブランドに求められるもの	復習：日本発グローバルファッション③ 経営理念とビジネスモデル	30分
5回	実習「レポート作成」 演習へのベースを整理確認するため、テーマに沿って着眼点の整理	予習：演習へのベースとしての内容整理と確認	30分
6回	社会潮流とグローバルマネジメント① 第5回のフィードバック、持続可能と企業のミッション背景研究	予習：社会潮流における持続可能と企業のミッションを確認	30分
7回	社会潮流とグローバルマネジメント② 生活・ファッションへのキーワード～国内外の事例研究を共有	予習：直近のグローバルムーヴメント収集	30分
8回	グローバルマネジメント I 演習① グループワーク これからのFビジネス (社会潮流共有～ファッションビジネスの芽)	予習：ビジネスへの骨格づくり 復習：自グループの意見確認	30分
9回	グローバルマネジメント I 演習② グループワーク これからのFビジネス (ファッションビジネス具現化への5W2H)	予習：テーマへの5W2H考案 復習：自グループのテーマ深掘り	30分
10回	グローバルマネジメント I 演習③ グループワーク これからのFビジネス (ファッションビジネス具現化への深掘り)	予習：SDGsと企業のミッション	30分
11回	グローバルマネジメント I 演習④ グループワーク これからのファッションビジネス (SDGs、企業のミッション)	予習：全体観およびリアリティあるファッションビジネス創造	30分
12回	グローバルマネジメント I 演習⑤ グループワーク これからのファッションビジネス (グローバル展開への視点)	予習：プレゼンテーション準備	30分
13回	グローバルマネジメント I 発表① プレゼンテーション 各班より発表 (生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成)	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
14回	グローバルマネジメント I 発表② プレゼンテーション 各班より発表 (生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成)	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
15回	グローバルマネジメント I 発表③ プレゼンテーション 各班より発表、プレゼンテーション内容のフィードバック	復習：講評から、全体観とポイントの整理 期末レポート作成・提出	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

プレゼンテーションとレポート実施 (期中・期末) に関して、第6回、第15回にて、確認と講評を行ないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書はなし。毎回、学習資料を配布します。

授業形態は「配布資料を基にパワーポイントで講義～グループディスカッション」となります。

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネスマネジメント研究室 (第3校舎4階/授業終了後)

■備考

毎回、配布する学習資料を持参してください。

授業の進行状況により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

ファッションエディトリアルⅠ

千代崎 寛

2年 後期 ビジネス系必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションビジネスの場において情報を伝達するための方法、考え方を「エディトリアル（編集）デザイン」の視点から学んでいく。画像イメージを得るための撮影から編集を経て最終プロセスまでを段階ごとに確認・検証しながら進めていく。ルックブックやカタログなどの制作を編集デザインのワークフローから学び、他のメディアへの応用を通じてコミュニケーションとメッセージ表現のアプローチと方法を探る。制作と併行して記録のためのスタジオワーク、編集段階での知的財産権（引用・クレジットなど）の考え方をグラフィックデザインの技術（レイアウト）から実践していく。各自の思考の広がりや表現力、社会との関係における自身の視点を準備していく事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

1. ビジュアルイメージを具体化するための基礎的な「表現能力」を身に付けることが可能となる
2. 制作とプレゼンテーションを通して「つたえる・つたわる」関係の重要性について考察や理解ができる
3. デジタル制作環境・ネットワーク環境の基礎的な理解と活用する「術」を身に付けることが可能となる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については「ファッションエディトリアルⅠ」はファッションビジネスの企画・提案や流通の場において活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・授業概説と導入 エディトリアルデザインについて～（メディアリテラシー）	復習：カリキュラム表・プリントの内容を熟読しておく。	30分
2回	エディトリアルデザイン（編集デザイン） DTP演習①「DTPのワークフロー」レイアウトと出力	予習：リサーチや進行に必要なリソースの収集・準備など	60分
3回	DTP演習② ※データ管理における配慮について レイヤー、チャンネル、パスのテクニック	予習：画像撮影のための準備、スタイリングとロケーションプランの準備	90分
4回	【テーマ1】ルックブック制作① 撮影編①（ロケ屋内・外）※撮影現場における配慮について	予習：撮影後のコンタクトシートによる選定とスタジオ撮影プランの準備	60分
5回	【テーマ1】ルックブック制作② 編集編① ※編集における配慮について	予習：撮影後のコンタクトシートによる選定とスタジオ撮影プランの準備	30分
6回	【テーマ1】ルックブック制作③ 撮影編②（ロケ屋内・外）※プライバシー・肖像権について	予習：レイアウト資料の作成と準備	60分
7回	【テーマ1】ルックブック制作④ 編集編② ※知的財産権の考え方・著作権の表記について	予習：中間プレゼンテーションをもとにプランを練り上げる	60分
8回	【テーマ1】ルックブック制作⑤ 撮影編③（ロケ屋内・外） 研究テーマ中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションをもとにプランを練り上げる	30分
9回	【テーマ1】ルックブック制作⑥ 編集編③ 【テーマ2】制作①	予習：プランに沿った制作と確認・検証	30分
10回	【テーマ1】ルックブック制作⑦	予習：プランに沿った制作と確認・検証	30分
11回	【テーマ1】ルックブック制作⑧ 撮影編（予備） 完成データ出力と製本	予習：様々なメディア表現のリサーチ	60分
12回	【テーマ1】ルックブック制作⑧ メディア表現・デザインのワークフロー	予習：プランに沿ったメディア表現の制作と確認・検証	60分
13回	【テーマ1】ルックブック制作⑨ 【テーマ2】制作②	予習：テーマⅠ・Ⅱプレゼンテーションのための準備	30分
14回	【テーマ1】ルックブック制作⑩ ※表現・公開・出版 【テーマ2】制作③	予習：制作ノート提出のための準備	180分
15回	まとめ・展開 テーマⅠ・Ⅱプレゼンテーションと講評	復習：まとめと考察	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッションとノート、プレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示する。研究室：先端ファッション表現研究室（目黒校舎研究棟 3F）

■備考

表出されるイメージは過去にみた「もの・こと」からのみ産み出される。イメージをOutputし続けるためには常にInputし続ける必要がある。その円環する環境・システムを自分の中に構築して欲しい。

ファッションマーケティング論

岩佐 彰則

2年 前期 ビジネス系必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

モノが売れないといわれる現代において、マーケティングの重要性は一層増しています。アパレル業界において、大小様々な企業で事業を立ち上げ、経営に携わってきた実務家の視点で、ファッションビジネスにおけるマーケティングを論理的、かつ実践的に学んでいきます。

■到達目標（学修成果）

マーケティングの面白さを知ってもらい、常に経営視点でのマーケティング思考を身につけることで、変化の激しいファッション業界をリードし、アントレプレナーとして、新たな市場を創造できるようになることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。ファッションビジネス系コースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション：マーケティングとは？	課題【レポート提出】	30分
2回	マーケティングのマネジメント_セグメント・ターゲティング	課題【レポート提出】	30分
3回	マーケティングのマネジメント_ポジショニング	課題【レポート提出】	30分
4回	マーケティングのマネジメント_製品	課題【レポート提出】	30分
5回	マーケティングのマネジメント_価格	課題【レポート提出】	30分
6回	マーケティングのマネジメント_広告	課題【レポート提出】	30分
7回	マーケティングのマネジメント_チャネル	課題【レポート提出】	30分
8回	マーケティングのマネジメント_サプライチェーン、営業	課題【レポート提出】	30分
9回	関係のマネジメント_顧客関係	課題【レポート提出】	30分
10回	関係のマネジメント_ビジネスモデル	課題【レポート提出】	30分
11回	関係のマネジメント_顧客理解	課題【レポート提出】	30分
12回	関係のマネジメント_社会責任	課題【レポート提出】	30分
13回	関係のマネジメント_ブランド組織	課題【レポート提出】	30分
14回	関係のマネジメント_社会責任	課題【レポート提出】	30分
15回	まとめ		30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

講義毎にレポートを提出していただきます。フィードバックはmanabaで個別に回答させていただきます。講義は毎週、グループ討議でディスカッションしながら、理解を深めていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題	40%
期末試験・課題	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

石井淳蔵、他(2020)『1からのマーケティング<第4版>』碩学舎

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

講師控室 詳細は初回授業に連絡します

■備考

日程及び内容は授業の進行具合に合わせて変更する事もあります

プレゼミ (マネジメント)

長瀬 泰典・大極 勝・鈴木 康久

2年 通年 マネジメント必修 (2単位 講義・演習)

■授業の方針・概要

本科目は3年次以降における専門性の高い科目受講に向けた基盤作りとしてファッションビジネスやマーチャンダイジングの基礎を修得出来ます。前期フェーズ①では生活者の消費行動からマーチャンダイジングに至る過程を中心に学習し、後期フェーズ②ではファッションビジネスをキーワードに、業界理解・職種理解を通じた広範分野の職種研究や企業訪問等を通じた体験型学習を実施していきます。加えて総合的な学習基礎能力の醸成を目指し ICT 基礎学習やキャリアプラン学習を行います。授業内でグループによるディスカッションやディベート等のアクティブラーニングを活用した理解浸透を図っていきます。

本科目運営は3人の講師によるオムニバス形式のカリキュラムとなります。長年にわたる実務経験者である3人の教員のそれぞれの専門分野に即して、ファッションビジネスを川上～川下まで広域な学習による授業運営となります。(長瀬ー生産関連、大極ーアパレル企画、鈴木ーリテール・生活者)

■到達目標 (学修成果)

- ①ファッション産業を取り巻く広範な分野について企業・団体・職種に対して体系的に知識習得が出来ます。
- ②業界実企業訪問や実務経験者のゲスト講師の来校等、臨場感があり、かつ実践的な業界理解を得られます。
- ③アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。
- ④上位学年で活用されるマーチャンダイジング関連の基礎知識の習得とプレゼン資料作りの一端が早期に習得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目であり、また卒業要件科目の単位となります。

■授業計画 前期フェーズ① 長瀬 泰典・鈴木康久 担当

回数	授業内容(前期)	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回 鈴木	全体ガイダンス、グループワーク キャリアプラン&自発的学習プラン策定	予習 シラバスの確認 復習 授業課題と配布資料振り返り	30分
2回 鈴木	ファッションビジネス業界理解 川上～川下、職種理解、グループワーク	予習 職種調査 復習 配布プリントの振り返り	30分
3回 鈴木	ICTの基礎学習① Google プラットフォームのビジネスへの活用	予習 Google アカウント確認 復習 フォーム作成と学習内容振り返り	40分
4回 鈴木	ICTの基礎学習② ファッションビジネスと ICT 活用 (プレゼンテーションスキル)	予習 前回提示の課題の取組み 復習 配布プリント振り返り	40分
5回 鈴木	生活者の消費行動変化 コロナ禍の生活者の消費行動変化、インサイト グループワーク、ディベート、プレゼン	予習 コロナ禍における各自の消費行動変化を抽出 復習 グループ発表の振り返り	30分
6回 長瀬	EC プラットフォームビジネスの仕組み (ZOZO 事業部長)	予習 シラバスの6～15回の確認 復習 仕組みを理解した上で様々なプラットフォームの違いを検証する	40分
7回 長瀬	テレビショッピングビジネスの流れ (QVC ビジネス関係者)	予習 業界関連企業と放映内容の確認 復習 仕組みを理解した上で課題や対策を検証する	60分
8回 長瀬	ファンマーケティングとグッズ販売の可能性 (ノベルティー作成会社)	予習 自身の経験を元にファンマーケティングを考える 復習 成長するグッズ販売の可能性をシュミレーションする	60分
9回 長瀬	無人レジ・デジタルマーケティング技術の進化 (エブリデイデニソン (RFID) マネージャー)	予習 身近な無人レジの確認 復習 デジタル技術の進化と顧客目線の利便性を再考する	45分
10回 長瀬	海外貿易 (輸出入) の仕組みと業界との関係 (アリスペッドジャパン部長)	予習 身近な輸入商品の確認 復習 購入した洋服がどのような仕組みで店頭まで到着したのかを検証する	45分
11回 長瀬	商社の機能と海外マーケットの可能性 (元三菱商事繊維本部長)	予習 商社の事前学習 復習 業界全体を調査し、各商社の特徴や違いを検証する	45分
12回 長瀬	NPO・NGO ビジネスからみたコットン業界 (コットンイニシアチブ協会)	予習 身近なコットン製品の確認 復習 コットン業界の課題や解決方法を自身の考えで整理する	45分
13回 長瀬	検品業界からみた二次流通業界の成長 (ファッションクロスフルシマ)	予習 身近な二次流通製品の確認 復習 成長する二次販売業界の裏側をイメージし業界の変化を検証する	60分
14回 長瀬	欧州で進化するサーキュラーファッション (COVEROS フィンランド社)	予習 身近なサーキュラー製品の確認 復習 欧州と日本のサーキュラーファッションの違いを調査する	45分
15回 長瀬	SPA 業界の成長と変化 (大手 SPA アパレル事業部長)	予習 身近な SPA 商品の確認 復習 SPA のメリットとデメリットを検証し、業界の変化を整理する	45分

■授業計画 後期フェーズ② 大極 勝・鈴木康久 担当

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
16回 鈴木	生活者変化考察・新顧客創造① 市場調査、顧客ターゲット、ブランディング	予習 前期配布資料の読み込み 復習 配布プリントの振り返り	30分
17回 鈴木	生活者変化考察・新顧客創造② グループワーク、ディベート、企画作り	予習 提示課題の取組み 復習 作成した企画プランの読み込み	40分
18回 鈴木	新ビジネス創造・新ブランド創造① 市場分析、ポジショニング、MD戦略考察	予習 提示課題の取組み 復習 配布プリントの振り返り	30分
19回 鈴木	新ビジネス創造・新ブランド創造② グループワーク、ディベート、企画作り	予習 提示課題の取組み 復習 作成した企画プランの読み込み	40分
20回 鈴木	総合プレゼン 生活者変化～インサイト～ビジネスプラン	予習 プレゼン準備 復習 チームプレゼン内容の振り返り	30分
21回 大極	教室：オリエンテーション＝実社会に必要な知識のまとめ 第18回～22回の講座内容の総合学習	予習 シラバスの確認 復習 学内外を問わず、人との関わり方や倫理観などについて考える	40分
22回 大極	品質検査業務研究（レリアン品質管理） 今日の品質検査のあり方について学ぶ	予習 品質管理を検索する 復習 品質検査業務とファッション産業の関連性を考える	40分
23回 大極	企画・制作業務研究①（ジャパンスコープ） 布帛製品からニットまで、その製作工程全般を学ぶ	予習 OEM・ODMを検索する 復習 アパレル産業の企画～製造を考える	40分
24回 大極	企画・制作業務研究③（トゥモローランド） 企画担当社によるアパレルマップ作成実習指導	予習 企業の事前学習 復習 配布資料の振り返り	40分
25回 大極	化粧品業界研究（企業訪問・Lebel化粧品） モードとヘアメイクの関係について	予習 企業研究 復習 化粧品業界とモードの関わりを考える	40分
26回 大極	内装、マネキン、什器業界研究（小田急百貨店） 業態としての百貨店業	予習 企業研究 復習 百貨店の歴史から今を考える	40分
27回 大極	リペア業務研究（外資系企業訪問・パタゴニア）	予習 訪問企業の事前研究 復習 外資系アパレル産業の業務全般と地球環境保護について考える	40分
28回 大極	ニット・カットソー工房研究（小倉メリヤス） オリジナルカットソー制作実習	予習 身近なニット製品の確認 復習 ニットアパレル産業の業務全般を考える	40分
29回 大極	染色技術と商品差別化（内田染工） 染色の歴史とファッション製品への応用について学ぶ	予習 染色の種類の確認 復習 染色技術とファッションの関わりを考える	40分
30回 大極	教室：第23回～28回の復習と期末レポート指導	予習 該当回のレジュメ確認 復習 ファッション業界の今と未来の考察	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フェーズ① 課題に関しては、次回授業時の始めにフィードバックをします。

発表はグループ、個人での発表があります。

フェーズ② 各回の企業訪問時間内に振り返りレポート提出。期末レポート提出後に掲示板にて総評によるフィードバック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 フェーズ① 資料を授業で配布

フェーズ② 指定教科書なし。各回で担当企業ごとの参考資料を配布します。

■参考文献 フェーズ① 尾原蓉子著グローバリゼーションとデジタル革命から読み解く Fashion Business 創造する未来

フェーズ② 授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

フェーズ① FB マネジメント教室 [3402 教室] にて授業前 30 分前待機。

フェーズ② FB マネジメント教室 [3402 教室] にて授業前 30 分前待機。

■備考 フェーズ① 企業の担当者を通じ、その業界、企業ならではの視点で話をいただく予定です

毎回、配布する学習資料を持参してください。

フェーズ② 学外への企業訪問時は開始時刻が遅くなるために終了時刻が遅くなる可能性がありますのでご注意ください。また授業の進行状況により、スケジュール及び授業順番や内容が変更される場合があります。

プレゼミ(イノベーション)

五月女 由紀子・下村 友紀子

2年 通年 イノベーション必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

流通イノベーションコースの導入ゼミの位置づけです。生活者の最近のデジタル購買行動の変化から、社会も企業も SNS 運営が必須となってきました。コースに必須の技術として SNS 運営を学びます。教員のアカウント管理のもと、チーム別に TikTok による短尺動画を投稿し、コースアカウント「服飾学生の日常」を発信します。また、Instagram のリール投稿も行い、大学生生活のさまざまな場面を動画として表現することで、スマートフォンによるネットコンテンツを発信するスキルを習得します。クリエイターズプラットフォーム「note」の執筆と投稿も行います。コースとしての note マガジン「杉野生のファッションと日常」を編集して、WEB 記事による SNS 運用の幅を広げます。SNS 運営の活動は、3 年のネットショップ運営ゼミの導入に必須であると同時に、学生自らが実施するというアクティブラーニングとなります。平行して、アパレル企業、商業施設、ファッションテック企業、メディア関係など複数の企業の協力により、ファッション業界で促進しているデジタル販売スキルの向上と EC の基礎知識の習得を目指します。

■到達目標 (学修成果)

アパレル企業で必要とされている SNS 運営を体験するなど、アパレル業界のデジタルマーケティング運用の基礎イメージを固めることができます。ファッションビジネスのデジタル手法を修得し、3 年からのコース専門科目への導入を促します。リアルとデジタル双方でのオムニチャネル販売を理解できる成果として、「ファッション販売能力検定」に合格するための知識を習得します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。ファッションビジネス・流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
前期 1回	オリエンテーション 自己紹介 流通イノベーションコースの説明	予習：シラバスを読む。	30分
2回	生活者のデジタル購買動向の特徴 オムニチャネル時代の生活者 (消費者) の変化	復習：授業の課題を提出する (自分の消費行動をまとめる)	30分
3回	SNS 運営の実践① TikTok アカウント管理について チームに分かれて動画の目標を決める プロジェクトリーダー、企画担当、撮影担当、編集担当、運用担当、分析担当の決定をする。	予習：動画を撮る準備をする 復習：動画投稿をする	90分
4回	ファッションビジネスにおける企業の SNS 運用の特徴	復習：授業について振り返る	30分
5回	SNS 運営の実践② クリエイターズプラットフォーム「note」 アカウントの作成と投稿 「杉野生のファッションと日常」コースマガジンを作成	復習：原稿を完成して投稿する mana に note の URL を提出する	60分
6回	業界別企業事例研究① アパレル企業：MARK STYLER (マークスタイラー) 商品企画の DX	復習：授業の所感を提出する	60分
7回	SNS 運営の実践③ TikTok 「服飾学生の日常」チーム別動画制作と投稿更新	復習：動画投稿をする	60分
8回	SNS 運営の実践④ note 個人投稿 マガジン編集	復習：原稿を完成して投稿する mana に note の URL を提出する	60分
9回	業界別企業事例研究② 商業施設 SHIBUYA109 LAB. 若者 (Z 世代) 研究と調査結果	復習：授業の所感を mana に提出する	30分
10回	SNS 運営の実践⑤ TikTok 「服飾学生の日常」投稿更新	復習：動画投稿をする	60分
11回	アパレル業界の構造の理解 昨今のアパレル DX とサステナビリティ	復習：授業について振り返る	30分
12回	「日本服飾文化振興財団」訪問 ヴィンテージや資料などを体験	復習：訪問の所感を mana に提出する	30分
13回	SNS 運営の実践⑥ note 個人投稿 マガジン編集	復習：原稿を完成して投稿する mana に note の URL を提出する	60分
14回	SNS 運営の実践⑦ TikTok チーム別インサイト分析 発信後の視聴者数やフォロワー数の確認	復習：動画投稿をする	60分
15回	デジタルマーケティングに関して まとめ	予習：考察事案について振り返る	30分

後期 16回	SNS 運営の実践⑧ TikTok 「服飾学生の日常」投稿更新	復習：動画投稿をする	30分
17回	SNS 運営の実践⑨ note 個人投稿 マガジン編集	復習：manaバに note の URL を提出する	60分
18回	アパレル企業のインフルエンサー 販売スタッフのデジタル接客	復習：考察事案について振り返る	30分
19回	業界別企業事例研究③：オンワードクローゼット EC モールの MD と店舗との関係	復習：manaバに授業の所感を提出する	30分
20回	SNS 運営の実践⑩ Instagram 大学生生活の動画をリールに投稿	復習：動画投稿をする	30分
21回	業界別企業事例研究④：アパレル企業：アダストリア ドットエスティ (EC) と店舗の関係、店舗スタッフの活躍	復習：manaバに授業の所感を提出する	30分
22回	「ファッション販売能力検定」の理解と指導 過去問と問題傾向の確認	復習：12月検定合格に向けての復習	60分
23回	SNS 運営の実践⑪ TikTok 「服飾学生の日常」投稿更新	復習：動画投稿をする	30分
24回	SNS 運営の実践⑫ note 投稿と分析 ダッシュボードによるインサイト分析とマガジン編集	復習：インサイトから発信内容と方法を 振り返る	60分
25回	アパレルとメディア WEB 雑誌、雑誌社の YouTube 配信 紙媒体から WEB 媒体への転換	復習：manaバに授業の所感を提出する	30分
26回	Maison AI による画像生成 AI の実践 3年ゼミに向けて T シャツデザイン準備	復習：プロンプトの復習	60分
27回	SNS 運営の実践⑬ TikTok「服飾学生の日常」投稿更新	復習：動画投稿をする	30分
28回	業界別企業事例研究④ 商業施設 J フロントリテイリング メタバースの活用によるリテールの未来	復習：manaバに授業の所感を提出する	30分
29回	SNS 運営の実践⑭ TikTok「服飾学生の日常」投稿更新	復習：動画投稿をする	30分
30回	総括的まとめの発表とフィードバック SNS 運営の最終結果を確認する	予習：まとめの発表を準備する。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

企業の特別講義の授業では、ワークの実施あるいは講義の感想と自分の考えを書きmanaバに提出する。

その後、教員からのフィードバックを行う。

SNS は教員がアカウント管理を行い、チームや個人で発信する内容についてフィードバックしてから公開する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

特になし

■参考文献

「ファッション販売3ーファッション販売能力検定試験3級公式テキスト」日本ファッション教育振興協会

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日時は授業初回に提示します。ファッションビジネス・流通イノベーション実習室（3207 教室）

■備考

外部講師の予定により、授業内容の順番変更があります。

画像設計演習

白木 ゆみ香

2年 前期又は後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

画像設計演習での使用ソフトは、Photoshop、4D-BOX（素材設計）、Power Point の計3つです。それぞれのソフトの基本操作や特徴を学び、実際に作品を制作しながら技法を習得し、表現力の拡大を図ります。

■到達目標（学修成果）

それぞれのソフトを活用し、連動させながら、デザイン考案やプレゼンテーションが出来る技術を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、専門選択科目で卒業要件科目の単位となります。専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 4D-BOX（素材設計） 基本操作 ポルカ	予習：シラバスを読む。 復習：ノートの整理。	30分
2回	4D-BOX（素材設計） 基本操作 ストライプ、MIX	復習：ノートの整理。	20分
3回	4D-BOX（素材設計） 基本操作 織り柄	復習：ノートの整理。	20分
4回	ブランド立案に向けてのデザイン出し①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	20分
5回	ブランド立案に向けてのデザイン出し② ハンガーイラスト5体	復習：ノートの整理。	20分
6回	ブランド立案に向けてのデザイン出し③ ハンガーイラスト5体	復習：ノートの整理。	20分
7回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄や素材をのせる	復習：ノートの整理。	20分
8回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄や素材をのせる	復習：ノートの整理。	20分
9回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOX で作成した柄や素材をのせる	復習：ノートの整理。	20分
10回	Photoshop 絵型の色や柄のバリエーションを作成。	復習：ノートの整理。	20分
11回	Power Point 絵型のレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
12回	Photoshop テキスタイルのレイアウト、画像作成。	予習：資料準備。	20分
13回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：資料準備。	30分
14回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：プレゼン準備。	60分
15回	Power Point 各自の作品をプレゼンテーション。	予習：プレゼン準備。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・作品課題の提出は、PC 関係はデスクトップ上の配布提出 BOX ヘデータでの提出。
指定された日時までに提出のこと。元データは各自で保存しているため、返却はなし。
- ・試験はなし。
- ・プレゼンテーションにて発表の際に講評あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じてデジタルテキストや資料配布。

Fashion Ruler（教材）は各自購買部にて購入してください。

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室 【前期】木 14:30～16:00【後期】水 15:30～16:30

【研究室】デザインCG研究室（研究棟1F）

■備考 進度により、日程および内容の変更あり。

ドローイングⅡ

瀬古 徹

2年 前期又は後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

1点ずつ丁寧に「絵」＝「作品」を制作していく。テーマは色彩による空間表現である。闇雲に筆を走らせるのではなく、描画の技法やシステムをテーマに作品を制作しながら、徐々に「自分の世界」をつくり上げていく。デザイン画やイラストレーションへ向かうだけではなく、発想や構想などのイメージクリエーションのウォーミングアップに展開することを期待する。

■到達目標（学修成果）

1. 「抽象的」なものの見方（現象的ではない）を身に付けるきっかけをつくる
2. 型にはまらないフリースタイルな発想法を発見する
3. 1. 2. を導き出すための制作の「方法論」、具体化するための「技法」を身に付ける
4. 手ごたえを感じるディティールの集積によって自分の表現の「世界」をつくりあげる実践力を身に付ける

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、選択科目である。服飾における感性の精鋭に活かされる科目として位置づけている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション →カリキュラムの流れとその構造、材料、技法の説明など	予習；シラバス内容の確認 復習；鉱物系顔料ガッシュ、細密描画用筆の購入準備（提案）	30分
2回	自画像 —グラフィティから— →2トーンによる稜線の選択、形態の分析〔技法：ガッシュ、不透明色の塗り重ね〕 [アクティブラーニング (A.L)]	予習；頭部骨格、パーツの位置に関して、自らの頭部のスタイリング 復習；鉛筆による頭部のドローイング	60分
3回	〃 →ガッシュ（黒）による塗り分け作業 [A.L]	予習；頭部の立体形態の確認 復習；モチーフとしてのファッション雑誌よりの写真の収集	60分
4回	色面による写真の分析 →3トーンによる形態の選択、強調、省略〔技法：ガッシュ、不透明色の塗り重ね〕 [A.L]	予習；1年次「色彩演習」にて得た知識を基にした色彩プランニング 復習；図像の転写	90分
5回	〃 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	復習；明部、暗部の作成	90分
6回	〃 [A.L]	復習；作品の完成	90分
7回	オートマティズムによるドローイング-1 →“偶然”からの出発、選択、構成〔技法：ガッシュ、ウォッシュによるファンデーションと細密表現〕 [A.L]	予習；柔らかい鉛筆の準備 復習；“描画”の進行とその検証	30分
8回	〃 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	復習；“描画”の進行	90分
9回	〃 [A.L]	予習；モチーフとしての雑誌写真の準備 復習；画面際への意識、完成	90分
10回	ファッションフォトコラージュとそこからの制作 →ビジュアルイメージのサンプリング、リミックス〔技法：コラージュ、ガッシュ総合的技法〕 [A.L]	復習；ファンデーション後、モチーフの転写	90分
11回	〃 [A.L]	復習；“描画”の進行とその検証	60分
12回	〃 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	復習；“描画”の進行とその検証	60分
13回	〃 [A.L]	復習；作品の完成	60分
14回	オートマティズムによるドローイング-2 →“偶然”からの展開、作品の発想へ〔技法：コラージュ、ガッシュ、ドライブラシ〕 [A.L]	予習；人体パーツ写真コピー準備 復習；人体骨格を意識したパーツ配置	45分
15回	〃 まとめ→「作品」としての成立、「表現」のありかたに関して 前回作品の講評、フィードバック [A.L]	予習；ドライブラシ技法の練習 復習；ドローイングの専門への応用を考える	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の提出作品の採点后、次回課題授業途中に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋により解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	通常作品等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 授業の進行に合わせて、必要な場合プリントを配付する

■参考文献 必要に応じて授業時に指示

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示 連絡研究室 大学表現演習研究室（第3校舎1階）

■備考 なし

写真表現演習

中野 希大

2年 前期又は後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

写真は誰でも撮ることができますが、思い通りの表現をするにはカメラのコントロールができなければなりません。またコンピュータによるフォトレタッチの技術は、クリエイターの世界観を具体的にイメージ化することを可能にしました。この授業では撮影とフォトレタッチの基本技術を、実践的な演習（撮影・データ制作）を通して学びます。

■到達目標（学修成果）

- ①カメラの基本的な仕組みを理解し、目的に合わせてコントロールして撮影できるようになる。
- ②Photoshop、Illustratorの基本的な操作方法とフォトレタッチ技術を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目となります。服飾文化において、イメージ発信者の基礎知識として活きる科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Introduction1 オリエンテーション	復習：レポートの内容を考えておく。また、カメラの準備をする。	60分
2回	Theme1 焦点距離（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：焦点距離によるイメージの違いの確認、カメラ操作に慣れておく。	30分
3回	Theme1 焦点距離（2）	復習：焦点距離を意識した応用課題に取り組む。	60分
4回	Theme2 シャッター速度、絞り、ISO感度（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：露出決定メカニズムの理解とカメラ操作に慣れておく。	30分
5回	Theme2 シャッター速度、絞り、ISO感度（2）	復習：露出を意識した応用課題の撮影に取り組む。	60分
6回	Theme3 露出補正、ホワイトバランス（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：光を意識した露出や色の理解、カメラ操作に慣れておく。	30分
7回	Theme3 露出補正、ホワイトバランス（2）	復習：光と色を意識した応用課題の撮影に取り組む。	30分
8回	Theme4 スチルライフ 演出された写真（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	予習：スチルライフの課題に必要な素材を準備する。	60分
9回	Theme4 スチルライフ 演出された写真（2）	復習：テーマを決めて応用課題の撮影に取り組む。	60分
10回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（1）	予習：雑誌の表紙に使用する写真素材を準備する。	60分
11回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（2）	復習：レタッチを行い、各自のイメージに合わせた画像制作に取り組む。	30分
12回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（3）	復習：雑誌の表紙デザインの仕上げに取り組む。	30分
13回	Theme6 スタジオライティング（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：ライティングによるイメージの変化を確認し、効果を理解する。	30分
14回	Theme6 スタジオライティング（2）	復習：撮影した写真の違いを確認し、課題レイアウトに取り組む。	30分
15回	学習のまとめ、課題の整理・提出	予習：これまでの全ての課題を整理し、提出の準備をしておく。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出課題については、授業内講評あるいは返却時にコメントを添付する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	レポートと基本課題作品 50%、応用課題作品 20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 特に指定しない。

■参考文献

写真の教科書、Photoshop、Illustratorの入門書など、各自のスキルに合わせて持っているといよい。

■オフィスアワー・研究室

前期：月・火曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

後期：木曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

■備考

- ・ デジタルカメラを各自で用意すること。一眼レフやミラーレスを推奨する。標準ズームレンズが望ましい。コンパクトデジタルカメラは推奨しない。スマートフォン、トイカメラ、フィルムカメラは基本課題ができないので使用不可。購入等についての相談は初回授業後に受け付ける。ただし、第2回から使用するので必ず用意できるように予め検討しておくこと。
- ・ 教室のプリンタ使用は原則として授業時間内に行うこと。

立体造形演習

大塚 武司

2年 前期又は後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションに関わるクリエイティブな現場では、立体造形力が役に立ちます。その力を磨くため、自然物の観察と、自分なりの美しさを考察します。この授業では、金属彫刻を国内外でアートフェアや個展で作品発表し、環境造形、メディアや店舗/空間デザインなどを手掛ける教員がその経験を生かし実施します。

■到達目標 (学修成果)

この科目の目的を達成すれば、立体造形への理解と、オリジナル性高い造形能力を身に付けることができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	「立体造形演習」授業内容についてのガイダンスと小演習	予習：次回課題の準備	90分
2回	課題① ケント紙による美しい陰影のレリーフ作品/制作開始	復習：デザインバリエーションの確認 予習：ブラッシュアップの準備	90分
3回	制作/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
4回	完成作品のプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員による講評を行う	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
5回	課題② 紙素材による自然物の立体作品演習/制作	復習：モチーフの観察 予習：次回制作に向けて予習	90分
6回	制作(大まかな造形完了)	復習：作品制作過程 (段取り) の確認 予習：次回制作に向けて予習	90分
7回	制作(ブラッシュアップ)/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
8回	完成作品のプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員による講評を行う	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
9回	課題③ スチレンボードの積層による立体造形の演習/制作	復習：デザインバリエーションの確認 予習：次回課題の予習	90分
10回	制作	復習：作業内容の復習 予習：次回制作段取りの予習	90分
11回	制作/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
12回	完成作品のプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員による講評を行う	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
13回	課題④ 粘土造形の演習 (自然物の観察として手の模刻) 制作	復習：粘土の扱い方法の復習 予習：動きのあるポーズの考察	90分
14回	制作 (骨格や表情の観察、自然の造形美を表現)、作品提出	復習：粘土の扱いや観察した内容の復習 予習：プレゼンテーションの準備	90分
15回	作品プレゼンテーション/講評、立体造形のまとめと片付け	復習：講評内容と全授業内容の確認	90分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題ごとに提出作品のディスカッションを行い採点、返却する。授業時間外の質問は、Eメールにて受け付ける。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて資料を配布します

■参考文献

授業内にて適宜紹介します

■オフィスアワー・研究室

授業前後は3 4 1 3または講師控室。それ以外の時間帯は教務まで連絡してください。

■備考

必要な材料や筆記用具、画材などは各自で用意していただきます。

水粘土とそれに伴う用具はこちらで用意します。

授業内容は進度により変更することがあります。

定員：演習授業につき25名程度とし、大幅に超える場合は調整することもあります。

和服構成論・実習Ⅰ

平塚 由美子

2年 前期 選択 教職課程必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

我が国の民族服である和服（平面構成）の形状を理解し、手縫いで基本的な基礎技術を習得し、実物（大裁ちひとえ長着ゆかた）の制作をすることによって更に技術と知識の向上と和服に対する感心を深め、次世代へと継承する力を養う。

■到達目標（学修成果）

和服（きもの）の縫製を学び、進めていく為の総べての手縫いの技法を学び正確に速く縫う技術を習得することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で教職課程の学生は必修である。いずれも卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	和服（平面構成）の特徴・和服の基礎知識と名称の説明 大裁ちひとえ長着（ゆかた）製作について、各部の名称 基本的なことについての説明（男物の違いなど）運針用布、 基礎縫い等の用布の裁断、基礎縫い見本標の作成の説明	予習 教科書和服の基礎知識(P14～21) 浴衣の仕立て方(P.54～61)を読む 和裁用具を準備する。 基礎縫い見本標の作成準備	30分
2回	年間授業計画、用具の説明、運針についての説明、練習 （授業初めに10分間運針をする）基礎の縫い方・止め・くけ について説明し基礎縫い用布に正確に作成	予習 基礎縫い(P.50～53)を読む 復習 運針の練習	30分
3回	基礎縫い見本標を完成させ次週提出 ゆかたの下準備の説明(水通し・地直し・検品等)	復習 基礎縫い実習予定まで終了 運針の練習	30分
4回	学生の各自の採寸（寸法表に記入し毎回必ず持参する） 各自の寸法にてゆかたの柄合わせ・折り積みをする	復習 基礎縫い実習予定まで終了 浴衣地用意	30分
5回	地直しをした後、身頃と袖・おくみの柄合わせをし裁断。 袖のしるしつけをする。	予習 裁ち方教科書(P.62～65)を読む ゆかたは水通しをしてくる。	30分
6回	袖縫いに入る・袖の丸み型の作成、丸みの縫いちぢめ 丸みの始末と袖底の始末の説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69) 袖の縫い方教科書(P.72～73)を 読む	30分
7回	袖口の三つ折りくけの説明と袖の完成	復習 袖縫い実習予定まで終わらせる	30分
8回	身頃の縫い方の説明（各自の寸法を確認）としるしつけの 説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69)を 読む 両袖提出の準備	30分
9回	身頃のしるしつけ 背縫いについて説明と実習（二度縫い） 内揚げの説明 袖二枚完成させ（右・左）提出	予習 背縫い教科書(P.74～75)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
10回	背縫い・内揚げの完成	復習 背縫い・内揚げ実習予定まで 終わらせる	30分
11回	脇縫いの説明と縫代の始末の仕方の説明	予習 脇縫いの始末教科書(P84)を読む	30分
12回	脇縫いと縫い代の始末の完成 衿と上前身頃の柄合わせ	予習 肩当てつけ教科書(P.75～76) いしき当てつけ教科書(P.77) を読む	60分
13回	肩当て、いしき当ての説明と完成 衿と衿を切り離す	復習 試験問題の学習 持ち物 浴衣と半幅帯 腰ひも2本	60分
14回	ペーパーテスト（確認テスト） 浴衣の着装体験（各自浴衣持参、予備の浴衣等有り）	復習 自分で浴衣を着てみる	60分
15回	前期授業のまとめ（前期授業予定表と運針表の提出） テストの返却と答え合わせ 衿の印付け後身頃に縫い付ける	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

前期授業の感想の講評と定期試験の解説は後期授業初回に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)毎週の運針練習による 個別の進歩状態の記録、作品の評価ペーパーテストの成績などにより 総合的に評価する。前期授業内で運針上達の習熟度テストを実施する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有) 創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階) 出講日：火曜日

■備考 実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること

和服構成論・実習Ⅱ

平塚 由美子

2年 後期 選択 教職課程必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

実習Ⅰ（前期）の課程で習得した基礎縫い技法を、実物制作することによって、和服の構成と手縫いの技術等への理解の向上を深める。大裁ちひとえ長着制作後、着装実習と和服・和装に関する基礎知識を学び、日本の伝統衣装である和服に関しての技術と知っておくべき知識を習得する事が出来る。

■到達目標（学修成果）

実習Ⅰの成果の上に、大裁ちひとえ長着（ゆかた）の制作達成と共に、和服の構成と和服全般に関する知識を充分理解することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で教職課程の学生は必修である。いずれも卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期に引き続き浴衣の制作実習。 おくみしるしつけの確認とおくみつけ	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
2回	おくみつけの完成と縫いしろ(耳ぐけ)の説明 衿下(三つ折ぐけ)の始末と額縁の作り方の説明	予習 衿下から裾回しの三つ折りぐけと 額縁のつくり方教科書(P.85)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
3回	おくみと衿下～裾周りの三つ折りぐけの完成	復習 実習予定まで終わらせる	30分
4回	掛け衿の柄合わせ、衿と掛け衿のしるしつけの説明 本衿にかけ衿を付ける	予習 衿つけ 教科書(P.79)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
5回	各寸法を確認して衿つけの待ち針打ちについて説明、 三つ衿芯の作成	予習 三つ衿芯入れ 教科書(P.80)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
6回	身頃の衿肩回りの印付けをしてから身頃に衿をつける (印と印を正確に合わせる) 三つ衿芯入れ、衿幅を整えてしつけをかける	予習 衿先の始末 教科書(P.81)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
7回	衿先の作り方(男物・女物) 衿ぐけ(本ぐけ)の完成	予習 袖つけ 教科書(P.86)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
8回	袖つけの説明と作成 袖の振り(女物)と人形(男物)の説明	予習 教科書(P.72～73)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
9回	肩当ての始末 袖付けの完成と仕上げ	予習 肩当ての始末 教科書(P.87)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
10回	総仕上げ 着物の畳み方と手入れの仕方	復習 実習予定まで終わらせる 予習 教科書(P.89)を読む	60分
11回	【着物学】和服の種類を見て触って学ぶ講義 第一回 寿ぎの和服・特別な着物 浴衣の提出開始	予習 教科書(P.14～43)を読む	30分
12回	第二回 おしゃれ着・遊び着としての和服 浴衣の提出	予習 教科書・配布プリントの範囲を覚える 復習 着物での立ち振る舞いを覚える	60分
13回	第三回 成人式・卒業式に着る和服 終了後講義のレポートを記入し後期授業予定表に感想を 書いて提出 確認テストの範囲 浴衣の提出期限	予習 自装の準備(腰ひも2本・半幅帯) 確認テストの勉強	30分
14回	確認テスト 各自製作のゆかたの寸法・柄合わせをチェックしながら、 自装・他装で装着して帯結びをし着心地を確認する	復習 家庭でもう一度装着してみる 準備 自由着発表の準備	30分
15回	「私のきもの遊び」と題して制作した作品を個性を生かし 自由な発想で着てみる。授業のまとめと感想	着物を自由にアレンジして発表	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内での実技テストと製作作品については14回目で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)、毎週の運針練習による個別の進歩の状態の記録、作品の評価、ペーパーテストの成績などにより総合的に評価する。
後期授業期間末に技術習得状況を確認するため、技術実習テストを実施する。

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有)創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階) 出講日：火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ(前期の課程)を修了していること。

衣服管理

三代 かおる

2年 前期又は後期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服は着用による汚れを回復させること(洗濯)と製品本来の性能を維持すること(手入れ、保管)を繰り返した後、廃棄あるいはリサイクルされるという一生を送る。本講義では、衣服を管理するために必要な洗浄理論や適切な保管方法を中心に学ぶ。市販されている洗濯関連商品と衣服により、実生活と結びつけてイメージしやすいように実施する。

■到達目標(学修成果)

市販の衣料用洗剤の種類や成分表示、衣類に付着している取り扱い絵表示、洗濯機や乾燥機の機能に関心を持ち、衣服に適した洗濯や保管を行うことで、最初の綺麗で美しい状態を保持し、長く大切に衣類を扱える能力を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、服飾造形関係の基礎を学習する科目。卒業要件科目。教職課程履修者は必修科目となる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス 衣服管理とは 洗濯に関する知識の確認	予習:シラバスを読む。日常で使用している洗剤の確認をする。	20分
2回	衣服の汚れ 衣服の機能との関係	復習:授業資料の確認をし、衣服の機能を理解する。	30分
3回	水と洗剤 硬度成分の影響	復習:教科書を確認し、硬水の影響を理解する。	30分
4回	衣服の洗浄 洗浄に関わる要因	復習:教科書を確認し、洗浄に重要な要素を理解する。	30分
5回	界面活性剤 分類と構造 洗剤プリント提出	予習:家庭の洗剤成分を調べる。	30分
6回	配合剤 種類と作用	復習:教科書を確認し、界面活性剤と配合剤を理解する。	30分
7回	合成洗剤と環境 現在までの変化	復習:教科書を確認し、合成洗剤の変遷を理解する。総復習する。	120分
8回	中間試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
9回	洗浄のメカニズム	復習:教科書、配布プリントを参考にして、洗浄作用を理解する。	30分
10回	実験:界面活性剤の作用 レポート提出	予習:界面活性剤の作用を理解しておく。	30分
11回	家庭洗濯	復習:教科書を確認し、洗濯条件を理解する。	30分
12回	商業洗濯	復習:教科書を確認し、理解する。	30分
13回	漂白と増白	復習:教科書を確認し、漂白剤の使用法を理解する。	30分
14回	衣服の仕上げと保管	復習:授業内容すべての総復習をして理解を深める。	120分
15回	まとめ 課題(試験やレポート等)フィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

洗剤プリント、レポートを添削返却、解説、また授業内容課題も適宜行い理解度を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(フレクシオン含む)	70%
期末試験・課題(フレクシオン含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

増子富美ほか著、生活科学テキストシリーズ 被服管理学、朝倉書店、2012

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

必ず教科書と配布資料を持ってくること。提出物の期日は守ること。

染色化学

中村 弥生

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服は染色と加工によって、美しさ、快適さが与えられる。染色化学では、アパレル生産において染色加工がどのように行われるか、その方法としくみを学ぶ。また、消費性能としての染色物の堅牢性、染色加工を含むアパレル生産が地球環境や社会に与える影響について考える。さらに工芸染色の技法等についても学ぶ。

■到達目標（学修成果）

アパレル生産の流れを知る。染色や加工も含めた衣服づくり、染色堅牢性などの消費科学的な性能、染色加工による環境への影響などを考慮した衣服作りができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目。服飾を専門とする学生として必要な染料、染色加工等に関する基礎的な知識の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業についての概説	予習：シラバスを読み授業の概要を把握 復習：授業内容の確認	20分
2回	アパレル生産における染色加工工程①概要・準備工程	予習：アパレル生産の流れを把握 復習：染色加工前準備工程の確認	30分
3回	アパレル生産における染色加工工程②染色工程・浸染	予習：浸染とは何かを把握 復習：浸染の種類、方法を確認	30分
4回	アパレル生産における染色加工工程③染色工程・捺染	予習：捺染とは何かを把握 復習：捺染の種類、方法の確認	30分
5回	アパレル生産における染色加工工程④仕上げ工程	予習：仕上げ加工とは何かを把握 復習：仕上げ加工の種類と方法の確認	30分
6回	2～5回授業の確認テスト（資料映像視聴）	予習：2～5回授業の資料をまとめる 復習：染色加工工程の流れを確認	30分
7回	色素	予習：色が見えるしくみを把握 復習：異なる色に見える理由を確認	30分
8回	染まるしくみ	予習：染まるしくみを把握 復習：なぜ染まるのかを確認	30分
9回	染色物の堅牢性	予習：堅牢性とは何かを把握 復習：堅牢性評価の方法と応用を確認	30分
10回	7～9回授業の確認テスト（資料映像視聴）	予習：7～9回授業の資料をまとめる 復習：染まるしくみ、堅牢度試験を確認	30分
11回	工芸染色①	予習：工芸染色の種類を把握 復習：工芸染色の技法を確認	30分
12回	工芸染色②（資料映像視聴）	予習：地元周辺地域の工芸染色を調査 復習：工芸染色の現状を確認	40分
13回	染色加工による環境への影響①	予習：染色加工の環境への影響を把握 復習：染色加工の環境への影響を確認	30分
14回	染色加工による環境への影響②（資料映像視聴）	予習：自分のワードローブを調査 復習：環境への影響の現状を確認	40分
15回	グループワーク、まとめ	予習：2～14回授業の資料をまとめる 復習：授業内容整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manabaを使った授業前後のリアクションペーパーの提出により受講生は授業の予習・復習を行い、教員はコメントを返す。学生の疑問が解決できる内容の授業を展開する形でフィードバックを行う。確認テストの返却および解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

使用しない 資料配布（各回の資料を前週に配付する。授業前に予習すること。）

■参考文献

授業内で提示

■オフィスアワー・研究室

連絡先：本校舎1階教務課（オフィスアワーに関しては初回の授業でお知らせします。）

■備考

- ①第1回目の授業で授業内容や受講に際しての注意などを説明します。必ず出席し、内容を十分理解してから受講して下さい。
- ②受講者数、授業進捗状況等により授業内容が多少変更になる場合があります。

繊維ファッション産業構造論

長瀬 泰典

2年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本科目では、繊維ファッション産業を川上から川中、川下までの各機能を理解した上で、最終消費者へどの様に販売していくかをバリューチェーンとして捉えビジネスモデル全体を俯瞰して学習する。また、この講義では担当教員の実務経験や知見を活かした授業運営を軸としており、繊維ファッション産業の成長過程を通して現代において如何に変化したかを説明するとともに、現在の課題を学生自らが問題意識を持ちどの様に対応していくかを考え、将来を見据え業界自体がどの様に変わっていくべきかについても触れていく。なお、本科目ではマナバを使用し ICT 活用による授業運営を行っている。

■到達目標（学修成果）

繊維ファッション産業の構造を理解した上で、バリューチェーン全体を把握し、各プロセスの重要性を理解することを到達目標とする。また、時代背景と共に構造自体が変化していることにも触れながら、自らが課題を発見し解決策を導き出せる人材を養うことも目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、専門選択科目の単位となる。専門コースに拘らず選択することが可能であり、繊維ファッション業界で活躍するための専門力向上に資する科目とする。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション：繊維ファッション産業の全体的な流れとバリューチェーンとは何か	予習 バリューチェーンとは何かを調査	30分
2回	繊維ファッション産業を構成する業界構造とは	復習 業界構造を理解した上で具体的企業を調査する	30分
3回	繊維産業の実例（川上編）	復習 授業を通して理解したプロセスを整理する	30分
4回	繊維産業の実例（川中編）	復習 授業を通して理解したプロセスを整理する	30分
5回	繊維産業の実例（川下編）	復習 授業を通して理解したプロセスを整理する	30分
6回	繊維産業の実例（その他関連事業）	復習 授業を通して理解したプロセスを整理する	30分
7回	繊維産業の構造上の問題と課題	予習 前回までのプロセスを元に問題と課題を抽出する	45分
8回	ファッション産業の実例	復習 業界の実態を把握した上で具体的な企業を調査する	30分
9回	ファッション産業に関連する企業の役割分担	復習 それぞれの役割と存在意義を理解する	30分
10回	現代社会におけるファッション産業の変化	復習 業界の変化を元に具体的な企業の事例を調査する	30分
11回	世界のファッション産業の変化	復習 正解の企業を調査しその変化を調査する	30分
12回	ファッション産業の持続可能性（1）	復習 持続可能性とは何かを理解した上で、業界内の課題を把握する	45分
13回	ファッション産業の持続可能性（1）	復習 課題を把握した上で、アパレル企業としてどのように対応していくかを考える	45分
14回	ファッション産業の今後の展望	復習 業界目線で未来を考えた上で、自分自身で方向性を予測する	45分
15回	繊維ファッション産業のまとめ	予習 授業を通して今後の業界の未来を自分なりに考えをまとめる	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了後に振り返りを学内システム（マナバ）にて提出の上、フィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	40%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて授業内でレジュメを配布

■参考文献

必要に応じて、その都度授業内で提示します

■オフィスアワー・研究室

授業時間の前後30分間、講義控え室に待機

■備考

なし

映像制作

千代崎 寛

2年 集中 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

現在、最も身近な情報伝達手段となった映像は様々な分野で活用されている。この授業では日常の中で触れてきた映像を自らの表現手段のひとつとして位置づけ、制作を通じた体験と考察を行っていく。所属している学科や専門領域を横断する形でグループを編成し、共同作業のなかで短時間の映像作品を制作していく。～企画・撮影・編集・発表～ 4つのプロセスを互いに協力しながらひとつの作品に仕上げていく。映像メディアを“みてたのしむ”から“つたえる”立場へシフトすることでイメージを表現・伝達するための有効なツールとして捉え活用していく手がかりを得ることができる。この授業で体験したことをその後の専門領域と各自の研究に応用・展開し接続していくことを望む。

■到達目標（学修成果）

1. 映像による表現は様々な分野に活かせる総合的な能力であり、情報リテラシー・伝達能力を意識することができる
2. 「何を」「どのように」「どうやって」伝えていくのかという命題をたて実証と経過を記録し経験することで有効な情報伝達手段である映像について「知る」ことができる
3. グループワークによる相互の役割とコミュニケーションを通じ映像表現を理解することが可能となる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については「映像制作」は専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画（▼課題なげかけ ▲課題提出 ■プレゼンテーション）

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・映像資料鑑賞 ▼ワークシート①	復習：機材・教室・備品等の申請について ▲ワークシート①	30分
2回	演習「カメラワーク①」「ノンリニア編集①」 映像表現における“著作権”について	復習：著作権表示・クレジットの表記について	30分
3回	チームディスカッション・役割分担・スケジュールリング 撮影現場における“プライバシー”について	復習：プライバシー・人権について 予習：映像作品のリサーチ	60分
4回	演習「カメラワーク②」▼ワークシート②	復習：作業内容の確認 ▼ノートについて	30分
5回	演習「ノンリニア編集②」サウンド・音声・録音 映像表現における“音楽・音源”について	復習：データ整理・管理	30分
6回	試写（経過プレゼン）プランニング・ノート制作の経過確認	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート②	30分
7回	撮影実習① 編集実習① ▼ワークシート③	復習：作業内容の確認	30分
8回	プレゼン（進捗状況）撮影実習② 編集実習②	復習：スケジュールの再確認	30分
9回	試写①（チーム単位）撮影実習③ 編集実習③	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート③	30分
10回	撮影実習④ 編集実習④ ▼ワークシート④	復習：作業内容の確認	30分
11回	試写②（全チーム）撮影実習⑤ 編集実習⑤	復習：試写を経ての検討・確認	30分
12回	試写③（チーム単位）撮影実習⑥ 編集実習⑥	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート④	30分
13回	編集実習⑦ 映像作品完成 ▼ワークシート⑤	復習：作業内容の確認	30分
14回	作品データ提出 ノート制作・資料作成「象徴的10カット」	復習：データフォーマットについて	30分
15回	「上映」■プレゼンテーション 講評 まとめ 片付け 映像表現における“発表・上映・公開”について	復習：▲ワークシート⑤「制作ノート」提出のための準備	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッションとノート、プレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する

■オフィスアワー・研究室

第1回目の授業で指示する。研究室：先端ファッション表現研究室（目黒校舎研究棟3F）

■備考

※. 授業は全て目黒校舎での実施となります。

基礎デザイン（平面）

桐山 征士

2年 前期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

服のコンセプトを立案し、思考の密度を高め、独自の視点とその体現を行い、オリジナリティーのあるドローイングを描く。

デザインは学習することで、ある程度習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。

デザインとは、「カッコいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「カッコいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。「思考の密度を上げる」ことと、「独自の視点とその体現」が重要である。

デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積み重ねるが、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットもしくは独自の発想や独自の表現方法と、コンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。プロダクトアウトの姿勢でデザインを進める。

エスキースでは、まず量のエスキースを行う。量を出すことで「思いつき」を「デザイン」に昇華させる。このトレーニングは形状の考察を繰り返し行うことで、造形的感覚と美的感覚を育む。デザインや造形においてとても重要なトレーニングである。

質のエスキースでは、たくさんエスキースの中からコンセプトに見合うものを選別し、ブラッシュアップを行う。造形において必須能力である「疎密のバランス」や「明度バランス」を育む。

ドローイングでは、独自の表現方法の確立を目指す。描き方(テクニック)では無く、イメージ力を育む。デザインにおいて正確な比率での表現は必須である。コンセプトに合った姿勢の人体写真(なるべく体のシルエットが現れている下着姿や水着姿など)をトレースし、骨格・面の向き・ベースなどを確認しながら、人の存在を意識して描く。表現方法は無限にあり、絵画やデザイン画などから参考になる資料を探すことから始める。コンセプトに合わせたポーズと表現方法は、イメージを伝えるための大切な要素である。

各自が様々な素材・表現方法を模索する中で、過去絵の指導をしていた担当教員がアドバイスをを行いながら、オリジナリティーとリアリティーを兼ね備えた「絵」を描く能力を育てる。また、仕事量と完成度がイコールの関係でないことも理解できるような目と感覚を身につける。

■到達目標（学修成果）

デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。コミュニケーション能力が養える。

積極的にディスカッションすることが、今社会で求められている積極性と忍耐力を育むという現実を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

全ての造形に関わる授業に必要な構想力・ディスカッション・プレゼンテーション、ドローイングの基礎力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	美術家兼デザイナーの担当教員による、デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義 ブランドテーマの分析	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	各自、ブランドを選んで、テーマの分析・資料作成・提出	予習：コンセプト立案のための情報収集	60分
3回	コンセプトの立案・思考の密度を上げるための情報収集及び分析	予習：コンセプト立案のための情報収集	60分
4回	コンセプトの設定① ベースとなる思想の構築 担当教員と個別ディスカッション	復習：思想のバリエーションを出す。 予習：ドローイングの参考資料収集	60分
5回	コンセプトの設定② ベースとなる思想の決定 担当教員と個別ディスカッション	復習：思想のバリエーションを出す。 予習：ドローイングの参考資料収集	60分
6回	コンセプトの設定③ ベースとなる思想の決定 担当教員と個別ディスカッション	復習：思想のバリエーションを出す。 予習：ドローイングの参考資料収集	60分
7回	エスキース① 量のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	予習復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
8回	エスキース② 量のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	予習復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
9回	エスキース③ 量のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	予習復習：エスキースのバリエーションを出す。コンセプトとの整合性の確認	60分
10回	エスキース④ 質のエスキース 担当教員と個別ディスカッション	復習：エスキースのブラッシュアップ コンセプトとの整合性の確認	60分
11回	ドローイング①表現方法の考察 技法の選択 担当教員による指導	復習：表現の考察 技法研究	60分
12回	ドローイング②表現方法の考察 技法の選択 担当教員による指導	復習：表現の考察 技法研究	60分
13回	ドローイング③ ドローイング制作① 担当教員による指導	復習：ドローイング	60分
14回	ドローイング④ ドローイング制作② 担当教員による指導	復習：ドローイング	60分
15回	ドローイング⑤ ドローイング制作③ 完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時(授業外も含む)、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインや造形についての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントをデータで配布(留学生が簡単に翻訳できるようにするため・紙資源の削減)

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。

基礎デザイン（立体）

桐山 征士

2年 後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

金属を用いたアクセサリーをデザインし、制作する。ただし、アクセサリーをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインは学習することで、ある程度習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。

デザインとは、「かっこいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「かっこいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。「思考の密度を上げる」ことと、「独自の視点とその表現」が重要である。

デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積み別だが、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットもしくは独自の発想や独自の表現方法と、コンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。プロダクトアウトの姿勢でデザインを進める。

エスキースでは、まず量のエスキースを行う。量を出すことで「思いつき」を「デザイン」に昇華させる。このトレーニングは形状の考察を繰り返し行うことで、造形的感覚と美的感覚を育む。デザインや造形においてとても重要なトレーニングである。質のエスキースでは、たくさんエスキースの中からコンセプトに見合うものを選別し、ブラッシュアップを行う。

流行といった刹那的なものに囚われることなく、本質的に優れたものを生み出すものが、今、求められている。この授業でも一般的なジュエリーではなく、まだ日本には馴染みが薄い「コンテンポラリー系」のジュエリーを目標とする。

ものづくりは技術ベースで考える必要はない。技術は後からついてくる。困難な加工は教員が担当する。その際の指示はデザイナーにとって身につけなければならない最低限の能力だ。依頼する力も育てる。

■到達目標（学修成果）

コンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション力を養う。

有識者とのディスカッションが経験値を高め、作品のクオリティーが上がることを体験する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目 デザインプロセスと構想の練り方の基本を学習することで、全ての造形課題に役立つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義(美術家兼デザイナーの担当教員) ジュエリーの講義	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集 幅広い情報を集めイメージの幅を広げる。既成概念を取り払う。	復習：アクセサリーを見に行く。	30分
3回	情報収集・分析 アクセサリーのコンセプトやターゲットを読み解く。	復習：アクセサリーを見に行く。コンセプトを分析する。	30分
4回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：ベースとなる思想の確認。	30分
5回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：コンセプトの深掘り	30分
6回	エスキース① 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースのバリエーション	60分
7回	エスキース② 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	60分
8回	エスキース① 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
9回	エスキース② 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
10回	図面作成もしくはレンダリング制作	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
11回	制作① 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
12回	制作② 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
13回	制作③ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
14回	制作④ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
15回	制作⑧ 表面処理 完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントを配布

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。初回に300円の材料費を集める。

ファッション販売論上級

五十嵐 朝美 ・ 鈴木 康久

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションビジネスにおける高度な販売技術の論理的な理解と現代的な接客アプローチや接客ホスピタリティ等のプロフェッショナルスキルの学習を実施。更に消費者目線を通じたファッション販売の在り方やその実践的な解釈を学びます。授業では講義形式による現代的な販売論全般の理解、グループワークやチームプレゼン等によるアクティブラーニングを通じた相互学習、その他演習形式の現代的接客アプローチ技術の体験型学習を行うハイブリッドで実践型の授業です。尚、本科目は実務経験のある担当教員の長年の知見（販売オペレーション、販売接客、店舗運営等）を活かした授業運営となります。

■到達目標（学修成果）

ファッション販売能力検定2級のテキストを活用しながら、現代のファッションビジネスに対応出来る高度なプロフェッショナルスキルを身に付け、ファッションアドバイザーとなる高度な接客販売技術やコミュニケーション能力を習得する事を目指す実践型授業です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は専門選択科目となります。ディプロマシー(学位授与の方針)については専門コースに関わらず選択する事が出来、ファッション業界で活躍出来る専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木	オリエンテーション、販売関連知識学習 販売スタッフ・情報収集・顧客づくり	予習：シラバスの確認・教科書の確認 復習：配布資料の振り返り	20分
2回 五十嵐	販売員の基礎①、販売関連知識実践 笑顔、立ち居振る舞い、言葉遣い…接客演習	授業を受けてのレポート作成 (気づき・チャレンジ目標設定)	30分
3回 鈴木	販売関連知識学習 接客技術の知識・クレーム対応・お直し	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
4回 五十嵐	販売員の基礎②、販売関連知識学習 言葉の引き出し、言葉遣い…接客演習	授業を受けてのレポート作成 挨拶トーク作成	30分
5回 鈴木	商品関連知識学習 素材、配色（色相とトーン）、副資材、サイズ	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
6回 五十嵐	販売員の基礎③、販売関連知識学習・アプローチ I 商品のカラー・素材別アプローチ…接客演習	授業を受けてのレポート作成 アプローチトーク作成	30分
7回 鈴木	店舗関連知識学習 VMD 戦略、店舗コンセプト、売り場構成	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
8回 鈴木	マーケティング関連知識学習 マーチャンドライジングとマーケティング、オムニチャネル	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
9回 鈴木	店舗関連知識学習 運営管理の基礎、計数管理、コンプライアンス	予習：教科書の該当箇所確認 復習：配布資料の振り返り	40分
10回 五十嵐	販売員の基礎④、販売関連知識学習・アプローチ II ①～③の振り返り、ニーズ把握、お客様との会話…演習	授業を受けてのレポート作成 ニーズを把握するための質問作成	30分
11回 五十嵐	販売員の基礎⑤、販売関連知識学習 ひきつけるプレゼンテーション、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
12回 五十嵐	販売員の基礎⑥、販売関連知識学習 商品提案・再提案の仕方、商品知識を高める…演習	授業を受けてのレポート作成	30分
13回 五十嵐	販売員の基礎⑦、販売関連知識学習 デメリット質問への対応、根拠のある商品提案の仕方…演習	授業を受けてのレポート作成 メリット、デメリットの作成	30分
14回 五十嵐	ココロのイロ、販売関連知識学習 4つの行動スタイルを知る、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
15回 鈴木 五十嵐	総合演習・全体の振り返り アクティブラーニング	授業を受けて感じたこと、学んだこと 対してのレポート作成	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートのフィードバックは学校内システムを活用し、個別に返信。成果の確認や課題設定を行います。

■成績評価の方法・基準

授業出席・態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ファッション販売能力検定試験2級公式テキスト 改訂版、(一般財団法人 日本ファッション教育振興協会)

■参考文献 適宜示していきます

■オフィスアワー・研究室

出講日：第三校舎 4階 (3402教室) 授業時間前後 30分

■備考：教科書及び配布資料は必ず毎回持参のこと

色彩実践学

武田 里美

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業では、ファッションコンテンツにおいて重要な「色」を多角的に学びます。①色彩学として色を捉える、②トレンドとの接点を理解する、この2点を中心に、講義・演習により実践で活用できる知識や技能を学習します。日本流行色協会で実務経験を積んだ講師より、色彩の基礎から応用まで網羅し、色彩を活用する手法をお伝えします。必要に応じて検定のポイント学習も行います。

■到達目標 (学修成果)

色彩の基本的な知識、色の持つファッション上の役割や機能を理解・習得する事が出来るようになります。
配色技法の学習では演習手法も取り入れ、自分で考えながら配色を行うことで、実践に活かせる知識や技能が身につきます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	カリキュラムのガイダンス：スケジュール、内容、演習内容 流行色とは、流行色が決まるまで	予習：シラバスの確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
2回	色はなぜ見えるのか、色と光 (1)：光の種類、色温度、演色性	予習：テキスト「色と光」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
3回	色と光 (2)：物体色、分光反射率、光の現象と色	予習：テキスト「色と光」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
4回	色と眼：目の構造、視細胞、順応、色の見えの変化	予習：テキスト「色と眼」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
5回	色の伝達：色の精度、色名、カラーオーダーシステム (マンセルシステム、PCCS)、混色系	予習：テキスト「色の伝達」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
6回	混色：加法混色、減法混色、中間混色 色の感情効果 (1)：錯視、対比、同化	予習：テキスト「混色」「色の感情効果」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
7回	色の感情効果 (2)：面積効果、色の心理的現象、恒常性 色のイメージ：色記憶/記憶色、色の連想	予習：テキスト「色の感情効果」「色のイメージ」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
8回	配色1(ワーク)：色相・トーンに基づいた配色、自然な色見え、配色演習	予習：テキスト「配色」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
9回	配色2(ワーク)：一般的な配色技法、配色演習	予習：テキスト「配色」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
10回	配色3(ワーク)：身の回りのカラー分析(ワーク)	予習：分析素材の準備 復習：演習課題の提出	30分
11回	商品カラーの設計、トレンドカラー解説	予習：テキスト「商品カラーの設計」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
12回	カラーパレット制作1 (グループワーク) ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
13回	カラーパレット制作2 (グループワーク) ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
14回	カラーパレット制作3 (グループワーク) ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：演習課題の提出	30分
15回	カラーパレット制作4 (グループワーク)：発表、講師講評 全体の振り返り・まとめ	予習：パレット発表の準備 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

授業後のミニテスト および ワーク課題の提出、授業内の発表にて評価します。
ミニテストの出題・解答はmanabaを使用し、解説は次の授業の冒頭に行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

色彩実践学オリジナルテキスト (¥1,500程度、初回授業で販売します)、JIS対応ベーシックカラー140 B5

■参考文献

季刊誌「流行色」 一般社団法人日本流行色協会

■オフィスアワー・研究室

出講日：金曜日 第3校舎講師控室 (第3校舎1階)

■備考

授業の進行状況等により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

ブライダルファッションプランニングゼミ

井口 多恵子

2年 通年 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

1年次に学んだ服飾造形の基礎、社会人基礎や配色の知識を活かし、全日本ブライダル協会認定のカリキュラムに沿ってブライダルに関する基礎知識を修得します。

■到達目標（学修成果）

- ①全日本ブライダル協会のブライダルファッションプランナーの資格取得の試験に合格する。
- ②ブライダル業界についての理解が深まり、将来のキャリア選択の視野が広がる。
- ③資格取得後は、さらなる上位の資格を目指す一步になる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件の専門選択科目です。ブライダル業界で活躍できる基礎的な知識の修得に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	1. オリエンテーション：ブライダル協会の活動とブライダル業界の現状を学ぶ 2. 結婚式の種類：挙式のスタイルを学ぶ。	予習：シラバスを読む コンテンツ1、2を読む	30分
2回	2. 結婚式の種類：挙式のスタイルを学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
3回	3. 日本の婚礼の歴史：古来～現代の婚礼スタイルに至るまでの歴史を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
4回	3. 日本の婚礼の歴史（継続） 4. 結納・婚約の現状：結納・婚約から結婚式までの流れを学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
5回	4. 結納・婚約の現状（継続） 5. セレモニー・レセプションの現状とトレンド：多様化するセレモニー・レセプションの現状とトレンドを学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
6回	6. カラーコーディネート：演出として「色」を活用できるように色彩の基礎を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
7回	7. フラワーコーディネート：空間演出をする会場装花やウェディングブーケ・ブートニアについて学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
8回	8. 婚礼衣装の基本コーディネート：ウェディングドレスの必須アイテムとそのコーディネート方法を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
9回	8. 婚礼衣装の基本コーディネート（継続） 9. フォーマルファッション：ルールブックを用いて、フォーマルウェアのドレスコードを学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
10回	9. フォーマルファッション（継続） 10. 和装コーディネート：和装の各部名称と身に付ける小物の意味や使用している素材について学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
11回	10. 和装コーディネート（継続）：和装の各部名称と身に付ける小物の意味や使用している素材について学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：学習した範囲のコンテンツを読む。	40分
12回	婚礼に関する衣装やアクセサリーなどの見学、グループワーク（着装体験）とディスカッション 小試験	復習：11回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：次のコンテンツを読む。	40分
13回	小試験解説 11. フォトスタイリング：花嫁を美しく撮影するための基礎知識を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
14回	12. ブライダルアテンドの方法：カップルの身の回りの世話やスケジュールを管理するアテンダントの役割を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	40分
15回	フラワーコーディネート実習：コサージュ制作 婚礼衣装アイテム実習：ベール制作	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	40分

16回	フラワーコーディネート実習：コサージュ制作 婚礼衣装アイテム実習：ベール制作	復習：授業範囲を読み返し manaba 小テストで振り返る予習：関連コンテンツを読む。	40分
17回	フラワーコーディネート実習：コサージュ制作 婚礼衣装アイテム実習：ベール制作	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	30分
18回	和装と洋装衣装見学	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	30分
19回	セレモニー・レセプション会場見学	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：関連コンテンツを読む。	30分

【51】

20回	マナー実習	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	30分
21回	13. 接客の知識：お客様に満足してもらえる物やサービスが提供できる知識を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	30分
22回	14. 基本のマナー（名刺交換・訪問・食事等）：人と交際するうえで必要なマナー（礼儀作法）を学ぶ。	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
23回	15. 専門用語：式場で使う用語、宝飾（ジュエリー）用語を学ぶ	復習：授業範囲を読み返し manaba で振り返る 予習：次のコンテンツを読む。	40分
24回	試験対策1：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ、→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す。	40分
25回	試験対策2：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す	40分
26回	試験対策3：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す	40分
27回	試験対策4：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：学習した内容を読み返す	60分
28回	試験対策5：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：学習した範囲を読み返し、授業内テストの準備をする	60分
29回	模擬試験：検定試験を想定して行う。	復習：すべての単元に目を通す	60分
30回	まとめ 検定試験の解説	復習：検定試験の問題に目を通す	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

制作した作品について、提出後 manaba にてコメントし、返却する。模擬試験、検定試験について試験実施後に解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%	小試験、試験対策1～5、模擬試験 作品：ペール制作、コサージュ制作
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験	20%	全日本ブライダル協会認定ジュニアライセンス検定

■教科書

「ブライダルの基礎知識」全日本ブライダル協会発行
「フォーマルウェア・ルールブック」日本フォーマル協会発行
内容に応じてプリントを配付します。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回授業時にお知らせします。

■備考

授業計画 15～17 回（フラワーコーディネート実習：コサージュ制作、婚礼衣装アイテム実習：ペール制作）、
授業計画 18 回（和装／洋装の衣装見学）19 回（セレモニー・レセプション会場見学）20 回（マナー実習）については
授業時間配当表の時間外に実施する計画になります。

日程及び内容は変更することがあります。

検定試験（12月初旬に実施予定）までに30回の授業を確保します。（変則に授業日を設定します。日程は随時伝えます）
テキストは毎回持参します。

検定料が25,000円（教科書代、受験料、認定証書代を含む）がかかります。なお、見学及びテーブルマナー実習費として
10,000円、材料費（ペール制作、コサージュ制作）に3,000円が別途かかります。

インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で10日以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

長期インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で2週間以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）

阿部 睦子

2年 前期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

社会生活の基本単位としての家庭を経営する視点から、家族や家庭を巡る諸現象の考察を通して、より良い生活設計のあり方を探ります。授業形態は講義・演習を基本としますが、授業の展開は学生が主体的に取り組めるようにし、今後、教職の学習指導に活かすことができるとともに、学生自身の生活にいかすことを目指します。

■到達目標（学修成果）

今日の生活スタイルの特徴を理解し、①家族関係・家族心理について、②衣食住の運営について、③家庭経済について、④家庭管理についてなどの視点から家庭経営について系統的に考え理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、選択科目として卒業要件科目となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画、生活構造の概要を知り、家庭生活の本質について考える。	予習：シラバスをよく読む。 復習：配布資料を見直す。	30分
2回	家族の形成と変遷：家族とは何か、家族の形成を中心とした人間生活の成り立ちについて歴史を辿ることで考える。	復習：配布資料を見直し、家族の形成についての理解を深める。	30分
3回	家族や家族関係をめぐる現代の諸現象と問題：現代の家族や家族関係の問題と改善案を考える。	復習：配布資料を見直し、家族関係や家族心理についての理解を深める。	30分
4回	自分らしく生きるための生活設計：生涯を見通す長期、中期、短期の設計など、ライフプランについて考える。	予習：将来をイメージしてくる。 復習：配布資料を見直す。	60分
5回	生活時間の実態と分類：生活時間からワークライフバランスについて考える	復習：配布資料を見直し、生活時間についての理解を深める。	60分
6回	「食べる」：家庭経営を具現化するために、食生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、食生活について理解を深める。	60分
7回	「着る」：家庭経営を具現化するために、衣生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、衣生活について理解を深める。	60分
8回	「住まう」：家庭経営を具現化するために、住生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、住生活に理解を深める。	60分
9回	「育つ・育てる」：子どもを育てる視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、子どもの成長に関しての理解を深める。	60分
10回	「高齢社会」：高齢者の視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し高齢者についての理解を深める。	60分
11回	「買う」：ライフステージ別の家計の具体例を通して家計の実態を知り、家庭経済と家庭管理について考える。	予習：発表者は準備。復習：買うことを通して社会とつながる家庭経済についての理解を深める。	60分
12回	「ジェンダー」：男女共同参画社会をベースに、よりよい家事労働の在り方について考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直しジェンダーについての理解を深める。	60分
13回	「持続可能な社会」：ESD・SDGsを通して、循環型社会を創る消費者のライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、持続可能な社会の形成についての理解を深める。	60分
14回	「シチズンシップ」：家庭経営と協働・共生生活を拓くライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、シチズンシップ教育の広がりについて理解を深める。	60分
15回	まとめ：課題のフィードバックを行い、家庭経営についての理解を深める。	予習：これまでの学習を振り返る。 復習：今後の生活課題を自覚する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・基本的に授業の前後どちらかに振り返りの時間を設け、ナラティブなど記述する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	・授業姿勢（欠席・遅刻も含む） ・日常課題を重要視する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 ・生きる力をつける学習-未来をひらく家庭科- 望月 一枝 著者代表 教育実務センター

■参考文献 ・21世紀の生活経営-自分らしく生きる- 白井和恵 編著 同文書院

■オフィスアワー・研究室

・授業終了後30分程度・第3校舎講師控え室（第3校舎1階）、その他何かあれば教務課経由でお願いします。

■備考 ・特になし

家庭電気・機械

阿久津 勝利

2年 前期 選択 教職課程必修 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

社会生活や家庭生活で必要となる「エネルギー変換の技術」の基礎について学びます。生活におけるエネルギーの利用について学んだ上で、日常生活で利用することが多い家庭電気機器等を取り上げ、その仕組みを知り、安全な使用方法と故障等のトラブルに対処する方法について考えます。中学校技術・家庭科における関係する指導の実際についても紹介します。

■到達目標（学修成果）

- ・生活におけるエネルギー変換の技術について関心をもつようになる。
- ・家庭生活中で利用する電気機器等の仕組みの概要を理解し、安全に利用できるとともに、正しく動作しない時に、その原因について考えることができるようになる。
- ・エネルギー変換と利用の技術についての基本を理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となり、中学校・高等学校の教員免許取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修その後	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日常生活におけるエネルギーの利用とその技術について考え、中学校における指導内容を知る。 道具から機械の発明、機械の構成について知る。	予習：中学・高校で学んできた電気や機械に関する学習をふりかえる。 復習：学習指導要領を読んで、中学校・高等学校における指導内容を知る。	90分
2回	電気の基礎知識を確認する。電圧と電流、電力、直流と交流	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
3回	発電、送配電と電気の安全な利用について知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
4回	電気エネルギーの熱への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
5回	電気エネルギーの光への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
6回	電気エネルギーの動力への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
7回	機械の運動伝達、機構、機械材料について知る。 ミシンの構成と布を縫うしくみについて知る。	復習：関心のある機器を選び、そのしくみについて調べる。	90分
8回	電気の情報伝達への利用について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。 まとめ	復習：選んだ機器について、そのしくみと、取り扱い上の留意点等についてレポートにまとめる。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①授業に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む） ②課題の達成度 ③レポートの内容
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・やさしい家庭電気・情報・機械 藪 哲郎 著 講談社

■参考文献

- ・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 代表 田口浩継 東京書籍 令和4年度用
- ・生活家電入門 発展の歴史としくみ 大西正幸 著 技報堂出版
- ・家電が一番わかる 涌井良幸 涌井貞美 著 技術評論社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時30分～15時00分）

連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

なし

食物学（実践栄養学）

山田 奈緒子

2年 後期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

栄養素の種類と体内での働きや食生活が関係する生活習慣病など栄養学の基礎を学ぶ。様々な健康・ダイエット情報に惑わされることなく、毎日の食生活やライフステージごとに活用できる正しい知識を身につける。また食物摂取頻度調査、食事記録をつけることにより、自分の栄養摂取状態・食生活・健康状態を見直し、具体的な改善方法を検討する。

■到達目標（学修成果）

食物摂取頻度調査の結果や食事記録から自分の心と体が食生活と密接につながっていることを理解する。その上で、栄養素の特徴やバランス良い食生活とは何かがわかり、実際の食生活で実践できる。

ライフステージごとの食生活上の注意点がわかる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション—食べるとは？— グループディスカッションを通し、 食べる意義について考えてみる	予習：栄養・健康などについて知りたいことを考えまとめておく。 1-2ヶ月の食生活について振り返る。	30分
2回	栄養と栄養素について 栄養素の種類と水の働き	復習：五大栄養素についてまとめる。	30分
3回	炭水化物① 食物繊維の働き	復習：食物繊維の分類と役割についてまとめておく。	30分
4回	炭水化物② 糖質の種類と特徴および働き、人工甘味料について	復習：糖質の分類と特徴についてまとめる。	30分
5回	たんぱく質 食物摂取頻度調査の実施 たんぱく質の構造と働き	復習：アミノ酸の種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
6回	脂質① 脂質の種類とコレステロールの特徴	復習：コレステロールの役割と特徴についてまとめる。食事記録の作成。	30分
7回	脂質② 脂質の種類と脂肪酸の特徴	復習：脂質の質についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
8回	ビタミン① 脂溶性ビタミンの種類と特徴	復習：脂溶性ビタミンの特徴と過剰症についてまとめる。食事記録の作成。	30分
9回	ビタミン② 水溶性ビタミンの種類と特徴	復習：水溶性ビタミンの特徴と役割をまとめる。食事記録を作成する。	30分
10回	ミネラル 代表的なミネラルについて特徴と働き	復習：ミネラルの種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
11回	食事摂取基準の読み方について 適切なBMIの理解について	復習：健康的な食生活について考える。食事記録を作成する。	30分
12回	生活習慣病について① 肥満とやせによる問題	復習：生活習慣病の復習および食事記録の作成	30分
13回	生活習慣病について② メタボリックシンドローム、糖尿病、歯の健康など	復習：これまでの食事記録を振り返り、改善点を考える。	30分
14回	4群点数法の利用方法 自分に不足する栄養素と食品について考える	復習：4群点数法の復習および食事記録、レポートの作成	30分
15回	もっと野菜を食べよう 野菜を多く摂取するためにどうするか実験を通して考える	復習：授業の復習およびレポートの作成。正しい食生活を実践する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

食事記録やレポートについては授業内で講評し、返却する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意すること。 *毎回授業までの2日間の食事記録を作成する。 また、まとめのレポート課題を提出する。
業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考

毎回、教科書とノートを持参すること。

家庭情報処理

阿久津 勝利

2年 後期 選択 教職課程必修 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

生活や産業における情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する技術を高めるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として必要な情報や情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付けることをねらいとします。また、中学校における情報処理に関係する指導の実際について知り、高等学校家庭科における関連科目の指導の方法について考えます。

■到達目標（学修成果）

- ・生活や産業における情報に関する技術について関心を持つようになる。
- ・教員として必要な情報活用能力の基礎が身に付く。
- ・校務や問題解決にコンピュータを活用しようとする意欲が高まる。
- ・情報に関する基本的技術について理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となり、中学校・高等学校の教員免許取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	○情報社会 ・情報とメディアとそれらの特性 ・問題解決の方法 ○中学校、高等学校における情報に関する学習指導要領	予習：自分の情報手段の活用能力を確認する。 復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
2回	○情報デザイン ・情報のデジタル化 ・数値の表現 ・文字、音、画像のデジタル表現 ・データの圧縮 ○表計算ソフトウェアによる成績処理	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
3回	○コンピュータのしくみ ・コンピュータの構成・データ処理のしくみ・論理回路 ○表計算ソフトウェアの利用（関数、マクロ）	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
4回	○情報通信ネットワーク ・ネットワークのしくみ ・インターネットの利用 ○表計算ソフトを利用したデータの分析	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
5回	○プログラミング入門 ・アルゴリズム ・プログラムの仕組み ・プログラムの制御構造（順次 分岐 反復） ○プログラミング1	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
6回	○プログラミング2	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
7回	○プログラミング3	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
8回	○情報技術の適切な活用 ○まとめ	復習：授業内容をふりかえり今後の課題について整理する。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて授業等で返却します。家庭学習の課題をmanaba courseで課します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①活動に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	②課題の達成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	③レポートの内容
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・高等学校用 文部科学省検定教科書 高等学校 情報 I Step Forward! 赤堀 侃司 他 著 東京書籍

■参考文献

・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 東京書籍 令和4年度用

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時00分～15時00分） 連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

毎時間必ず教科書と授業で配布したプリント類（ファイリングしておく。）を持参してください。また、実習で作成したデータファイルを保存するためのUSBメモリーを各自購入して用意すると便利です。（詳しくは、1回目の講義で説明します。）

キャリアプランニング

平松 隆司

2年 前期又は後期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

就職活動は単に会社を探し仕事に就くといったことの作業をすることではなく、自分自身と向き合い、社会情勢をきちんと理解し、将来どのようなキャリアを形成していくかについて考え行動することである。短期的視点ではなく、将来にわたって自分の目指すゴールがどこにあるのか、自分がやりたいことは何なのか、そしてどんな人生にしたいのか、長期的に考えていくことであり、且つ必要なことである。キャリアデザインの基本的な考え方や就職活動の流れを理解し、より良い職業選択ができるように学習する。

■到達目標（学修成果）

- ①キャリアプランニングとは何かを知り理解する。
- ②雇用環境の現状を理解し、自己分析を通じて自らのキャリアをデザインする力を身につけることができる。
- ③社会人、卒業生の体験を聞くことを通して将来像を描ける能力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。全学生の共通必修で、社会人基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション；ノート、アンケート、採点基準、講義概要、ハンドアウト（印刷物）の配付	予習：シラバスを読む	60分
2回	【業界・企業研究】①－雇用と労働市場－新卒の雇用と労働市場を理解し社会が求める人材について考える①	予習：社会人に求められることについて考えてくる 復習：学生と社会人の違いについてレポートする	30分
3回	【業界・企業研究】②－産業と職業－社会の中にある働く場（産業）と働き方（職業）について業界誌から学ぶ	予習：将来、目指している仕事について考えてくる 復習：産業と職業に関するレポート作成	30分
4回	【業界・企業研究の基本】①－業界・企業を研究するための情報収集－（総合アパレルの仕事）を学ぶ	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。 予習：次の項目を読む	30分
5回	【業界・企業研究の基本】②－業界・企業を研究するための情報収集－（小売業アパレルから仕事を学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する 予習：次の項目を読む	30分
6回	【業界・企業研究の基本】③－業界・企業を研究するための情報収集－（SPA企業の仕事）を学ぶ	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する 予習：次の項目を読む	30分
7回	【業界・企業研究の基本】④－業界・企業を研究するための情報収集－（空間デザイン企業の仕事）を学ぶ	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
8回	【業界・企業研究の基本】⑤－業界・企業を研究するための情報収集－（ECビジネスの制作現場について学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
9回	【業界・企業研究の基本】⑥－業界・企業を研究するための情報収集－（ヴィジュアル制作の現場について学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
10回	【業界・企業研究の基本】⑦－業界・企業を研究するための情報収集－（縫製工場について学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
11回	【業界・企業研究の基本】⑧－業界・企業を研究するための情報収集－（新卒人材について考える－各企業からの説明）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
12回	【業界・企業研究の基本】⑨－業界・企業を研究するための情報収集－（副資材・付属品メーカーについて学ぶ）	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
13回	新卒の雇用と労働市場を理解し、求める人材について考える就職活動の流れについて②	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
14回	新卒の雇用と労働市場を理解し、求める人材について考える就職活動の流れについて③	復習：講師の話を理解して、ノートを整理する。 予習：次の項目を読む	30分
15回	【まとめ】講義全体から学んだことに対して、実践的就職活動の流れについて理解を深める	予習：14回迄に配付した資料を復習してくる 復習：学んだことを元に就職活動の準備を進める。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業課題（レポートなど）については授業内にフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業で必要とする資料は適宜小冊子やプリント等を配付する。

■参考文献

適宜

■オフィスアワー

10：00～17：00（水曜日除く）本校舎1階就職部

■備考

この科目では、原則として遅刻は認めません。授業中に次のことはしてはいけません。離席、私語、飲食、メールなど授業に関係のないこと。

心理学A

手島 陽介

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。

■到達目標（学修成果）

心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の選択科目で卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心とは何か① ー心理学の定義と研究分野、意識と無意識の世界ー	予習:心理学という学問についてのイメージ、何を学びたいかを考えてくる。	15分
2回	心とは何か② ー心理学の活躍する場、心理学の歴史ー	復習:プリントを振り返り、日常の心理現象について考える	30分
3回	性格の心理 ー個人の性格について、遺伝と環境、性格テストー	復習:パーソナリティテストの結果を見て、自身の現在の状況について振り返る	30分
4回	発達の心理① ー乳幼児期～児童期までの発達段階と課題ーグループディスカッションを通して、発達過程を考える	予習:誕生してから現在までどのような発達経過を辿ってきたのかを考えてくる	15分
5回	発達の心理② ー青年期以降の発達段階と課題、アイデンティティについてーグループワークを行い自我を考える	復習:エリクソンの発達段階説をもとに現在の自分の課題について考える	30分
6回	動機づけ（やる気・モチベーション）のメカニズム ーストレス社会とどう向き合うか、内発的・外発的動機づけー	復習:自身の身の回りのストレスナーについて考えコーピング方法を検討する	30分
7回	コミュニケーション ー人間関係づくり、円滑なコミュニケーションを行うには、非言語的表現と自己表現ー	復習:非言語的コミュニケーションを意識し他者と会話をする	30分
8回	学習はどのように成立するか、記憶の構造とゆがみについて	復習:本日の資料と教科書を振り返り、学習の心理を復習し理解する。	30分
9回	感情のメカニズム① ー人間の感情のメカニズムと分類、感情の表出についてー	予習:ここ最近に感じる感情について、出来事との関連を考えてくる	30分
10回	感情のメカニズム② ー欲求不満の心理、ストレスとストレスナーの関係、自我防衛機制ー	復習:身の回りのストレスナーについて考え、コーピングを試してみる	30分
11回	集団の心理 ー集団の中での行動、社会的促進、リーダーシップについてー	復習:集団の心理的現象について振り返り日常の中での影響について考える	30分
12回	色彩の心理学と服飾 ー色が人のこころに影響する要因、知覚（視覚）の機能について、色と服飾の関係ー	復習:インテリアや服など周りの色を観察し、心理的な影響について考察する	30分
13回	自分の強み、自分を知る-日常生活の無意識や認知から自分の強みを発見し表現する、自分とは何者かを考える-	復習:授業プリントを振り返り、再度自分の強みについて振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Aのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室
後期：水曜日（12：00-15：00）研究室
【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

心理学B

手島 陽介

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義では、「心理学A」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。

■到達目標（学修成果）

本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心理学とは何か① ー対人認知と印象形成、意識と無意識ー	予習:身近な心理的な現象について考えてくる	30分
2回	心理学とは何か② ー対人魅力と人間関係を探るー	復習:プリントを振り返り、対人認知の心理について理解する	30分
3回	影響の心理① ー他者からヒトはどのように影響を受けるかを考えるー交渉や説得について考えるグループワークを行う	復習:他者からの影響を受けた経験について振り返り要因を探る	30分
4回	影響の心理② ービジネス場面での影響の心理学を考える、購買の心理学ー	復習:実際のCMや広告などでメディアによる心理的影響について考える	30分
5回	知覚の心理① ーヒトは世界をどのように認識しているのか、ものが見える仕組み、音楽心理学、感覚器官の不思議、ー	復習:教科書とプリントより、錯視や幾何学図形を見て知覚を振り返る	30分
6回	知覚の心理② ー音と脳の関係、音楽で変わる行動心理、音楽療法の世界ー	予習:身の回りの音楽や店舗のBGM、環境音などについて調べてくる	15分
7回	思考の心理① ー「考える」とは何か、問題解決能力とはーグループワークを通して、思考のプロセスを考える	予習:問題を解決した、乗り越えた場面について考えてくる	60分
8回	思考の心理② ー創造性と創造的人格、創造性の段階ーグループワークを通して、創造性について考える	復習:創造的な発想のプロセスを復習し、課題に生かしてみる	30分
9回	犯罪の心理 ー犯罪の背景、サイコパスとは何か、法と心理学、犯罪者の心理、犯罪被害者の心理ー	復習:配布プリントを振り返り、犯罪心理学の定義やデータについて確認する	30分
10回	精神的健康とは ーこころが健康な状態を考えるー	予習:現在の自分の健康状態について考えてくる	30分
11回	心と身体の関係① ー認知・感情・行動・身体から心のバランスを考えるー	復習:心のモデルに、様々な状況を当てはめて考える	30分
12回	心と身体の関係② ー呼吸法とストレス、睡眠などについてー	復習:呼吸について、日常で体験をする	30分
13回	幸福感と人間関係 ー世界の文化と幸福感、主観的幸福感の要因ー	復習:世界の幸福感についてのデータを振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Bのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

憲法 -法学入門-

東島 日出夫

2年 前期又は後期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていきます。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの（たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など）はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養います。

■到達目標（学修成果）

「憲法」や「法学」などというと、堅苦しくてつまらないものというようなイメージがあるかも知れませんが、そうした不安を払拭すべく、身近なことから様々な事件などを素材に、分かりやすいだけでなく、将来社会人として生活していく上で役に立つような法的知識が得られるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、教養選択科目の単位となります。また、教員免許状取得を目指す方にとっては、教職課程必須科目です。そして、本授業科目は、とりわけ社会人としての資質・能力の向上に貢献します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、法解釈とは何か、憲法論の概説	予習：シラバスの熟読、憲法条文の印刷（電子政府 e-Gov サイトで無償入手可）	45分
2回	立憲主義、国民主権、平和主義	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
3回	人権論概説、基本的人権、人権享有主体	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
4回	基本的人権の限界	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
5回	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
6回	精神的自由権① -内心の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
7回	精神的自由権② -表現の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
8回	経済的自由権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
9回	人身の自由、国務請求権、参政権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
10回	社会権① -生存権、教育権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
11回	社会権② -勤労権、労働基本権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
12回	統治機構概説、権力分立	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
13回	裁判所、財政・地方自治	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
14回	総括・小試験	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	90分
15回	補論・小試験の解説	復習：試験問題の振り返り	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目にまとめと試験、15回目にその解説をする予定。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成績評価においては、14回目（予定）に行う授業内試験結果を基本とするが、授業態度・姿勢、日常課題等を加味する。なお、出題する可能性のある箇所は、それぞれの授業回において、その旨をその都度言及するので、復習に力を入れていただきたい。試験には、自筆の講義ノートであれば、持ち込み可とする予定であるが、持ち込み不可など条件を厳しくする場合もある。

また遅刻者は、入室時に入室時間・学籍番号・氏名を指定用紙に記載すること。

■教科書 特に指定しない。板書をするのみならずレジュメ等の資料を配布する。

■参考文献 ・芦部信喜『憲法（第8版）』（岩波書店、2023年）
・初宿正典、大沢秀介他『目で見る憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）
・渋谷秀樹、赤坂正浩『憲法1人権（第8版）』（有斐閣、2022年）・『憲法2統治（第8版）』（有斐閣、2022年）

■オフィスアワー・研究室 連絡先：教務課（本校舎） 出講日：金曜日

■備考 なし

化学A－皮膚科学と化粧品科学－

野村 直

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。

■到達目標（学修成果）

皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目です。卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。自身のトラブル回想。	30分
2回	<皮膚概論1>役割と基本構造、理想の肌とは	予習：自身の皮膚と理想について考える。	30分
3回	<皮膚概論2-1>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
4回	<皮膚概論2-2>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
5回	<皮膚概論3-1>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
6回	<皮膚概論3-2>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
7回	<皮膚概論4>皮膚の疾患、過脂性と乾燥性、ニキビ・ドライスキン	予習：自身の肌質やトラブル、原因と対処法を整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<皮膚概論5-1>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の周りの人について考え、整理する。	30分
11回	<皮膚概論5-2>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の周りの人について考え、整理する。	30分
12回	<皮膚概論6-1>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
13回	<皮膚概論6-2>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
14回	<皮膚概論6-3>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物は コメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を以てフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利穎著 漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株) ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考

授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します。

化学B-皮膚と毛髪と化粧品科学-

野村 直

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。

■到達目標（学修成果）

皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目であり、卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。	30分
2回	<皮膚総論①>皮膚と付属器官の役割と基本構造	予習：自身の皮膚について考えておく。	30分
3回	<皮膚総論②>皮膚トラブル	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
4回	<毛髪概論①-1>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
5回	<毛髪概論①-2>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
6回	<毛髪概論②-1>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
7回	<毛髪概論②-2>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料の学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<毛髪概論③-1>ヘアカラー	予習：自身もしくは周りの人のヘアカラーした髪を観察しておく。	30分
11回	<毛髪概論③-2>パーマメントウェーブとくせ毛矯正	予習：自身もしくは周りのパーマやくせ毛矯正した髪を観察しておく。	30分
12回	<毛髪概論③-3>ヘアスタイリング	予習：自身のスタイリングの問題点を整理しておく。	30分
13回	「ヘアケア実用編」企業で毛髪研究に従事している専門家による特別講義を予定	予習：第1回と第12回授業の内容を整理しておく。	30分
14回	「香りの世界」	予習：自身の香りや生活の中の香りについて考えておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を持ってフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、進捗確認の実施に併せて課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書 決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著、漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンス著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します

体育 B—身体と表現—

水上 雅子

2年 後期 選択 教職課程必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

スポーツも日常の生活も、全て身体活動です。しかし、現在の私たちは“からだ”に対して興味が無く、自分の“からだ”なのに借り物のようです。“からだ”を意識し、どう付き合うのかを学習することは大切です。なぜなら、自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本だと思うからです。一流のスポーツ選手のパフォーマンスに感動を覚えたことはありませんか。他人の何気ない振る舞いに美しさを感じたことはありませんか。自分の身体活動にも、自然な美しさや自分らしさが表現できたら楽しいと思いませんか。個人種目とチームの課題で技術向上を目指し学習します。アダプテッドスポーツ、ニュースポーツを経験し、スポーツでの共生を学習します。

■到達目標 (学修成果)

授業では、スポーツを通して自己の表現を探し、自分らしさを発見することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養科目の単位となり、教職課程必須科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 からだを動かす—姿勢と自分の動き 一人、またはペア、グループでからだを動かす	予習 シラバスを読んでくる。	10分
		復習 自分の体の動きをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
2回	バドミントン① 基本技術の習得 ドライブ・サーブ	復習 シャトルとボールの違いをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
3回	バドミントン② 基本技術の習得 ハイクリア ダブルスゲーム	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30~60分
4回	バドミントン③ 基本技術の習得 ドロップ・ヘアピン シングルスゲーム	復習 シングルスとダブルスのルールの確認。基本運動を3日以上実践する。	30~60分
5回	バドミントン④ 応用技術の習得① 正式なルールでのゲーム (ダブルス)	予習 基本技術の確認 復習 基本運動を3日以上実践する。	30~60分
6回	バドミントン⑤ 応用技術の習得② 正式なルールでのゲーム (グループ)	復習 バドミントンについてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30~60分
7回	アダプテッドスポーツ① 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30~60分
8回	『動きの表現—写真』 グループで動きの感じられる作品づくり (課題)	予習 作品の構想を考えてくる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
9回	卓球① 基本技術の取得①シングル練習	予習 シングルのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
10回	卓球② 基本技術の習得②ダブルス練習	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
11回	卓球③ 応用技術の習得①正式なルールでのゲーム (チーム戦)	復習 ルールと動きの確認をし、レポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
12回	卓球④ 応用技術の習得②正式なルールでのゲーム (チーム戦)	復習 卓球についてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30~60分
13回	アダプテッドスポーツ② 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30~60分
14回	アダプテッドスポーツ③ 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30~60分
15回	正式ルールでゲームを行う。 各クラスで種目を選択し、実践する。	復習 後期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

manaba を使用し、授業内の個人の記録や課題を提出してもらい、コメント・評価を返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 随時紹介 経験する種目のルール集 『はたらく細胞』(清水茜 講談社)

■オフィスアワー・研究室 初回授業で伝える 【研究室】 体育研究室 (研究棟2階 6024)

■備考 状況に応じて内容が変化することあり。

基本運動：毎回縄跳び (ダブルタッチなど)・腹筋・背筋—体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化

英語（総合）A

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Aの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つのスキルを伸ばしていくことを目的とし、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、毎回のミニプレゼンテーションや学期末の長めのプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、教科書の進め方、自己紹介など	シラバスを読む。	30分
2回	キャンパスライフについて (1)	次回の予習	30分
3回	キャンパスライフについて (2)	次回の予習	30分
4回	日本の文化について (1)	次回の予習	30分
5回	日本の文化について (2)	次回の予習	30分
6回	休みの計画について (1)	次回の予習	30分
7回	休みの計画について (2)	次回の予習	30分
8回	ファッションについて (1)	次回の予習	30分
9回	ファッションについて (2)	次回の予習	30分
10回	ライフスタイルについて (1)	次回の予習	30分
11回	ライフスタイルについて (2)	次回の予習	30分
12回	プレゼンの技術・準備について	プレゼンテーションの準備	30分
13回	期末プレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備	30分
14回	期末プレゼンテーション②	他の学生へのフィードバック	30分
15回	全体へのフィードバック	総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業で学んだことを元に簡単な英語の文章を毎回提出してもらいます。また、毎回プレゼンテーションに必要なスライド等もmanaba上で提出してもらいます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	フィードバックシート、小テスト、発表（＋発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

関連の英語記事を配布、スライド等で用意

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

英語（総合）B

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Bの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つのスキルを伸ばしていくことを目的とし、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、毎回のミニプレゼンテーションや学期末の長めのプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、教科書の進め方、自己紹介など	シラバスを読む。	30分
2回	お祭りについて (1)	次回の予習	30分
3回	お祭りについて (2)	次回の予習	30分
4回	旅行について (1)	次回の予習	30分
5回	旅行の文化について (2)	次回の予習	30分
6回	食べ物について (1)	次回の予習	30分
7回	食べ物について (2)	次回の予習	30分
8回	社会問題について (1)	次回の予習	30分
9回	社会問題について (2)	次回の予習	30分
10回	ワークカルチャーについて (1)	次回の予習	30分
11回	ワークカルチャーについて (2)	次回の予習	30分
12回	プレゼンの技術・準備について	プレゼンテーションの準備	30分
13回	期末プレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備	30分
14回	期末プレゼンテーション②	他の学生へのフィードバック	30分
15回	全体へのフィードバック	総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業で学んだことを元に簡単な英語の文章を毎回提出してもらいます。また、毎回プレゼンテーションに必要なスライド等もmanaba上で提出してもらいます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	フィードバックシート、小テスト、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

関連の英語記事を配布、スライド等で用意

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

ワールド・カルチャーA

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

各国の一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている言語や英語に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけでなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。動画の視聴や記事の読解などを通じて主にリスニングやリーディングの技能を高めることが出来ます。

■到達目標 (学修成果)

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目 (国際関係)・選択科目です。教養選択科目 (一般・体育・国際関係) 16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーAは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	シラバスを読む。	30分
2回	インド	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
3回	フランス	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
4回	フィリピン	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
5回	インドネシア	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
6回	タイ	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
7回	ベトナム	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
8回	中国	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
9回	カナダ	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
10回	韓国	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
11回	ロシア	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
12回	イギリス	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
13回	プレゼンテーション技術について学習・準備	プレゼン資料作成	30分
14回	プレゼンテーション	プレゼン準備	30分
15回	プレゼンテーション	前期の総復習	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

優れたフィードバックシート、コメントはクラスで紹介しします。毎回グループで短い発表を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点 (出席、宿題、予習、授業内小課題など)
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	小テスト、フィードバックシート、発表 (+発表原稿)、意見・感想など
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜資料を配布する

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

ワールド・カルチャーB

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

各国の一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている言語や英語に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけでなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。動画の視聴や記事の読解などを通じて主にリスニングやリーディングの技能を高めることが出来ます。

■到達目標（学修成果）

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーBは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	シラバスを読む。	30分
2回	イタリア	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
3回	デンマーク	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
4回	台湾	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
5回	アメリカ	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
6回	ポルトガル	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
7回	シンガポール	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
8回	トルコ	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
9回	エジプト	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
10回	ケニア	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
11回	ブラジル	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
12回	アルゼンチン	国についての予習・プレゼン資料作成	30分
13回	プレゼンテーション技術について学習・準備	プレゼン資料作成	30分
14回	プレゼンテーション	プレゼン準備	30分
15回	プレゼンテーション	後期の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

優れたフィードバックシート、コメントはクラスで紹介します。毎回グループで短い発表を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	小テスト、フィードバックシート、発表（+発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜資料を配布する

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日 【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

実用英語 A

北澤 茉奈・Kim Collins

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日常会話や仕事の場面での英語でのコミュニケーション方法を学びます。

■到達目標（学修成果）について

本授業を履修することにより、食事の注文、道案内、アドバイス、様々なトピックについての会話、プレゼンテーションなど、日常的な場面で英語でのコミュニケーションができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養（国際関係）選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての実用英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション	【予習】 シラバスを読む	30分
2回	インテリア・単数/複数、前置詞	【復習】 クラスルーム・イングリッシュクイズ	30分
3回	地図・道を教える、尋ねる	【復習】 ジャーナル準備	30分
4回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング）	【復習】 ジャーナル	30分
5回	食べ物・料理の注文	【復習】 フレーズワークシート	30分
6回	レストランの話	【復習】 クイズ	30分
7回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】 スピーキングテスト準備	60分
8回	中間発表テスト	【予習】 テスト	30分
9回	日常生活・スケジュール	【復習】 ジャーナル準備	30分
10回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング）	【復習】 ジャーナル	30分
11回	ショッピング・比べる	【復習】 フレーズワークシート	30分
12回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】 クイズ	30分
13回	最終テストのプレゼンテーション準備	【復習】 スピーキングテスト準備	60分
14回	最終テストのプレゼンテーション	【復習】 テスト	30分
15回	最終テストのプレゼンテーションフィードバック	【復習】 テストの復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	会話への参加含む
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	最終プレゼンテーション, 中間発表テスト
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【研究室】 英語研究室（研究棟3階） 【出講日】 金曜日

英語研究室に連絡してください。

■備考

ハンドアウトはA4のファイルに綴じてください。期末に確認します。

実用英語 B

北澤 茉奈・Kim Collins

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日常会話や仕事の場面での英語でのコミュニケーション方法を学びます。

■到達目標 (学修成果)

本授業を履修することにより、映画やお祭り、伝統について話したり、さまざまなトピックについて話したり、プレゼンテーションを行ったりするなど、日常的な場面で英語でコミュニケーションをとることができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養 (国際関係) 選択科目です。教養選択科目 (一般・体育・国際関係) 16 単位は卒業要件です。教養科目としての実用英語 B は、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	コース紹介と夏休みについての会話	【予習】 シラバスを読む 【復習】 ワークシート	30分
2回	夏休みについてショー・アンド・テル	【復習】 夏休みについてのレポート	30分
3回	好み好き嫌い・提案	【復習】 ジャーナル準備	15分
4回	ジャーナル (あらゆるテーマでのライティングやスピーキング)	【復習】 ジャーナル	30分
5回	Movies ムービー pt1	【復習】 ワークシート	20分
6回	Movies ムービー pt 2	【復習】 クイズ	60分
7回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】 中間テストに向けて復習	30分
8回	中間発表テスト	【復習】 中間テスト復習	30分
9回	マインドマップ	【復習】 ワークシート	30分
10回	祭りと伝統	【復習】 ジャーナル準備	30分
11回	ジャーナル (あらゆるテーマでのライティングやスピーキング)	【復習】 ジャーナル	30分
12回	祭りと伝統	【復習】 クイズ	30分
13回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】 プレゼンテーション準備	60分
14回	最終プレゼンテーション	【予習】 プレゼンテーション	30分
15回	フィードバック	まとめ	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	会話への参加含む
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	中間発表テスト、最終プレゼンテーション
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

【研究室】 英語研究室 (研究棟 3 階) 【出講日】 金曜日

英語研究室に連絡してください。

■備考

ハンドアウト、テスト、プレゼンの準備は A4 のファイルに綴じてください。期末に確認します。

ファッション英語 A

北澤 茉奈

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 プリントを配布します。

■参考文献 必要に応じて指示します。

TED Talks や Coursera などの大規模公開オンライン講座も授業内で使用する予定です。

■オフィスアワー・研究室 英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考 テキストは、プリントを用意します。

ファッション英語 B

北澤 茉奈

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） 関連動画の視聴と書き取り 記事・動画の内容確認およびディスカッション	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 プリントを配布します。

■参考文献

必要に応じて指示します。

TED Talks や Coursera などの大規模公開オンライン講座も授業内で使用する予定です。

■オフィスアワー・研究室

英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考 テキストは、プリントを用意します。

フランス語（総合）A

福本 しのぶ

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

フランス語の歴史を追いながら、フランス文化を学び、フランスのエスプリを感じ、フランス語の楽しさを実感できます。フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web辞書、Web翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランスと日本の関わり合い 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理	10分
2回	フランス語の歴史 発音の決まり	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの文化 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランス語基礎会話 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
5回	フランスの生活 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
7回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
8回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す 予習：フランスらしさ、とは何か。	30分
9回	フランスの文化 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
10回	フランス語基礎会話 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
11回	フランスの生活 ②	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
12回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
13回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
14回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す 予習：フランスらしさ、とは何か。	30分
15回	まとめ	復習：講義メモ整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/理解の確認を行い、最後にレポート提出か発表をしてもらう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

随時コピー配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。

希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受験希望者対象に随時補習を行う。

言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

フランス語（総合）B

福本 しのぶ

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランスの歴史、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランス語の楽しさを実感できます。フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web辞書、Web翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランス語の歴史 発音の決まり / 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理	10分
2回	発音の決まり 基本のあいさつ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの芸術 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランスの文化 ①	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
5回	発音の決まり 基本単語	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランスの過去	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
7回	フランスの現在	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
8回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
9回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
10回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す	30分
11回	映画のセリフを考える	復習：講義メモ整理・発音練習	30分
12回	フランス映画を見る ①	予習：映画の概要資料を見る	30分
13回	フランス映画を見る ②	復習：見た映画を思い出す	30分
14回	映画についてディスカッション	復習：見た映画を思い出す	30分
15回	まとめ	復習：講義メモ整理・発音練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

随時コピー配布。
仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。
希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。
言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

ファッションフランス語 A

福本 しのぶ

2年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

フランス語の初級文法、簡単な会話を学びながら、基本的なファッション用語を身につける。

映像などを見ながら、フランス・ファッション、文化に触れ、「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、一歩フランス人に近づきましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス旅行する時、フランスでアトリエ現場研修する時などに役立つ表現を覚え使えるようになり、基本的なファッション用語が聞き取れるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連3

教養選択科目として卒業要件となります。現在フランスや日本で使用されている服飾用語を分析、つなぎ合わせていくと、服飾文化の源流の一つに辿り着き、大局的に服飾文化を見直す糸口が見つかる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る 日本との違い 基本的なあいさつ	予習：シラバスを読む	10分
2回	アルファベ・筆記体・発音の決まり・つづり字	復習：発音 / 筆記体練習	30分
3回	衣服の名称 ① 発音練習	復習：発音練習	30分
4回	数字 (0~100) ものの大きさ サイズ表現	復習：発音練習	30分
5回	フランス人が好きなファッション（ビデオ） 発音練習	復習：資料まとめ	30分
6回	衣服の名称 ② 発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
7回	色、フランス独自の色 名詞（男・女）	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
8回	大学図書館のフランス語資料 ファッション用語探し	予習：プレゼンテーションの内容決定 復習：資料まとめ / 発音練習	30分
9回	生地素材、柄 発音練習	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
10回	フランスのファッションの昔と今 映像 ①	復習：資料を読む	30分
11回	フランスのファッションの昔と今 映像 ②	復習：資料を読む	30分
12回	ディスカッション 言葉と発音	復習：資料まとめ / 発音練習	30分
13回	レポート仕上げ	復習：資料まとめ 予習：プレゼンテーションまとめ	30分
14回	レポート発表	復習：資料のまとめ 予習：プレゼンテーションまとめ	30分
15回	まとめ プレゼンテーション	復習：資料のファイリング	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎授業にて講義メモを出すので随時授業内でチェック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノート・ファイルの整理力、発音練習の積極性を重視
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	発音チェック、課題提出、学修ファイルチェック
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

教科書なし。毎回講義メモ配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。仏和辞典を購入希望の場合は要相談。

■参考文献

大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍・DVDやフランス語サイト。

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考

フランス人との交流会を試みますが、その都合などにより、授業内容は変更することもあります。

希望者には実用フランス語検定試験5級～3級の受験指導を行います。

みなさんが声を出さないと発音を直すことはできませんので、教室では積極的に大きな声で文字を読むようにしましょう。

ファッションフランス語 B

福本 しのぶ

2年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランス・ファッション、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランスのファッションの在り方を見ていきます。映像、資料を見ながら解説をし、次の授業では語彙の説明、発音をし、理解を深めていきます。

フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。

■到達目標（学修成果）

フランス旅行する時、フランスでアトリエ現場研修する時などに役立つ表現を覚え使えるようになり、基本的なファッション用語が聞き取れるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連3

教養選択科目として卒業要件となります。現在フランスや日本で使用されている服飾用語を分析、つなぎ合わせていくと、服飾文化の源流の一つに辿り着き、大局的に服飾文化を見直す糸口が見つかる。

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションフランス語A 簡単な復習 基本的な挨拶 発音の決まり	予習：シラバスを読む	10分
2回	ココ・シャネル映画 ①	復習：資料を読む	30分
3回	ココ・シャネル映画 ②	復習：映画を思い出す	30分
4回	映画に使われていた言葉 映画についてのディスカッション	復習：資料を読む	30分
5回	あなたにとってのファッションとは？ パリコレの真相	予習：あなたにとってファッションとは？ 復習：資料を読む	30分
6回	発音の練習 フランス語の単語	復習：発音練習	30分
7回	モードとフランス フランス文化庁の関わり合い グループディスカッション	復習：資料を読む	30分
8回	大学図書館のフランス語資料	予習：プレゼンテーションの内容決定 復習：資料まとめ	30分
9回	フランス語を考えてみよう！①	復習：発音練習	30分
10回	フランス語を考えてみよう！②	復習：発音練習	30分
11回	フランスのファッションの多様性 FASHION MIX	復習：資料を読む	30分
12回	フランスのファッション学校	復習：資料を読む	30分
13回	レポート仕上げ	復習：資料のまとめ 予習：プレゼンテーションまとめ	30分
14回	レポート発表	復習：資料のまとめ 予習：プレゼンテーションまとめ	30分
15回	まとめ プレゼンテーション	復習：資料のまとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

最後にフランス人デザイナーに関するレポートを提出。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノート・ファイルの整理力、発音練習の積極性を重視
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	発音チェック、課題提出、学修ファイルチェック
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

教科書なし。毎回講義メモ配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。仏和辞書を購入希望の場合は要相談。

■参考文献

大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍・DVDやフランス語サイト。

■オフィスアワー・研究室

金曜日(12:20~12:50)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

フランス人ゲストの都合、衣装博物館の展示などにより、授業内容は変更することもあります。

希望者には実用フランス語検定試験5級~3級の受験指導を行います。

みなさんが声を出さないと発音を直すことはできませんので、教室では積極的に大きな声で文字を読むようにしましょう。

中国語（総合）A

盧 繁華

2年 前期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

一年生の総合ⅠとⅡの内容をレベルアップした中国語文の構築や品詞の働きなどを充実させる。特殊な文法文型を深めながら中国語作文を自由に活用できるように授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の聞く、話す、書く、読む総合力を高めることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）A】は教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中国語の複文構造	復習：既習の文型文法 1年目の「中文課本」第3課～16課	40分
2回	等位複文、偏正複文、多重複文	予習：第1課「自己紹介」の読み練習	30分
3回	等位複文の種類	復習：第1課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
4回	等位複文の一種→並列表現文	予習：第2課「私の家庭」の読み練習	30分
5回	偏正複文の種類	復習：第2課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
6回	偏正複文の一種→譲歩関係の表し	予習：第3課「インターネット」読み練習	30分
7回	比較文の表し方→“比”の構文	復習：第3課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
8回	特定条件複文	予習：第4課「約束」の読み練習	30分
9回	常用疑問詞の呼応表現	復習：第4課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
10回	常用副詞の活用	予習：第5課「温泉旅行」の読み練習	30分
11回	補語の種類と重要な働き	復習：第5課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
12回	方向補語	予習：第6課「私の趣味」の読み練習	30分
13回	特殊な存現文の伝達機能	復習：第6課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内及び授業外で完成した平常小テストを期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『2冊目の中国語・購読クラス』 劉穎（白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞の『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（総合）B

盧 繁華

2年 後期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

既習の内容を実践に応用できるようにする。教材文を使うと同時に中国語圏のニュース記事などの新鮮な話題を取り入れた模範文に合わせて勉強し、文章翻訳をも新たに拡張する。

■到達目標（学修成果）

大学二年生の中国語レベルに達成し、中国語の文章力を身につけることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）B】は【中国語（総合）A】と併せて教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の文法ウォーミングアップ	復習：教科書第1課～6課までの復習	30分
2回	特殊文“是…的”	予習：教科書第7課「友達になる」	30分
3回	様態補語	復習：第7課の読解練習問題	30分
4回	可能補語	予習：教科書第8課「会食する」	30分
5回	常用疑問詞の不定用法	復習：第8課の読解練習問題	30分
6回	選択複文	予習：教科書第9課「目覚まし時計」	30分
7回	受身文“被”の構文	復習：第9課の読解練習問題	30分
8回	転折複文	予習：教科書第10課「アルバイト」	30分
9回	動量補語の用い方	復習：第10課の読解練習問題	30分
10回	使役文	予習：教科書第11課「冬休み」	30分
11回	連動文の構造	復習：第11課の読解練習問題	30分
12回	“把”の文構成特徴	予習：教科書第12課「留学」	30分
13回	常用副詞“就”、“都”の応用	復習：第12課の読解練習問題	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『2冊目の中国語・購読クラス』 劉穎（白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（会話）A

盧 繁華

2年 前期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

今まで慣れてきたリスニング・シャドーイングの発話練習の拡張をはかり、教材文中の日常臨場感がある言葉内容を会話題材にして授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の発話能力を高め、有用性のある言葉を身につけてコミュニケーションができることをめざす。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)A】は教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな中国語の発話表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の内容を再度チェックする	復習：ウォーミングアップ 1年目の「中文課本」第3～16課	30分
2回	名前、干支、年齢などの聞き方と答え方	予習：第一課「自己紹介」 読み練習	新出言葉 30分
3回	初対面の時に使う挨拶	復習：第一課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
4回	移動手段の聞き方と答え方	予習：第二課「通学」 読み練習	新出言葉 30分
5回	距離、所要時間の言い方	復習：第二課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
6回	趣味の聞き方と答え方	予習：第三課「趣味」 読み練習	新出言葉 30分
7回	できる（技術の習得）、動作の出来、程度	復習：第三課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
8回	排除（～以外）や添加（さらに）の文	予習：第四課「アルバイト」 読み練習	新出言葉 30分
9回	伝聞、所在、比較などの表現	復習：第四課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
10回	予定を尋ねる、相手を誘う時の表現	予習：第五課「スケジュール」 読み練習	新出言葉 30分
11回	招待する時、約束する時の表現	復習：第五課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
12回	介詞（～把）の文	予習：第六課「料理を注文する」 読み練習	新出言葉 30分
13回	料理を注文する時、お願いする時の表現	復習：第六課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のプリント まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック（ペーパー）	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『しゃべくり中国語』 内田慶市（金星堂）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（会話）B

盧 繁華

2年 後期 選択（2単位 講義）

■授業の方針・概要

語彙やフレーズを確実に把握した上で会話の応用範囲を深める。教材文のほかに中国の衣食住文化に触れ実践的な表現語の内容を新たに勉強する。

■到達目標（学修成果）

聞き取れる内容を正確に伝えられ、自分の意思でフリートークができることをめざす。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)B】は【中国語(会話)A】と併せて教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな中国語の表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期の内容を再度チェック	復習：既習の語彙・フレーズ	30分
2回	病院での表現	予習：第七課「診察を受ける」	新出言葉 30分
3回	すでに起こったことについて聞く	復習：第七課 総合練習問題	所定の頁 20分
4回	値切る時の表現	予習：第八課「買い物」	新出言葉 30分
5回	相手の意見を求める、サイズや様子がちょうど良い	復習：第八課 総合練習問題	所定の頁 20分
6回	褒める、謙遜する表現	予習：第九課「旅行」	新出言葉 30分
7回	比較文、まもなく起こること	復習：第九課 総合練習問題	所定の頁 20分
8回	反語文、使役文	予習：第十課「髪型」	新出言葉 30分
9回	いろいろな色と髪型	復習：第十課 総合練習問題	所定の頁 20分
10回	現在進行形Ⅰ（動作の進行）	予習：第十一課「ファッション」	新出言葉 30分
11回	服スタイル及び服の言い方	復習：第十一課 総合練習問題	所定の頁 20分
12回	現在進行形Ⅱ（状態の持続）	予習：第十二課「宿を予約する」	新出言葉 30分
13回	ホテルで役立つ表現のまとめ	復習：第十二課 総合練習問題	所定の頁 20分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のプリント	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『しゃべくり中国語』 内田慶市（金星堂）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

教育原理

柄越 祥子

2年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義は、教職課程の授業であることから、教師になることを前提として、「教育とは何か」という根本的な問いについて考え、さらに学校で教育が行われていることの意味について議論しようとするものです。授業は講義が中心になりますが、毎時間ある程度の時間をとって、4人ほどのグループに分かれ、授業内容の確認のためのディスカッションをしていただきます。また、毎回の授業の終わりには、質問票の提出が求められます。各テーマの最初と終わりにはグループワークを行う予定です。

■到達目標（学修成果）

①自分の言葉で「教育」を定義し、今日の教育目的について理解できるようになる。②学校の発達について知り、学校の現代的な課題を理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読んで要点を確認する。	15分
2回	教育の定義（1）「教育」のイメージを探る（グループワーク）	復習：授業内で聞いた他の人の意見も参考に、自身自身の「教育」のイメージを見直す。	30分
3回	教育の定義（2）教育小事典を手がかりに	復習：プリントの取り上げた箇所を読んで、教育の定義を確認する。	30分
4回	教育の定義（3）教育学大辞典をてがかりに	復習：プリントの取り上げた箇所を読んで、ここまでのイメージや定義を見直す。	30分
5回	教育の三つのモデル 手細工モデル・農耕モデル・生産モデル	復習：プリント・教科書を参考に三つの教育モデルについて確認をする。	30分
6回	教育の新しいモデルの探求 一元論を越えたモデルを求めて（グループワーク）	復習：グループワークの内容も踏まえて教育のモデルについてまとめる。	30分
7回	「教える」と教育の違い 教育のパラドックス	復習：教科書の指摘した箇所を読んで、教育の定義についてまとめる。	60分
8回	教師を取り巻く環境 教師と子ども・教師と教師・教師と保護者・教師と国家	復習：教科書の指摘した箇所を読んで教師の環境について確認する。	30分
9回	学校とは何か（グループワーク）	復習：議論されたことの振り返りを行う。	30分
10回	学校の歴史（1）学校はどのように発達してきたか	復習：教科書の指摘した箇所を読んで学校の発達についてまとめる。	30分
11回	学校の歴史（2）複線型学校体系と単線型学校体系	復習：教科書の指摘した箇所を読んで学校の体系についてまとめる。	30分
12回	学校の歴史（3）義務教育は必要か	復習：教科書の指摘した箇所を読んで義務教育についてまとめる。	30分
13回	学校と法 教育基本法・学校教育法を中心に（グループワーク）	復習：教科書の指摘した箇所を読み、グループワークの内容も踏まえて関係法規について確認する。	30分
14回	授業内容のまとめ	復習：ノート、教科書、プリントなどを確認する。	90分
15回	グループワークによるまとめ 試験のフィードバック	予習：半期のまとめを自分なりに行う。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目、15回目に試験についての解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 沼野一男ほか『教育の原理（第四版）』学文社

■参考文献

参考文献は授業中に指示します。

■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先 本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前後 授業実施教室

■備考 なし

教育課程論

白井 勝美

2年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

1年生の「教育制度論」を引き継ぎ、学校教育の制度・行政・課程について「学習指導要領」に視点を当てて考察して行く。概略は授業計画に記す。尚、介護等オリエンテーション（評価も含む）も本授業内容に含める。

■到達目標（学修成果）

①「学習指導要領」の歴史の変遷を知る。②これまでの「学習指導要領」の総則の主眼内容を知る。③高等学校の「家庭」の指導内容を知る。④家庭科必修漢字を習得する。⑤介護等体験の事前学習内容を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容（内容が回数を横断する場合がある。）	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	①オリエン ②教育課程（カリキュラム）編成の基本原則について ③教員採用試験について 家庭科教員必修漢字1	復習：家庭科教員必修漢字1の復習	30分
2回	①教育課程編成と「学習指導要領」について ②介護等体験について ③家庭科教員必修漢字2 Active Learning ディスカッション	復習：家庭科教員必修漢字2の復習 介護等体験の必要性について整理する。	30分
3回	①「学習指導要領」と教育課程の改訂について ②家庭科教員必修漢字3 Active Learning ディスカッション	復習：①家庭科教員必修漢字3の復習 ②テキストを読み返す。	60分
4回	①「学習指導要領」の歴史の変遷と改訂内容1（性格・位置づけ他）について ②家庭科教員必修漢字4	復習：家庭科教員必修漢字4の復習 学習指導要領の歴史について整理する。	30分
5回	①「学習指導要領」の歴史の変遷と改訂内容2（社会的背景他）について ②家庭科教員必修漢字5	復習：家庭科教員必修漢字5の復習 予習：中間漢字テストの準備	60分
6回	①「学習指導要領」の歴史の変遷と改訂内容3（役割や機能他）について ②中間漢字テスト	復習：学習指導要領の推移をまとめる	60分
7回	①平成30年の「学習指導要領」の改訂と教育課程について ②家庭科教員必修漢字6	復習：家庭科教員必修漢字6の復習 「生きる力」について簡潔に説明	30分
8回	①教育課程が社会に果たしている役割と機能（地域連携・学校安全）について ②家庭科教員必修漢字7Active Learning ディスカッション	復習：家庭科教員必修漢字7の復習 「高等学校学習指導要領 総則編」復習	60分
9回	①これまでの内容の整理 ②介護等体験の概要について ③家庭科教員必修漢字8	復習：家庭科教員必修漢字8の復習 「中学校学習指導要領 総則編」復習	60分
10回	①教育内容の選択・配列する方法について ②介護等オリエンテーションActive Learning ディスカッション	復習：介護等体験活動の準備内容の整理	30分
11回	①地域の実態に沿った教育課程や指導計画について ②家庭科教員必修漢字9	復習：家庭科教員必修漢字9の復習 「指導計画」の復習	30分
12回	①カリキュラム・マネジメント1（意義や重要性について） ②家庭科教員必修漢字10	復習：家庭科教員必修漢字10の復習 カリキュラムマネジメントの復習	30分
13回	カリキュラム・マネジメント2（学力とカリキュラム評価の視点について）	復習：授業資料の再確認 カリキュラムマネジメントの復習	30分
14回	カリキュラム・マネジメント3（課題について）	復習：授業資料の再確認 カリキュラムマネジメントの復習	30分
15回	①授業の総括（学習指導要領、教育課程、カリキュラムマネジメント） ②漢字テスト	復習：授業資料をすべて振り返る。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験について授業時にポイントを解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	①試験 ②小レポート
日常課題	10%	③授業姿勢（欠席・遅刻も含む）・日常課題を重要視する。
定期試験	60%	④その他追加については授業時に指示する。

■教科書

各最新版

『中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省

『高等学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課）

研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

■備考

なし

特別支援教育概論

星 祐子

2年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害を始めとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学習していく。

■到達目標（学修成果）

- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達について理解できる。
- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法が理解できる。
- ・障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難とその対応が理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、令和二年度から設置された教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の経緯や理念、仕組み	復習：近年の特別支援教育に関する制度の復習	60分
2回	学習指導要領における特別支援教育	予習：学習指導要領の確認 復習：学習指導要領の記載について復習	60分
3回	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	予習：幼児、児童、生徒の心身の発達について下調べ	60分
4回	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への配慮と具体的な支援について（グループディスカッション）	予習：特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒に対する支援について下調べ	60分
5回	障害のある幼児、児童、生徒の学習上・生活上の困難について（疑似体験・レポート作成）	予習：障害種についてテキストで確認	60分
6回	障害のある幼児、児童、生徒への配慮と具体的な支援について（グループワーク）	復習：障害のある幼児、児童、生徒への配慮についてレポートをまとめること	120分
7回	特別支援学校、特別支援学級、通常の学級など連続性のある多様な学びの場と合理的配慮について	予習：連続性のある多様な学びの場についての下調べ	60分
8回	自立活動の教育課程上の位置づけと内容について	予習：学習指導要領の「自立活動」の記載について確認	60分
9回	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成の意義と活用（グループディスカッション）	予習：個別の教育支援計画、個別の指導計画について確認	60分
10回	心のバリアフリー教育の推進、交流及び共同学習について（レポート作成）	予習：心のバリアフリー教育について下調べ	60分
11回	学校における支援体制づくり、特別支援教育コーディネーターの役割（グループディスカッション）	復習：特別支援教育コーディネーターの役割について復習	60分
12回	保護者（家族）・関係機関との連携	予習：文献等から保護者や関係機関との連携についての情報収集	120分
13回	母国語や貧困等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の困難と対応について（グループディスカッション）	予習：母国語や貧困等に起因する困難さのある幼児児童生徒について情報収集	120分
14回	諸外国における特別支援教育の体制	復習：諸外国の特別支援教育について復習	60分
15回	特別支援教育概論のまとめ	予習：特別支援教育概論全体を通しての確認	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内及び復習課題でのレポートについては、確認後、必要に応じて添削、授業内で解説をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 改訂版 教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト Gakken

■参考文献 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月

■オフィスアワー・研究室

前期：土曜日 本校舎1階教務課 後期：なし

■備考 毎時間、必ずテキストを持参してください。ディスカッション等には積極的に参加してください。

道徳の指導法

柄越 祥子

2年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

特別の教科「道徳」は、それ以前の「道徳の時間」と何が違うのでしょうか。そもそも、「道徳」とは何で、それを教科として学校の課程に設置することにどのような意味があるのか、そして実際にどのように授業を行っていけばいいのかを、歴史や現在の社会状況を踏まえて検討していきます。また実際の授業を構成展開していくために、模擬授業やグループワークを通じて考えていきます。

■到達目標（学修成果）

①道徳教育の歴史的背景を理解する。②中学校の「道徳」の学習指導案を作成する基礎知識を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス及び自身の道徳教育経験の振り返り	予習：シラバスの内容の確認。復習：授業内での話し合いを参考に自身の経験を振り返る。	15分
2回	学校体験の中での「道徳」と特別の教科「道徳」	復習：道徳が教科になるとこれまでとどう違うのか確認する。	30分
3回	明治期の道徳教育	復習：プリントを参考に、戦前の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
4回	教育勅語の発布と影響	復習：プリントを参考に、教育勅語の内容やその影響について確認をする。	30分
5回	国定教科書と戦前の道徳教育	復習：プリントを参考に、戦前の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
6回	戦後の道徳教育	復習：プリントを参考に戦後の道徳教育について確認する。	30分
7回	現代における道徳教育の課題	復習：プリント・教科書を参考に道徳教育の課題を確認し、まとめる。	30分
8回	「特別の教科道徳」の意義と学習指導要領の検討	復習：学習指導要領を熟読し、その特徴を整理する。	30分
9回	学校教育活動全体の中での道徳教育と「特別の教科道徳」	復習：要としての「道徳」の授業について確認する。	30分
10回	学習指導案の作成と学習評価	復習：学習指導案の書き方を確認し、作成する。	30分
11回	模擬授業と振り返り①道徳の授業のねらい（アクティブ・ラーニング）	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
12回	模擬授業と振り返り②子どもの心の成長と道徳性の発達（アクティブ・ラーニング）	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
13回	模擬授業と振り返り③教材の活用や発問・板書の検討（アクティブ・ラーニング）	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
14回	授業の振り返り	復習：ノート・配布資料などの整理、見直し	60分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）のフィードバック。	復習：試験問題の見直し	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に試験の解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」（最新版）文部科学省

■参考文献

好井裕明『他者を感じる社会学—差別から考える』ちくまプリマー新書（2020）

その他、授業中に適宜紹介します。

■オフィスアワー・研究室

前期：本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前夜 授業実施教室

■備考

なし

生徒指導論（進路指導を含む）

今泉 朝雄

2年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本科目は、学校の二大教育機能の1つである「生徒指導」と、生徒の生き方・あり方に関わる「進路指導・キャリア教育」の指導法を学習するものである。その意義や原理を理解した上で、生徒全体への指導方法（ガイダンス）、個別の課題を抱える生徒の指導方法（カウンセリング）の基礎をそれぞれ理解し、その具体的な対応方法を実践的に検討する。

■到達目標（学修成果）

- ①組織的に生徒指導を進め、生徒の自己指導能力を育成するために必要な知識・技術を指導実践に活用できるようになる。
- ②キャリア教育、進路指導についての実践指導、教育活動計画ができるようになる。
- ③生徒指導、進路指導・キャリア教育の視点に立った各授業等の構成、評価による指導改善の推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、組織の体制に関わるに必要な知識を指導実践に活用できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	生徒指導・進路指導・キャリア教育とは何か 基礎的概念を理解する	予習：生徒指導の概念を考える 復習：基礎概念の言葉を整理する	計2時間
2回	生徒指導の実際を知る ある生徒指導の日記から検討する	予習：生徒指導の経験を振り返る 復習：経験と授業の内容を結びつける	計2時間
3回	理想的生徒指導と管理的生徒指導 生徒指導と法律	予習：校則の内容について振り返る 復習：本時の内容の意見をまとめる	計2時間
4回	生徒指導と教育課程 全体計画と指導体制	予習：教育課程における生徒指導を検討 復習：指導体制についてまとめる	計2時間
5回	生徒指導の方法的基礎 教師のあり方と共感的理解、ガイダンスとカウンセリング	予習：教師はどうあるべきか考える 復習：事例を踏まえ本時を整理する。	計2時間
6回	生徒理解の方法とその活用 事例から考える	予習：よい教師の条件を考える 復習：本時の内容を整理する	計2時間
7回	生徒指導の課題とその指導1 いじめ問題への対応	予習：いじめ事件をネットで調べる 復習：対応策を自身なりにまとめる	計2時間
8回	生徒指導の課題とその指導2 日常生活の指導、集団活動の指導	予習：日常生活の指導を振り返る 復習：集団活動のあり方について整理	計2時間
9回	生徒指導の課題とその指導3 インターネットと生徒	予習：自身のネット利用を振り返る 復習：本時の課題について検討する	計2時間
10回	進路指導・キャリア教育の教育的意義とその内容	予習：進路指導の意味を振り返る 復習：予習内容と本時の内容を比較	計2時間
11回	進路指導・キャリア教育の教育課程における位置付けと全体計画	予習：キャリア教育の経験を振り返る 復習：全体計画を立ててみる	計2時間
12回	自分の将来を考える ガイダンス機能による指導のあり方	予習：ガイダンスの意味を復習 復習：ガイダンスの計画を立てる	計2時間
13回	職場体験とキャリア教育 教育課程にどう位置付けるのか	予習：職場体験を振り返る 復習：過去の経験と本時の内容を比較	計2時間
14回	進路指導・キャリア教育におけるカウンセリングと自己評価	予習：4.5回授業を復習 復習：実際の自己評価方法を検討	計2時間
15回	まとめ これから求められる教育と生徒指導・キャリア教育の意義	予習：全体の復習 復習：本科目の意義をまとめる	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

返却後授業内において解説する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

刊行日未定のため、授業内で提示する。

■参考文献

文部科学省『生徒指導提要』2022年12月

■オフィスアワー・研究室

授業後30分程度。あらかじめご連絡下さい。

■備考

なし

教科教育法基礎（家庭）

白井 勝美

2年 後期 教職課程必修 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

本学では、3年生の前期開講科目「教育方法論」及び後期の「教科教育法（家庭）」において、授業技術・方法についての考察を「家庭」という教科に視点を当てて実施して行く。この科目は2年次でその基礎作りをする。具体的には、ミニマイクロティーチング（3年次の内容とは違う）を通して、授業計画 授業実施 授業評価 授業改善に向けての基礎知識・方法を身に付ける。授業形態はすべて Active Learning である。

■到達目標（学修成果）

- ①ミニマイクロティーチングを通して、授業者を経験し授業方法等の課題が発見できる。
- ②実際の授業に向けて、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等基本技術を知る。
- ③授業後の視点表によって、生徒役の意見を聞き取り今後の課題が発見できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助なると考えている。

■授業計画

回数	授業内容(内容・目標が回を横断します。)	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	① ミニマイクロの準備 ②教科の目標確認を行なう。③学習形態や授業設計について知る。	復習：個人の発表日を確認して準備を開始する。	30分
2回	ミニマイクロの実施(教材の工夫⇒ICTを活用しての教材研究について知る。) Active Learning	予習：担当者は発表準備をする。 復習：「生きる力」の内容を確認する。	60分 30分
3回	ミニマイクロの実施(発問の仕方や板書の仕方について知る。) Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：「発問」と「質問」の違いを整理する。	60分 30分
4回	ミニマイクロの実施(ノート指導について知る。) Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：緊張感の緩和策を考える。	60分 30分
5回	ミニマイクロの実施(学習指導案の基本的な作成の仕方について知る。) Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：プレゼンシナリオの作成の重要性を整理する。	60分 30分
6回	ミニマイクロの実施(学習評価の基本について知る。) Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：授業技術の整理を行なう。	60分 30分
7回	ミニマイクロの実施(授業展開の工夫(山場・見せ場等)について知る。) Active Learning	復習：授業内容を復習する。教材教具の必要性について考える	60分
8回	ミニマイクロの実施(3年次の教科教育法(家庭)に向けての課題整理を行なう。) Active Learning	復習：授業資料を振り返る 今後の課題についてまとめる。	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

各授業時に授業技術ポイントについてコメントと解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
ミニマイクロの実施	30%
提出物	20%
ペーパー試験	20%

■教科書

担当者がプリント資料を準備する。

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日(11時00分～14時00分 教務課)

研究室 研究棟4階 教育実習研究室

■備考

教職課程と専門課程を両立すること。安易な気持ちで履修しないこと。出席を重要視するので、日頃の体調管理に気をつけること。

教育現場での ICT 活用

小林 輝明

2年 後期 選択 教職課程必修 (1単位 講義)

■授業の方針・概要

教育現場における ICT (情報通信技術) の活用について、小中学校教員としての実務経験を活かし、これまでの経緯と「GIGA スクール構想」によって児童・生徒に 1 人 1 台の端末配布が進んでいる現状に基づいて、授業における児童・生徒および教員による ICT 活用の他、端末を効果的に使った教材研究・指導の準備と授業中の指導、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、変化の激しい情報社会を自ら生きていくために必要な資質・能力である情報活用能力について、基礎的な理解、具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて解説する。本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介に加え、受講生が自ら ICT 機器を活用し実践的かつ体験的に学修する。

■到達目標 (学修成果)

- (1) 教育現場における ICT 活用の意義や理論について理解できるようになる
- (2) ICT を活用した教科指導や校務の実践を体験することで、授業への活用を具体的に考えられるようになる
- (3) 情報活用能力を育成する意義および情報モラルなどを指導できる能力を身に付けられるようになる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教職課程を履修している学生には必修の授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション 現代社会における ICT の役割 授業の進め方について、発表内容と順番の決定	復習：キーワードの確認、教科書を読む	復 2 時間
2回	教育における ICT と教師の ICT 活用能力 情報モラル・情報セキュリティ教育の重要性	予習：学習指導要領の確認 復習：視聴覚教材の内容復習	予 1 時間 復 1 時間
3回	授業や校務での ICT の活用① 授業や校務における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予 1 時間 復 1 時間
4回	授業や校務での ICT の活用② 授業や校務における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予 1 時間 復 1 時間
5回	授業や校務での ICT の活用③ 授業や校務における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予 2 時間 復 2 時間
6回	授業や校務での ICT の活用④ 授業や校務における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予 2 時間 復 2 時間
7回	授業や校務での ICT の活用⑤ 授業や校務における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：実施方法や発表案の検討 復習：実施方法や発表案の検討	予 2 時間 復 2 時間
8回	まとめと教職への進路設計 AI の活用 教職の意義を考え、今後の進路設計をする	予習：教職までの道程の確認、AI 導入の検討	予 1 時間

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

最終授業及びメール等を用いて行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ICT “超かんたん” スキル 時事通信社

■参考文献

授業内で紹介します

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課 出講日：土曜日

■備考

なし

博物館経営論

丸山 憲子

2年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館の経営について学習する。多様化する博物館の経営体制について認識を深め、今日の博物館経営をめぐる諸相を把握し、今、博物館に何が求められているのか、また博物館本来の存在意義について学習する。

■到達目標（学修成果）

- ・博物館の適切な機能や経営体制の把握
- ・ミュージアムマネジメントについての基礎的事項の理解
- ・現代博物館を多角的な視点で考察できることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館経営論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	ミュージアムマネジメントの意義について学習する。	予習：教科書の博物館経営論部分を読んでおくこと。 復習：ミュージアムマネジメントについてまとめておくこと。	60分
3回	博物館法について学習する。	復習：博物館法の復習	30分
4回	独立行政法人立等、設立母体について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	指定管理者等、設立母体について学習する。 設立母体についてのまとめ（小テスト）	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
6回	博物館評価について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
7回	博物館の館内組織・館外組織について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
8回	博物館の施設・設備について学習する。	予習：インターネット上で博物館建築をリサーチしておくこと。復習：配布資料の読み返し。	60分
9回	博物館におけるマーケティングについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、マーケティングについてまとめておくこと。	30分
10回	ミュージアムショップやレストラン等アメニティという側面から学習する。	予習：インターネット上でミュージアムショップ、レストランをリサーチしておくこと。 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	60分
11回	今日の社会状況を踏まえた博物館の課題について学習する。	復習：配布資料の読み返し、博物館をめぐる課題をまとめておくこと。	30分
12回	まとめ（小テスト）及びプレゼンテーションのための説明。	復習：配布資料の読み返し、全体の振り返り	90分
13回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション・ディスカッション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	90分
14回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション・ディスカッション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り・プレゼンテーション準備	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験・プレゼンテーションの後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献

随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考

積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。

博物館資料論

丸山 憲子

2年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館において資料は必要不可欠な存在である。どんな博物館でも「資料」を有し、コレクションをなしている。今日の博物館のコレクションは多種多様であり、一口で「博物館」と言ってもその範囲は極めて大きい。本講では現代博物館が扱う資料（コレクション）について、博物館の歴史とともに体系的に学習する。また、資料収集・整理保管・調査研究・教育普及という4つの博物館機能（活動）を通して、いわゆる実物（1次資料）から2次資料が発生していくことを理解し、それぞれの機能（活動）における1次資料・2次資料の特性・役割を学習する。

■到達目標（学修成果）

博物館資料の様々な特性を理解し、博物館活動にとって必要なもの・ことを認識できるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館資料論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	博物館の成立背景に見られる資料についての事例を挙げ、博物館＝資料の存在を認識する。	予習：教科書の博物館資料論の部分を読んでおくこと。	30分
3回	1次資料と2次資料の博物館活動における役割、及び資料の価値について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
4回	1次製作資料として分類される実物製作資料と情報製作資料について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	1次標本資料（1）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。」	30分
6回	1次標本資料（2）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
7回	1次資料についてのまとめ（小テスト） 2次資料（1）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。 博物館へのフィールドワーク。博物館資料の実態を見学、ディスカッション準備。	60分
8回	2次資料（2）について学習する。 博物館資料についてのディスカッション。	復習：ディスカッション整理	60分
9回	2次複合製作資料について学習する。 2次資料についてのまとめ（小テスト）	復習：語句の整理をしておくこと。	60分
10回	博物館機能を再確認する。 資料の収集について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
11回	資料の整理保管について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
12回	資料の調査研究活動について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
13回	教育普及という観点から、資料のもつ意味とその効果について学習する。	復習：配布資料の読み返し、教育普及活動のまとめをしておくこと。」	30分
14回	資料の取り扱い、及び運搬という観点から学習する。 博物館機能のまとめ（小テスト）	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験の後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献 随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。

博物館資料保存論

榊 規彰

2年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館資料論を基礎として、博物館資料の保存の意義、目的、資料保存の前提としての劣化要因とその対策、資料の材質に応じた劣化対策、保存技術等について、論理的に授業を進めます。

■到達目標（学修成果）

学芸員が日常的に取り扱う博物館資料について、収集、保管、調査研究、展示他の活用といった博物館機能の各局面において、資料保存の理論と実践法を習得し、時代に適応できる博物館学芸員としての資質を得られるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、学芸員資格取得のための必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館資料保存の意義、目的	予習 シラバスを事前に目を通す	30分
2回	博物館資料の種類と特性	復習 博物館資料の種類と種類ごとの特性について確認する。	30分
3回	文化財保護と博物館資料1	復習 文化財と博物館資料の関係について確認する。	30分
4回	文化財保護と博物館資料2	復習 博物館資料と文化財保護の関係について確認する。	30分
5回	博物館史にみる資料保存の方法	復習 博物館史上の伝統的保管方法について確認する。	30分
6回	博物館資料の材質による劣化と対策1 瞬間的・破壊的な劣化(人災、天災)	復習 人災や天災による瞬間的・破壊的な劣化と対策について確認する。	30分
7回	博物館資料の材質による劣化と対策2 緩慢、確実に進行する劣化①(温湿度、大気等)	復習 温湿度の変化、大気中の粉塵等の影響・対策について確認する。	30分
8回	博物館資料の材質による劣化と対策3 緩慢、確実に進行する劣化②(汚染物質、薬品類、光等)	復習 大気中の汚染物質及び薬品類、光等の影響・対策について確認する。	30分
9回	博物館資料の材質による劣化と対策4 緩慢、確実に進行する劣化③(虫害、黴菌類等)	復習 虫害及び黴菌類等の影響・対策について確認する。	30分
10回	博物館資料の修理と修復	復習 博物館資料の修理・修復の必要性とその方法について確認する。	30分
11回	博物館資料の保存環境(収蔵施設・展示施設等)	復習 博物館資料の保管・展示に適した施設の条件について確認する。	30分
12回	博物館資料保存のための科学技術1	復習 博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
13回	博物館資料保存のための科学技術2	復習 博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
14回	博物館資料の取扱い1(資料取扱い上の留意点等)	復習 博物館活動の様々な局面における資料取扱い上の留意点を再確認する。	45分
15回	博物館資料の取扱い2(展示ほかの活用等)	復習 展示他の活用の局面での資料保存を前提とする取扱い法を確認する。	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業時間中に小試験を実施し、出題の意図及び模範回答等について解説し、理解・習得の促進をサポートします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業への取組みは、出欠状況を中心に受講態度、取組状況等評価します。授業内試験を実施し、講義内容の理解度を測定し、成績判定に活用します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

本田光子・森田 稔 『博物館資料保存論』、青木 豊 編 『人文系博物館資料保存論』

■オフィスアワー・研究室

土曜日（講義時間 14:55～16:05）第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

なし